特254
949

紀元二千六百年
創立四十周年記念誌

新潟縣長岡女師範學校
校友會
同窓會

始

特 254
949

創立四十周年記念誌

紀元二千六百年

新潟縣女子師範學校全圖
創立當時の校舍（藤巻廳月先生畫）

新潟縣長岡女子師範學校
校友會
同窓會

巻頭言

我が校創立四十周年が、恰かも皇紀二千六百年と云ふ目出度い年、且は教育勅語御下賜五十周年にあたることは奇しくも、有り難い極みである。

個人主義的國家の利己的行動に依つて將來された世界不安を一掃し、八紘一宇の精神に基く道義世界を建設せんとして我が國は起ちあがつて居る。洵に有史以來、未だ嘗て觀ることを得ざりし大事業である。隨つて此の難事業完遂の爲に、我等は長期に亘り、有ゆる苦患に甘ずる鐵の決心がなければならぬ。

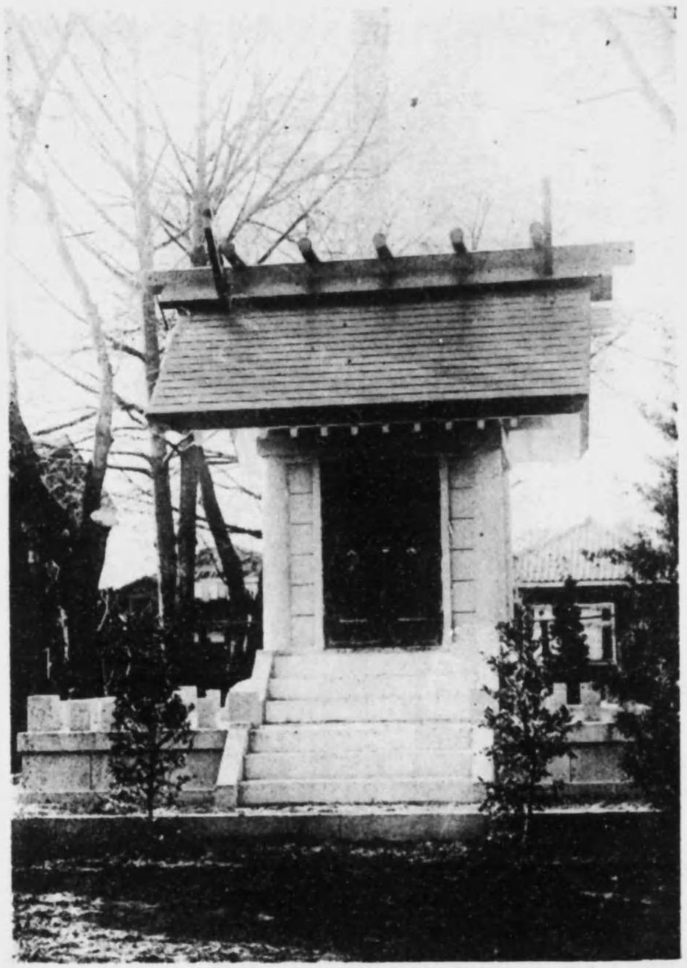
此の時に當り、我等は卒業者たると現校者たるとを問はず、緊密なる協力の下に四十周年記念式を擧げ、且つ種々の事業をも取り行つた。之れは要するに、一は以て我が學園の今日あるを致されし初代校長以下前職員並に卒業生の努力に感謝し、一は以て反省に依り今後にそなへ、覺悟を新にせんとするに外ならない。四十年は人生不惑にあたる。恰かもよし、我等一同は此の新なる覺悟を以て、聖業完遂の爲に奮迅の努力を傾けんとするものである。

集錄するところのもの、時局柄努めて抑制したけれども、備忘の意味を以て後日にそなへんとするのである。

新潟縣長岡女子師範學校長　田中宗市

創立四十周年記念誌目次

題字……田中校長
巻頭言……學校長……田中宗市
記念寫眞
式辭・告辭・祝辭……一
記念行事……一五
概況、記念式、表彰式、祝賀會、音樂會、展覽會、運動會、奉安殿築造
回顧感想
舊職員欄
回顧……第二代校長……川面松衛……二三
創立四十周年を祝す……第六代校長……赤木愛太郎……二五
所感……第七代校長……平賀吉治……二六
思ひ出……舊客員……植村くに……二七
思ひ出の二、三……舊客員……大石新……二九
同窓會員欄……三一
現職員生徒欄
回顧……客員……福本方尙……四二
漫々的と沒法子……客員……高月桂次郎……四二
在校生……四四
本校沿革……五〇
記念事業寄附者芳名錄……七一
記念事業會計報告……八六
同窓會本部報……八七
校友會部報……八九
後記……九五



奉安殿

田中現校長

被表彰者

記念式

歷代校長

初代 廣瀬校長

二代 川面校長

三代 田名部校長

四代 山村校長

五代 野上校長

六代 赤木校長

七代 平賀校長

八代 田鍋濱校長

式辭

光輝アル紀元二千六百年ニ當ツテ奇シクモ我ガ校ハ創立四十周年ヲ迎ヘマシタガ、茲ニ記念式ヲ擧行スルニ方リ文部大臣代理官並ニ知事閣下ヲ始メ朝野多數ノ貴賓ノ御來臨並ニ同窓會員ノ御參集ヲ辱ウ致シマシタ事ハ感謝ニ堪ヘナイ次第デアリマス

顧ミレバ本校ハ明治十二年七月新潟師範學校ノ分場トシテ創設セラレ、明治三十三年四月獨立シテ新潟縣女子師範學校ト稱シ、同年八月新潟市ヨリ長岡市(當時町)ニ移轉シタノデアリマス。當時生徒數ハ僅カニ百四名ノ少數デアツタノデアリマス。附屬小學校ハ同年九月、附屬幼稚園ハ翌年三月ニ開カレタノデアリマス。本校舍ハ明治三十四年五月約二ケ年ノ時日ヲ閱シテ完成サレ、次イデ明治三十九年四月一日校名ヲ新潟縣長岡女子師範學校ト改稱サレタノデアリマス。

爾來發展ノ一途ヲ辿リ最近ハ、尋常科正教員ノ爲臨時教員養成講習所並ニ女子青年學校教員養成所モ併設セラレ、今ヤ本校生徒數二七五名、附屬生徒數二八五名、附屬幼稚園兒六〇名ニノボツタノデアリマス。過去四十年間ニ幾多ノ變遷ガアリマシタガ、其ノ間當局ヤ一般ノ方方ノ御支援ト歷代校長並ニ教職員ノ一致協力ノ奮鬪努力ト生徒諸子ノ自肅自奮ニヨリ善美ナル校風ヲ樹立スルコトヲ得テ以テ今日ニ至ツタノデアリマス。而シテ卒業生ハ三〇六四名ノ多數ニ上リ職ニ就イテハ國民教育ノ爲ニ日夜刻苦精勵シ、家ニアツテハ孝子良妻賢母トシテ婦德ノ實踐ニ努メ、以テ縣下否全國各地ニ於テ國民文化ノ向上ノ爲ニ貢獻セラレテヰルコトハ、邦家ノ爲御同慶ニ堪ヘナイ次第デアリマス。殊ニ明治四十年七月五日ニハ　閑院宮殿下同妃殿下ノ御臺臨ヲ、昭和九年七月十五日ニハ東久邇宮殿下竹田宮殿下ノ御成ヲ仰イダ事ハ本校ノ此ノ上モナイ光榮デアリマシテ、我等ノ感激ニ堪ヘナイ所デアリマス。

斯樣ニ日進月歩ノ隆昌ヲ見タノハ偏ニ聖代ノ御恩澤ニ外ナラナイガ、又本省並ニ本縣當局ノ御指導御鞭撻ト縣民各位ノ御援助ニヨルコトモ少クナイ事ト思ヒ茲ニ謹ンデ謝意ヲ表スル次第デアリマス。

而シテ今ヤ紀元ハ二千六百年、教育勅語御下賜滿五十周年ニ當リ、支那事變モ第四年目ヲ迎ヘテ東亞新秩序ノ建設モ着々其

ノ歩ヲ進メツツアリ、外ニハ歐洲ニ於テ世界第二ノ大戰ガ勃發シ、獨逸ハ電撃戰ヲ以テ英佛聯合軍ヲ撃破シテ今ヤパリーニ入城シ益々武運ヲ輝カシツツアリ、伊亦參戰シテ愈々戰果ハ擴大シ前途亦慶賀ヲ許サザル狀態デアリ、內ニハ經濟界モ漸ク多事ナラントスル情勢ニ立チ至ツテ居リマス。凡ソ現下ノ世界不安ハ其ノ因由スル所種々アラントモ根本ハ、自己本位ニシテ自家ノ利害打算ニ偏セル個人主義國ノ將來セル所ト謂フモ差支ナイデアリマセウ。ソレモ大御親ヲ有タナイ諸外國トシテハ致シ方モアリマセン。我等日本臣民ハ肇國以來大御親ノ限リナキ御慈愛ニ依テ人間的●道義的デアリマス眞ノ平和ハ此ノ道義ニ依ルニアラザレバ到底望ムコトハ不可能デアリマス。然リ而シテ道義的訓練ハ教育中デモ幼少ノ時ヲ以テ最トシマス。サレバ我ガ學園ノ卒業者ハ皇國臣民ノ道義的訓練ノ上ニ何人ニモ增シテ重大ナル責務ヲ有スルモノデアリマス。過去ニ於テ爲セル所ニモマシテ、我等ノ責務ハ內ニ外ニ愈々重キヲ加フノデアリマス。

今玆ニ、四十周年記念式ヲ擧行スルニアタリ本校創立ノ精神ヲ回顧シ、自覺ヲ新ニシ、更始一新ノ意氣ヲ以テ教育報國ノ誠ヲ致シ以テ、陛下ノ大御心ニ應ヘ奉ランコトヲ期スル次第デアリマス。

昭和十五年六月十六日

新潟縣長岡女子師範學校長　田中宗市

告辭

本日玆ニ創立記念日ヲトシ四十周年記念式ヲ擧行セラル、ニ當リ多數ノ關係者各位ト其ノ喜ヲ頒チ且所懷ノ一端ヲ述ブルノ機會ヲ得マシタ事ハ衷心欣快トスル所デアリマス。

顧ルニ本校ハ明治三十三年新潟縣女子師範學校トシテ新潟縣尋常師範學校ヨリ分離獨立シ此ノ地ヲトシテ校舍ノ新築ヲ見百四

名ノ生徒ヲ收容シタルヲ以テ其ノ濫觴トナシ以來附屬小學校並幼稚園ノ開設ヲ始メ次第ニ施設ノ擴充、內容ノ整備ヲ遂ゲ今ヤ二百七十五名ノ生徒ヲ收容シ臨時教員養成所女子青年學校教員養成所ノ併設ヲ見ル等校運愈々隆盛ニ赴キツツアリ卒業生又既ニ三千名ヲ超エ各々本縣教育界ニ多大ノ貢獻ヲナシツツアルコトハ洵ニ慶祝ニ堪ヘヌ所デアリマス。

玆ニ其ノ光榮アル四十年ノ歷史沿革ヲ靜ニ回想致シマス時轉々感慨ノ禁ジ得ナイモノガアリマスト同時ニ歷代學校當局ノ努力ト關係者各位ノ熱誠ナル後援ニ對シ深甚ナル敬意ト感謝ノ意ヲ表スル次第デアリマス。

今ヤ皇國ハ肇國ノ大精神ニ基キ東亞新秩序建設ノ聖業ノ完遂ニ邁進シツツアルノデアリマスガシカモ歐洲ヲ始メ世界ノ情勢ハ愈々複雜ヲ極メ其ノ前途豫斷ヲ許サヾルモノアリ、眞ニ非常時局ヲ深刻ニ感ズル次第デアリマシテ肇國一致之ガ打開ニ最善ノ努力ヲ傾倒スベキノ秋デアリマス。

思フニ教育ハ國家百年ノ大計ノ根基ヲナスモノデアリ國運隆昌ノ淵源ニ培フモノハ小學教育ニアリト考ヘラレルノデアリマシテ特ニ忠良ナル皇國臣民ノ錬成ガ其ノ中心トナラナケレバナラヌト信ズルノデアリマス。

愈々國民學校ノ實施モ近カラントスルノ時之ガ指導ノ任ヲ有セラルヽ師範學校ノ責務ハ益々重キヲ加ヘタルモノト言ハネバナリマセン。

希クハ學校當局又思ヲコヽニ致シ本日ノ式典ヲ契機トシテ愈々敎育報國ノ誠ヲ致シテ生徒ノ敎養練成ニ努メ生徒諸子亦質實剛健ノ氣風ヲ振作シテ大國民養成ノ任ニ耐ヘ得ル修養ヲ積ミ以テ四十年ノ光榮アル歷史ニ更ニ光輝ヲ添ヘラレンコトヲ切望スル次第デアリマス。

一言述ベテ告辭ト致シマス。

昭和十五年六月十六日

新潟縣知事　安井誠一郎

祝辭

本校ハ、創立以來茲ニ四十年、本縣普通教育ノ淵叢トシテ兒童教育ノ重キニ任ジ、校運歲ト共ニ隆昌ニ趨キ、多數有爲ノ卒業生ヲ出シテ優秀ナル成績ヲ擧ゲ、教育ノ發達ニ寄與セシトコロ極メテ大ナリトス。

恰モ紀元二千六百年ニ當リ、本日茲ニ創立四十年記念式ヲ擧行シ既往ノ業績ヲ回顧シ先人苦心ノ迹ヲ繹ネテ報本反始ノ至情ヲ披瀝シ以テ、將來ノ發展ヲ期セラルルハ時宜ヲ得タル擧措ニシテ、洵ニ慶賀ニ堪ヘザルトコロナリ。

今ヤ東亞新秩序ノ建設日ニ進捗スト雖モ、邦家ノ前途尙ホ多事ニシテ教育ノ振興ニ俟ツトコロ愈々切ナルノ秋本校ノ使命眞ニ大ナリト謂フベシ。

冀ハクハ職員各位生徒諸子、本日ノ盛儀ヲ迎ヘタル意義ト各自本分ノ存スルトコロニ稽ヘ特ニ、日本女性ノ天職ニ察シテ婦道ノ體得長養ヲ目指シ、女子教育者タルノ資質錬成ニ努メ、醇厚純美ナル校風ヲ發揚シ以テ、皇運扶翼ノ赤誠ヲ竭サレムコトヲ。

昭和十五年六月十六日

文部大臣　松浦鎭治郎

祝辭

創業ノ難ヲ顧ミ守成ノ勞ヲ思ヒ以テ將來發展ノ策ヲ講スルハ卽チ之レ創立記念式擧行ノ本旨ナルヘシ

本校創立セラレテ茲ニ四十年其ノ間眞摯熱心ナル教育者ヲ輩出シ男子師範ト相俟ツテ本縣初等教育界ヲシテ嶄然頭角ヲ拔キ全國ニ重キヲナサシメタルハ誠ニ國家ノ爲慶賀ニ堪ヘズ

惟フニ教育ハ國家百年ノ大計ニシテ國運ノ隆昌社會ノ發展一トシテ其ノ力ニ俟タサルハナシ

殊ニ小學教育ハ國民錬成ノ基礎國本培養ノ淵源タルヲ以テ使命トスル師範教育ノ任務ハ重且大ナリト謂フヘシ

今ヤ我ガ國ハ新東亞建設ノ重大時期ニ直面シ斯道ノ振作愈々緊切ヲ加フルニ方リ本校ガ四十周年ヲ記念シ光榮ノ歷史ヲ繙キ更ニ將來ニ向ツテ倍加ノ躍進ヲ企圖セラルルハ意義洵ニ深キモノアルヲ感ゼズンバアラズ

本日此ノ盛典ニ列シ本校ノ偉大ナル貢獻ニ對シ深甚ナル敬意ヲ表シ其前途ヲ祝福シテ祝辭トナス

昭和十五年六月十六日

新潟縣會議長　關矢孫一

祝辭

本日新潟縣長岡女子師範學校ガ創立四十周年記念式ヲ擧行セラルル、ハ洵ニ慶賀ノ至リデアリマス。又、私モソノ席末ニ列シマシタコトヲ光榮ニ存ジマス。當女子師範學校ハ明治三十三年ニ創立セラレ爾來歷代學校當事者諸君ガ拮据經營、校務ニ鞅掌シ、生徒ノ薰陶ニ全力ヲ注ガレ四十年ノ間已ニ三千有餘名ノ優秀ナル卒業生ヲ出シ縣内ノ國民教育ノ上ニ多大ノ貢獻ヲナサレタノデアリマス。加之昭和十三年尋正講習科ヲ增設サレテ縣下初等教育ノ發展ニ備ヘ、本年亦女子青年學校教員養成所ノ併置ニ及ビ益々女子教育振興ノ爲メ努力セラレ、其ノ業績著シキモノガアリマス。是レ、今日光輝アル過去ヲ追憶スルト共ニ一層多幸ナルヘキ將來ヲ慶祝セントシテ此ノ盛大ナル記念式ヲ擧グラレタル所以ト存ジマス。

凡ソ國運ノ伸張、文化ノ進展ガ國民智德ノ增進ニ俟ツベキコトハ玆ニ更メテ申スマデモアリマセヌ。教育ガ經國ノ事業タル理由モ亦コゝニ存スルモノト存ジマス。

由來女子ノ教育ハ國ノ東西ヲ問ハズ、男子ノソレニ比シ普及●進歩ノ程度ガ遲レテヰルハ事實デアリマスガ眞ニ國家ノ隆運ヲ期スルニハ男女ノ教育ガ提携スルコトニヨツテオ互ノ長所ヲ發揮スルコトニアリマシテ本縣モ幸ヒ男子ニ匹敵シテ女子教育

進展ノ氣運ヲ示シ最近特ニ生徒數ノ增加著シイヤウニ聞イテヰマスガマコトニ慶賀スベキ現象デアリマス。殊ニ、又近時教養アル婦人ガ家庭ノ人トナル外社會ノ各種職業ニ從事スルモノ漸ク多キヲ見マスガ蓋シ女子ガ教育事業ニ從事スルホド品ヨク且ツフサハシイモノハアリマセン。中ニモ比較的幼弱ナル兒童ヲ對者トスル初等教育ガ最モ女子ノ本性ニ適シテヰルト考ヘマスカク考ヘマストキ本校ノ使命モ亦格別ナ意義ヲ持ツモノト存ズルノデアリマス。

惟フニ我ガ國ノ現狀ハ內外極メテ多事ニシテ擧國緊張ヲ要スル非常時デアリマス。時難ヲ匡救シ國運ノ隆昌ヲ圖リ肇國ノ理想ヲ宇內ニ顯揚センタメニハ社會萬般ノ人々ノ總努力ヲ要スルコトハ申スマデモアリマセンガ、就中健全ナル國民ヲ養成スルコトガソノ根本方策デナケレバナリマセン。而シテ健全ナル國民ヲ養成スルニハ家庭生活ヲ健全ナラシムルヨリ先ナルハナシト考ヘマス。然ルニソノ健全ナルベキ家庭生活ガ動モスレバ廢頽シ婦德モ亦往々ニシテ其ノ歸趨ヲ失ハントスル時、女子教育ノ健全ナル發達コソ今日ノ急務ト申サネバナリマセン。當校ノ如ク過去ニ於テ本縣女子教育ノ中樞トシテ輝カシイ功績ヲ擧ゲタルモノハ多難ナル現下ノ情勢ニ照シ考ヘテ舊時ニ倍スル努力ヲ以テ事ニ當リ新奇ニ奔ラズ、固陋ニ陷ラズ、中正醇厚、貞淑溫雅ニシテ德操識見アル優秀ノ女子敎育者ヲ養成シ、生徒諸子モ亦一層修養ニ力メテ校運ヲシテイヤガ上ニモ發展セシメ昭代ノ惠澤ニ應ヘ奉ルヤウ一致協力セラレンコトヲ希フテ已ミマセヌ。

聊カ所懷ヲ述ベテ祝辭ト致シマス。

昭和十五年六月十六日

長岡市長　松田耕平

祝辭

本日、新潟縣長岡女子師範學校創立四十周年記念式ヲ擧行セラルヽニ當リ、一言祝辭ヲ述ブル機會ヲ得マシタ事ハ衷心欣幸トスル所デアリマス。

顧ルニ本校ノ創立ハ淵源スル所極メテ遠ク、其ノ前身ヲモ加ヘマスト實ニ六十有餘年ノ古ク且ツ久シイ歷史ヲ有ツテ居ルノデアリマス。其ノ間幾多ノ變遷ヲ經テ校礎愈々堅固ニ、校運益々隆盛ニ、卒業生ヲ送ル事實ニ三千六十有名ニ及ビ、現ニ國民敎育ノ第一線ニ活躍シツヽアルモノ一千四百名ノ多キヲ數ヘ、是等多數ノ卒業生諸姉ガ本縣初等敎育ニ致サレタル功績ハ眞ニ顯著偉大ナルモノガアルノデアリマス。誠ニ國家ノ爲メ慶賀ニ堪ヘマセン。

思フニ國家ノ興隆發展ハ健全ニシテ強固ナル國民精神ノ涵養振作ニアルコト論ヲ俟チマセン。而シテ之ガ涵養振作ハ固ヨリ國民敎育ノ徹底ニ俟タネバナラナイノデアリマス。殊ニ今ヤ我ガ國ハ擧ゲテ東亞新秩序建設ノ聖業完遂ニ一意邁進致シテ居ルノデアリマスガ、コノ大業タル決シテ短時日ノ間デ能ク達成シ得ベキ所デハアリマセン。加フルニ世界ノ情勢ハ日ニ緊迫ヲ告ゲ、歐洲ノ野ハ已ニ戰火ノ巷ト化シテ居リマス。此ノ秋ニ當リ現在並ニ將來事ニ敎育ニ從フ者ノ責任洵ニ重且ツ大ナリト言ハネバナリマセン、本校職員生徒並ニ關係者各位深ク思ヲ玆ニ致サレ、師範學校本來ノ使命ヲ十分ニ認識セラレ、之ガ達成ニ努メ、益々校風ノ精華ヲ發揚シ光輝アル本校ノ歷史ニ更ニ一段ノ光彩ヲ添ヘ以テ本日ノ盛典ヲシテ一層意義アラシメラルヽ樣切ニ希

校ノ隆昌發展ヲ祝福シ、更ニ、現下ノ非常時局ニ對處シ、益々敎育報國ノ道ニ邁進セラレンコトヲ冀ヒ、以テ祝辭トナス。

皇紀二千六百年初夏吉日

師範學校長協會理事長
東京府靑山師範學校長　三國谷三四郎　敬白

祝辭

ツテ已マナイ次第デアリマス。

聊カ所懷ノ一端ヲ述ベテ祝辭ト致シマス。

昭和十五年六月十六日

新潟縣中等學校長代表

新潟縣立新潟中學校長　正五位勳五等　梅田三郎

祝辭

新綠愈々深ク初夏ノ薫風爽カナル本日、本校創立四十周年記念式ヲ擧行セラル、ニ當リ、不肖亦其席末ニ列シ祝辭ヲ呈スルノ光榮ニ浴シタルハ誠ニ欣懷ニ堪ヘザル所ナリ。

顧ミルニ本校ハ明治十二年女教員養成ノ目的ヲ以テ師範學校ノ分場トシテ創設セラレ、明治三十三年分離獨立シテ新潟縣女子師範學校ト稱シ、更ニ明治三十九年校名ヲ新潟縣長岡女子師範學校ト改稱セラレ、多少ノ變遷アリシト雖モ春風秋雨四十年校風隆々トシテ揚リ玆ニ今日ノ盛運ヲ見ルニ至ル。其間實ニ三千ヲ算スル溫雅清純ノ才媛ヲ輩出シ、育英事業ニ卓越セル業績ヲ殘シ、男子師範ト共ニ本縣文化ノ淵源ヲナシ、以テ國家ノ進運ニ貢献セラレツ、アル偉大ナル功績ハ吾人ノ感謝措ク能ハザル處ナリ。今ヤ皇軍ノ威武克ク抗日容共ノ蔣政權ヲ制シ、支那中央政權ノ樹立ヲ見、東亞新秩序ノ建設着々進行シツ、アリト雖モ　東亞ヲメグル國際情勢ハ益々重大性ヲ加ヘ、歐洲ノ戰火亦之ヲ對岸ノ火災視スルヲ許サズ。國民齊シク全力ヲ傾倒シテ奉公ノ至誠ヲ致スベキ秋ナリ。庶幾クハ本校並ニ本校卒業生諸姉ソノ使命ノ如何ニ崇高ニシテ其責務ノ如何ニ重大ナルカヲ自覺セラル、ト共ニ、榮譽アル本日ノ記念式典ニ當リ既往四十年ノ光輝アル歷史ノ跡ニ鑑ミ、更新ノ意氣ヲ以テ益々使命ノ達成ニ邁進セラレ國家ノ要望ニ副ハンコトヲ一言蕪辭ヲ述ベテ祝辭トナス。

昭和十五年六月十六日

新潟縣教育會長　近藤勘治郎

祝辭

本校創立滿四十周年、而モ一億國民擧ゲテ慶祝スベキ皇紀二千六百年ノ意義深キ年ニ當リ、盛大ナル記念祝典ヲ擧ゲサセラレタ事ハ誠ニ慶賀ノ至リデアリ、其ノ席末ニ列スルノ光榮ニ浴シタコトヲ喜ブモノデアリマス。

聖戰第四年興亞ノ大業其ノ緒ニ著クトハイヘ此ノ未曾有ノ時局打開ニハ尙幾多ノ難關ヲ突破シ永キ歲月ヲ要スルコトデアリ歐洲戰局モ亦イタリヤノ參戰ニヨツテ更ニ複雜ヲ極メ之ガ東亞ニ及ボス影響ニツキテモ豫斷ヲ許サザルモノガアリマス。

昨年五月廿二日畏クモ靑少年學徒ニ對シ優渥ナル勅語ヲ賜ハリ國家ノ將來ヲ双肩ニ負フベキ靑少年學徒ノ覺悟ト負荷ノ大任ヲ果スベキ道トヲ懇ニ昭示シ給フタコトハ誠ニ恐懼ノ至リト存ジマス。

事變以來戰線ニ銃後ニ男子ノナスベキ任務ガ倍加セラレ、且近時產業界ニ轉向スルモノ漸ク多キヲ加フル時、特ニ子女ノ敎養ニハ先天的ニ優秀ナル性能ヲ有セラル、女子敎育者ノ奮起ヲ待ツモノ切ナルモノガアリマス。縣下唯一ノ女子敎育者養成機關タル本校ハ、輝カシキ四十年ノ歷史ニ培ハレ幾多ノ人材ヲ輩出シテ縣下初等敎育界ニ貢献セラレタ事ハ、御同慶デアリ又感謝スルモノデアリマス。尙此ノ記念スベキ年ヲ迎ヘラレタコトヲ契機トシテ自重自愛一段ノ御精進ヲ願ヒ、又本校ニ學バル、生徒諸子ノ新ナル覺悟ヲ以テ御精勵、有爲ナ敎育者タラレンコトヲ切望シテ祝辭ト致シマス。

昭和十五年六月十六日

長岡高等小學校長　鷲頭正則

祝辞

時ハコレ、カケマクモ畏キ御事ナガラ　皇統連綿トシテ、茲ニ紀元二千六百ノ歳ヲ數ヘ、輿亞ノ大業ニ國民皐ツテ御奉公ヲ勵ミマスル年モ年、國民教育ノ源泉タル我ガ長岡女子師範學校ガ茲ニ創立四十周年ノ記念式ヲ擧ゲルニ至リマシタコトハ、過去ヲカヘリミ現在ヲ眺メマシテ、ウレシサ極マリナク感慨無量デゴザイマス。

日本ノ女性ハ明治ノ大御代ノ御恩澤ニヨリテ漸ク學校教育ノ必要ガ認メラレ、更ニ國家ノ礎タルベキ兒童ノ教養ニハ、女教師ノ必要デアルト言フコトガ漸次ニ社會ノ認識ヲ深メラルルニ至リ、明治三十四年ニハ新潟縣師範學校ノ女子部カラ獨立大擴張セラレテ、我ガ長岡女子師範學校ノ創立ヲ見、爾來茲ニ四十年ノ螢雪ヲ閲シ本校出身者ガ縣下ノ教育ニ盡シ、國運ノ隆昌ニ貢獻イタシマシタ力ハ、決シテ尠イモノデハゴザイマセン。之ニハ有難イ大御代ノ御洪恩ト歴代ノ校長先生ヲ首メ諸先生、及ビ關係ノ方々ノ粉骨碎身ノ御努力ノ結果ニヨルモノト、此ノ御盛儀ニ列シマシタ老齢ノ私ハ感涙ニ咽ブバカリデ御座イマス。今ヤ本校ノ卒業生ハ三千餘名ノ多キニ達シ日夜汲々トシテ國民教育ノ第一線ニ大任ヲツクサル、バカリデナク、女ノ博士女ノ視學トナラレタオ方モアリ、更ニ名流婦人トシテ將又健全ナル模範家庭ノ母トシテ主婦トシテ、カツテ本校ニ育マレタ力ヲ基トシテ均シク輝ク皇御國ノ御爲ニ女性ノ天分ヲ發揚シテ居ラレマスコトハ、創立四十年ノ喜ビヲ洵ニ大キクスルモノデゴザイマス更ニ現在ノ一部、二部、講習科、青年學校教員養成所等ノ多數ノ生徒サンハソノ志操カラモ頭腦カラモ体質カラモ眞ニ縣下各地ノ最優秀者デアラル、ト聽キ此ノ内容ノ充實シタ學校デ堅實ナ修養ヲナサルコトヲミテ　縣下教育ノ將來ノタメニ深イ〳〵賴母シサヲ感ジマス。

惟フニ學問智識ニハ時勢ト共ニ變ルベキモノト、國体ノ本義人間ノ本質カラシテ決シテ變ラヌモノトハイケナイモノガゴザイマス。科學常識百般ノ教養ハ師範生トシテハ世運進歩ニ魁ケテ改マリ進ムベキデセウガ、忠孝ノ大道ノ如キハ日月ノ天ニカ、ル如ク永遠不變ナモノデアリ、殊ニ婦人トシ女教師トシテハ孝道ヲ各自ノ家庭カラ實踐シテコソ日本ノ貴ク清イ家族主義ヲ層一層立派ニスルコトニナリ、其ノ教ヘ子ノ家庭カラ忠良ナ臣民モ國家ノ英雄モ人類ヲ救フ學者モ多クアラハレ益々日ノ丸ノ御旗ヲ輝スコトニナルト私ハ老ノ經驗カラ確信スルモノデゴザイマス。

尚コノ四十周年祝賀ノ記念トシテ御眞影奉安殿奉建ノ御企ヲシマシタコトハ最モ適當ナ御計畫デフサハシイコト、存ジマシテ、目出度ク竣工セラレンコトヲ祈ル次第デゴザイマス。

望ムラクハ國家隆昌ノ根本タル國民教養ノ大任ヲ担當スル本校卒業生及在校生ノ皆サン、益々誠心ヲ以テソノ本務ニ勵ミ本校歴代諸先生各位ノ御高恩ニ酬イマツルト共ニ、國家ノ御期待ニ沿ヒマツリ光輝アル本校ノ榮ヲ永久ニ仰ギマツランコトヲ、同窓ノ皆様ニ代リ聊カ感ズルトコロヲ述ベマシテ謹ミテ祝辭ト致シマス。

紀元二千六百年
昭和十五年六月十六日

同窓生總代　田中千之

祝辞

明カルイ陽ザシヲ受ケテ天地ノ綠ハトミニソノ色ヲ增シ、萬象希望ニ滿チ力强イ新生ノ營ミヲ示シテ居リマス。時恰モ榮アル皇紀二千六百年ノコノ佳キ日、多數朝野ノ貴賓並ニオナツカシイ同窓ノ皆々樣ノ御臨席ヲ得マシテ我ガ長岡女子師範學校ノ創立四十周年記念式ヲ迎ヘルコトノ出來マシタ事ハ私共一同ノコノ上ナイ喜ビデゴザイマス。

回顧シマスレバ四十年ノ昔我ガ校ハ女子部ガ新潟師範ヨリ分離獨立シテ新潟縣女子師範學校ト稱サレ長岡藩ノ城跡長岡町ニ動キナキ基礎ガ定メラレマシタ。爾來時勢ノ推移ト變遷ニ伴ヒ我ガ校モ歳ヲ追ッテ隆昌ヲ加ヘ堅實ナ校風ヲ築キ上ゲ縣下教育ニ貢獻シテ向上ノ一路ヲ辿リツヽ、今日ニ至リマシタ。清ク尊イ使命ヲ負ウテ純眞ナ幼キ人達ノ指導ノ任ニ當ラレテキル方ガ千

四百ニ充タントシテ居リマス。他ノ二千二百餘ノ卒業生ノ方々モ地方ノ指導者トシテ或ハ家庭ノ主婦トシテ良キ母トシテ夫々ノ道ニ御精進ニナツテヰラレマス。前線將士ノ活躍ニモ劣ラナイ非常時局ノ銃後ノ第一線ヲ守ル教育者ノコノ力强キ姿コソ眞ニ躍進日本ヲ指示スルモノト信ジテ居リマス。

此處ニオキマシテモ我ガ校ノ使命我々ノ責任ハ非常ニ重大デアルト申サネバナリマセン。今日ノ佳ト日ニ方リマシテ創立ノ昔ヲ偲ビ發展ノ跡ヲ辿リツヽ、先輩ノ皆々樣ノ努力ノ偉大サヲ知リマス時ヤガテハ尊ク重イ初等教育ニ携リ皇國民ノ錬成ノ任ニ當ルベキ私共ハ更ニ新ナル意氣ト希望トデ胸ノ高鳴ルヲ禁ジ得マセン。

コノ上ハ益々身体ヲ鍛錬シ堅實ナ志操ト學究的態度トヲ確立シ永久ニ誠實ノ歩ミヲ續ケ師範生タルノ本務ニイソシムコトヲ大キナ誇トシテ進ンデ行キタイト思ヒマス。

青葉薫ル初夏ノ候ニコノヨロコビノ日ヲ迎ヘ少シ感ズル所ヲノベテ祝辭ト致シマス。

昭和十五年六月十六日

新潟縣長岡女子師範學校生徒總代　小林チヅ子

祝辭

輝カシイ紀元二千六百年、皇運ハ年ト共ニ榮エテ、日本ハ今世界ノ日本トシテ新東亞建設ノ爲力强イ歩ミヲツヅケテ居リマスコノヨキ年、師範學校ガ創立以來四十年ノ長イ年月ヲ重ネテ本日玆ニ記念ノ祝典ヲ擧ゲラレルコトハ誠ニ意義深ク御目出度イ限リデアリマス。

承レバ明治三十三年當校ガ今ノ地ニ創立サレテカラ既ニ三千人餘リノ先生方ヲ世ノ中ニ送ツテ居ラレルサウデス。國ガ盛ンニナルモ衰ヘルモ教育ノ力デアルト聞イテ居リマスガ、當校ヲ出ラレタ多數ノ先生方ガ眞劍ニ第二ノ國民ヲ導カレマシタソノ努

力ハ日本ノ今ノ輝カシイ發展ノ上ニ非常ニ大キナ力トナツテヰルコトト思ヒマス。

カウシタ立派ナ本校ヲ持ツ、校運彌榮エテヰル今日、附屬小學校ニアツテ、御慈愛深イ校長先生初メ立派ナ先生方ニ敎ヘラレテヰル私達ノ幸福ハ何ニタトヘヨウモアリマセン。ジカシ私達ハ唯コノ幸福ニヨツテヰルモノデハアリマセン。

コノ名譽アル校風ヲ彌々高メ、コノ重大ナ時局ニ立派ナ國民トナツテ校歌ノ如ク國ノ楨柱トナリ皇運ヲ扶翼センコトヨリ一層決心ヲ固メルモノデアリマス。

附屬小學校兒童ヲ代表シ喜ビト覺悟ヲノベテ祝辭ト致シマス。

昭和十五年六月十六日

新潟縣長岡女子師範學校附屬小學校兒童代表　中澤典昌

祝電及び祝詞

東京文理科大學長	福島縣師範學校長
廣島文理科大學長	台北第一師範學校長
東京女子高等師範學校長	鳥取縣師範學校長
奈良女子高等師範學校長	兵庫縣師範學校長
東京府青山師範學校長	京都府師範學校長
東京府豐島師範學校長	高知縣師範學校長
廣島縣師範學校長	函館師範學校長
熊本縣師範學校長	愛知師範學校長

宮城縣師範學校長	
千葉縣師範學校長	
岐阜縣師範學校長	
山梨縣師範學校長	
山形縣師範學校長	
岡山縣師範學校長	
岡山縣女子師範學校長	
富山縣女子師範學校長	

大分縣女子師範學校長
鹿兒島縣女子師範學校長
福岡縣女子師範學校長
宮崎縣女子師範學校長
松本女子師範學校長
佐賀縣女子師範學校長
沖繩縣女子師範學校長
福島縣女子師範學校長
山口縣女子師範學校長
長崎縣女子師範學校長
鯖江女子師範學校長

青森縣女子師範學校長
岩手縣女子師範學校長
熊谷中學校長
田邊中學校長
小千谷中學校長
卷中學校長
新津高等女學校長
新潟盲啞學校長
新潟商業學校長
新潟夜間中學校長
佐渡農學校長

柏崎農學校長
直江津高等女學校長
高田高等家政女學校長
新潟市小學校長會
村上町小學校長
葛卷小學校長
小柳みよ
東京加藤
西岡

記念行事

概況

古い傳統を誇る新潟縣師範學校女子部が、新潟縣の中心たるこの長岡に學園を移し獨立の歩みを始めてより、星霜こゝに四十年。恰も紀元二千六百年の佳辰に際會し吾等の光榮と歡喜は正に頂點に達した。過去を顧み、現在に眼を注ぎ、將來を眺めるとき、諸先輩の光榮は燦として輝き、東亞新秩序を建設すべき重責は亦吾等の双肩に懸つてゐる。こゝに四十周年を迎ふるに際し、先人の功績を偲び、將來への覺悟を固くすべく六月十六日創立四十周年記念式典を擧行し、種々の記念行事が行はれた。今その概況を左に記さう。

○慰靈祭　午前八時　於明強舍
○記念式　午前十時　於講堂
○表彰式　午前十一時　於講堂
○祝賀會　午前十一時三十分　於体育館
○音樂會　午後一時　於講堂
○展覽會　十六・十七兩日　於本館全教室
○運動會　十月十三日午前八時　於本校運動場
○奉安殿築造

慰靈祭記

本校舊職員並びに同窓會員、生徒、兒童にして在天せられたる各位の慰靈祭は、本校創立四十周年記念式を擧げるに當り、六月十六日午前八時神式により本校明強舍に於て遺族・同窓會員・職員・生徒兒童代表參列の許に嚴肅に執行されました

式次第

一、兒童生徒代表、同窓會員代表、職員着席
二、遺族着席
三、修祓　齋主
四、招魂
五、献饌
六、祝詞　齋主
七、祭文　學校長
八、玉串奉奠　齋主　齋員拜禮
學校長　職員拜禮
遺族代表　遺族拜禮
同窓會員代表　同窓會員拜禮
在校生徒代表　生徒兒童拜禮
九、撤饌
一〇、送魂
一一、遺族代表挨拶
一二、學校長挨拶
一三、一同退場

生徒職員入場、同窓會員の方々も續々とお出でになり、遺族の方々も多數お見えになりました。八時、嚴々と響く笛の音の中に齋主入場され修祓が行はれ招魂式に移りました。愈々澄きつた笛の音以外には物音一つしない靜けさの中に正面の御簾があげられ幕が開かれ在天の方々がお出でになつたのです。滿場敬虔な空氣が漲りました。祝詞、祭文が嚴かにあげられ玉串奉奠に移りました。私共は心から御功績を讀へ御冥福をお祈り致しました。撤饌、送魂式。次に遺族代表の故藤卷先生夫人の挨拶。短い言葉にこめられた深いものを私共は頭垂れてお聞きしました。次いで校長先生の挨拶。又初めの樣に笛の音と共に齋主退場、遺族、同窓會員、職員退場。私共も深い感慨にうたれつゝ退場し、この慰靈祭を終りました

慰靈祭祭文

茲ニ昭和十五年六月十六日ヲトシ、本校創立四十周年記念式ヲ擧グルニ當リ、謹ンデ壇ヲ設ケ、種々ノ御酒、御饌ヲ供ヘ奉リ、本校舊職員、卒業生、生徒、兒童種々ノ在天ノ神靈ニ告ゲ白ス。

顧レバ、本校ハ明治三十三年創立セラレ、爾來發展ノ一途ヲ辿リ、卒業生ハ三千六十四名ノ多數ニ上リ、職ニ就キテハ克ク國民教育ノ重任ニ當リ、家ニ在リテハ孝子・良妻・賢母タリ。而シテ、今ヤ四十周年ノ記念式典ヲ擧行スルノ盛儀ニ際會セリ。然ルニ此ノ尊キ歷史ヲ作リ、我等ト共ニ此ノ光榮ヲ分ツベキ各位ハ、已ニ幽明境ヲ異ニシ、此ノ慶ヲ俱ニスルコト能ハズ。詢ニ悲シイ哉。

然リト雖モ、各位ノ遺セシ業績ハ、同僚・後進ノ紹述スル處トナリ、今ヤ校紀大ニ伸張シ校運隆々タルハ、各位生前ノ赫ケル遺績ノ賜タルノミナラズ、在天セラレタル後モ冥々ノ加護ヲ垂レ給ヒシ結果ニアラザルハナキナリ。

依而茲ニ各位生前ノ功績ヲ偲ビ、併セテ神靈ノ冥福ヲ祈リ奉ル。庶幾クハ在天ノ神靈來リ饗ケラレンコトヲ。

昭和十五年六月十六日

新潟縣長岡女子師範學校記念會長　田中宗市

記念式

皇紀二千六百年の意義深きこの年、四十年の記念式を擧げる日とはなつたのでございます。眞白い壁もすが〳〵しく、明るい六月の陽ざしが私共の入場を待つて居りました。九時半、兒童生徒職員入場。さすがに隱しきれない喜び、嬉しさがさゞめいて居りました。九時四十分同窓會員の入場。懷かしい母校。かつての自分達をお思ひになり一入感慨の深いものがおありだつたことでございませう。九時五十分來賓入場やがて校長先生、文部大臣代理官、知事閣下代理官が御着席になりました。皆の顏が緊張しきつて居りました。澄みきつたピアノの音、一同の敬禮と共に式は始められたのでございます。皇軍將士並びに英靈に默禱がさゝげられました。

「これより本校四十周年記念式を擧行致します」

校長先生をはじめ私共一同は勿論、同窓生の方々もこの言葉の發せられる日をどんなに待つて居りましたことでせう。續いて國歌齊唱、この皇國日本に生れたればこそ戰のさ中にあつてこの式を擧げることが出來たのだと思ひ感激あらたなるものがあつたのでございます。

式は進んで、校長先生の告辭、本校創立より起されて淳々として說き去られ說き來られ教育報國に邁進すべき私等に深い感銘をお與へ下さいました。次で縣知事閣下の告辭、文部大臣閣下の祝辭、來賓の祝辭、等と續きこの意義深い時に會ふことの出來た幸福を深く感ずるのでございました。殊に同窓會總代の田中千之先生が老いて尙御元氣な御姿を見せて下され、若々しい御聲で祝辭をお述べ下さいました時は全く感激致したので御座います。

續いて全國からよせられた祝電の披露。校歌齊唱。同窓生も在校生も、かつて學んだ、又現在學んでゐるこの學校を祝福する氣持で一杯でした。こゝに集つた人の氣持が一つになつて歌ふ

「建てしこのやの高きこと……

こゝに榮ある我が校四十周年の記念式の幕は閉ぢたのでありました。

表彰式

紀念式が終りまして、直に勤續職員、同窓會員、傭人使丁の表彰式が擧行されました。數十年の歲月を國家敎學に捧げられ、恪勤精勵偉大な功績を殘され、或は今尙第一線に活躍され、或は家庭に在つて次代の國民育成に努めて居られます功勞者を表彰されることは誠に意義深いことでございました

式は同窓會長たる校長先生の表彰狀授與、被表彰者を代表されまして福本先生の御答辭がありまして恙なく終つたので御座います。やがて幾何もなくして敎の庭に立つ私達も今の榮譽を得られた方にも劣らず國家の爲に奉公致さうと志を堅くした次第でございます。

表彰狀

敬諭

福本方尙殿

君ハ大正十四年十二月二十一日ヨリ今日ニ至ル在職十四年間餘恪勤精勵以テ職務ノ遂行ニ力メ其ノ功績誠ニ顯著ナルモノアリ依テ茲ニ本校創立四十周年記念式ヲ擧行スルニ際シ記念品ヲ贈呈シテ其ノ功勞ヲ表彰ス

昭和十五年六月十六日

新潟縣長岡女子師範學校同窓會長田中宗市㊞

被表彰者

現職員（勤續十年以上）

敎諭　福本　方尙殿　勤續十四年七ヶ月
敎諭　高田　信重殿　勤續十四年三ヶ月
訓導　前川　禎治殿　勤續十一年三ヶ月
訓導　植村　慶治殿　勤續十年三ヶ月
訓導　太田　一殿　勤續十一年三ヶ月
訓導　左峯尹之吉殿　勤續四十年
購買部係　稻垣トメ殿　勤續十四年五ヶ月
使丁　清水シヅ殿　勤續十五年
使丁　[illegible]

同窓會員（勤續二十年以上）

○現ニ敎職ニ在ル者

川原タイ殿　吉田ユウ殿　中山ミツ殿
眞島ミチ殿　望月マサノ殿　栗林トシ殿
森山時枝殿　小林トヨ殿　大塚トヨ殿
山崎芳子殿　金子ムメ殿　田村ヨキ殿
山田キヨノ殿　新津スマ殿　石野イセ殿
安倍イマ殿　若井タツノ殿　廣川ヤヨエ殿
貝沼小春殿　中田ヒサ殿　飛內イク殿
水野ヤスエ殿　古川フジ殿　相澤フミ殿
小林ツイ殿　德山ミサヲ殿　遠藤ステ殿
長橋千代殿　波形キヨシ殿　阿部梅野殿
五十嵐ヒデ殿　橋井キソ殿　長谷川マサ殿
大橋キミ殿　竹內登喜殿　佐藤ミネ殿
田中トヨ殿　若月育殿

○現在退職セラレテ居ル者

佐々木ウメ殿　加藤萬代殿　小池キヨ殿
穗刈ヨリ殿　近藤ノブ殿　島峰タミ殿
松本キン殿　岡ハツノ殿　名古耶ハル殿
加藤アキ殿　丸山ヨネ殿　高橋えつ殿
近藤蝶殿　駒澤嘉殿　遠山梅野殿
中田リキ殿　波逸ハツ殿　齋藤ヤス殿
諸原テウ殿　三澤トク殿　寺井チヨ殿
須藤フジ殿　須藤ミセ殿　江口アキ殿
福田スミ殿　目黑キソ殿　吉岡レイ殿
萩原イツ殿　澤村イシ殿　內山幾代殿
小野ヨシ殿　小山ハツ殿　江口ノブ殿
本宮テル殿　池上キヨシ殿　大西ヤイ殿
田中千之殿　屋井ノブ殿　齋藤イツ殿
荒木セイ殿　丸山セツ殿　高野キヨ殿
屋井キン殿　川上ヤス殿　今井トシ殿
吉田イツ殿　高野マス殿　折橋カツ殿
三崎カツ殿　佐藤シン殿　長谷川ミヨシ殿

長谷川クマ殿　神田ムツ殿　三上ミツ殿
片桐ハル殿　月橋ミサ殿　長谷川チトセ殿
小宮ミフジ殿　宇賀村キヨノ殿　安井ツタ殿
佐藤ひで殿　松田イト殿　寺田ヤス殿
清野タク殿　小島トシ殿　森田ハル殿
清水サウ殿　鳥羽トミ殿　鳥山タカ殿
栗原チヨノ殿　中山芳榮殿　小熊一四子殿
拍原ツネ殿　有坂タキ殿　片岡キク殿
長谷川ミサホ殿　佐合セン殿　木村シウ殿
朝倉ヒデ殿　鈴木千秋殿　伊藤テイ殿
伊藤セツ殿　甲田ツギ殿　二平英江殿
大瀧フヂ殿　大瀧ヤイ殿　渡逸チウ殿
渡逸カシノ殿　舘島ヤイ殿　井浦クニ殿
高波ユキエ殿　佐野カツ殿　田中トヤ殿
羽鳥シマ殿　高橋トメ殿　北村キイ殿
野田トセ殿　佐藤チヨノ殿

祝賀會

記念式終つて少憩後來賓、卒業生、職員一同、体育館に設けられた祝賀會場に入場。場に溢れる會衆の顏には嚴肅な記念式とは對蹠的な　和かな笑みが浮んで居るのも嬉しい極みである。先づ田中校長立つて開會の挨拶を述べ宴は開かれた非常時局下の事とて供膳は質素ではあるが、四十年の歷史を盛られたこの宴こそ山海の珍味に勝るものであらう。

宴酣にして今成代議士初め來賓交々立つて祝辭を賜はれば今日に際會した我々の幸福のつく〴〵と感ぜられる。感激の盡きせぬこの集ひも、時間の制限は如何ともすることは出來ず、鷲見學務課長の發聲により萬歲を三唱して目出度くその幕を閉ぢた次第である。

音樂會

創立四十周年記念音樂會は、高田師範學校の石井信夫先生長岡高等女學校の川原勝久先生の贊助出演を仰いで六月十六日催されたのでした。既に定刻前より詰めかける聽衆の頰もたのしげに、やがて場內は足を入れるすきもないくらゐに、そして一、二年の人達に席をあけていたゞいた程でした。蒼空にめぐまれた今日の音樂會を庭の芝生に樂しまうとするひとも多く、實になごやかな美しい會でございました。

定刻ともなれば文部大臣、縣知事各代理官、來賓の方々、田中校長先生始め先生方も御臨席の下に、開會の挨拶によつて會の幕は切つて落されました。湧上るメロディーに我を忘れ、可愛いゝ小學校兒童の唱歌には思はず昔の子供に歸つて拍手を送つたりするのでございました。

石井先生、後藤先生の獨奏、河原先生の獨唱は流石其道に

被表彰者

現職員（勤續十年以上）

教諭	福本 方尚殿	勤續十四年七ケ月
教諭	高田 信重殿	勤續十四年三ケ月
訓導	前川 禎治殿	勤續十一年三ケ月
訓導	植村 慶治殿	勤續十年三ケ月
訓導	太田 一殿	勤續十一年三ケ月
囑託	佐藤伊之吉殿	勤續四十年
囑託	目黒 榮殿	勤續十五年
囑託	山上 仁吉殿	勤續十一年
使丁	倉澤仁久治殿	勤續二十八年

同窓會員（勤續二十年以上）

○現ニ教職ニ在ル者

川原タイ殿	吉田ユウ殿	中山ミツ殿	長橋千代殿
眞島ミチ殿	望月マサノ殿	栗林トシ殿	波形キヨシ殿
森山時枝殿	小林トヨ殿	大塚トヨ殿	阿部梅野殿
山崎芳子殿	金子ムメ殿	田村ヨキ殿	五十嵐ヒデ殿
山田キヨノ殿	新津スマ殿	石野イセ殿	橋井キソ殿
安倍イマ殿	若井タツノ殿	廣川ヤヨエ殿	長谷川マサ殿
貝沼小春殿	中田ヒサ殿	飛内イク殿	大橋キミ殿
水野ヤスエ殿	古川フジ殿	相澤フミ殿	竹内登喜殿
小林ツイ殿	德山ミサヲ殿	遠藤ステ殿	佐藤ミネ殿
			田中トヨ殿
			若月育殿

○現在退職セラレテ居ル者

佐々木ウメ殿	加藤萬代殿	小池キヨ殿	長谷川チトセ殿
穗刈ヨリ殿	近藤ノブ殿	島峰タミ殿	安井ツタ殿
松本キン殿	岡ハツノ殿	名古耶ハル殿	寺田ヤス殿
加藤アキ殿	丸山ヨネ殿	高橋えつ殿	森田ハル殿
近藤蝶殿	駒澤嘉殿	遠山梅野殿	島山タカ殿
中田リキ殿	渡邊ハツ殿	齋藤ヤス殿	小熊一四子殿
諸原テウ殿	三澤トク殿	寺井チヨ殿	片岡キク殿
須藤フジ殿	須藤ミセ殿	江口アキ殿	木村シウ殿
福田スミ殿	目黒キソ殿	吉岡レイ殿	伊藤テイ殿
萩原イツ殿	澤村イシ殿	内山幾代殿	二平英江殿
小野ヨシ殿	小山ハツ殿	江口ノブ殿	渡邊チウ殿
本宮テル殿	池上キヨシ殿	大西ヤイ殿	井浦クニ殿
田中千之殿	星井ノブ殿	齋藤イツ殿	田中トヤ殿
荒木セイ殿	丸山セツ殿	高野キヨ殿	北村キイ殿
星井キン殿	川上ヤス殿	今井トシ殿	佐藤チヨノ殿
吉田イツ殿	高野マス殿	折橋カツ殿	
三崎カツ殿	佐藤シン殿	長谷川ミヨシ殿	

長谷川クマ殿	神田ムツ殿	三上ミツ殿	
片桐ハル殿	月橋ミサ殿	長谷川チトセ殿	
小宮ミフジ殿	宇賀村キヨノ殿	安井ツタ殿	
佐藤ひで殿	松田イト殿	寺田ヤス殿	
清野タク殿	小島トシ殿	森田ハル殿	
清水サウ殿	島羽トミ殿	島山タカ殿	
栗原チヨノ殿	中山芳榮殿	小熊一四子殿	
拍原ツネ殿	有坂タキ殿	片岡キク殿	
長谷川ミサホ殿	佐合セン殿	木村シウ殿	
朝倉ヒデ殿	鈴木千秋殿	伊藤テイ殿	
伊藤セツ殿	甲田ツギ殿	二平英江殿	
大瀧フヂ殿	大瀧ヤイ殿	渡邊チウ殿	
渡邊カシノ殿	舘島ヤイ殿	井浦クニ殿	
高波ユキエ殿	佐野カツ殿	田中トヤ殿	
羽島シマ殿	高橋トメ殿	北村キイ殿	
野田トセ殿	佐藤チヨノ殿		

祝賀會

記念式終つて少憩後來賓、卒業生、職員一同、体育館に設けられた祝賀會場に入場。場に溢れる會衆の顔には嚴肅な記念式とは對蹠的な　和かな笑みが浮んで居るのも嬉しい極みである。先づ田中校長立つて開會の挨拶を述べ宴は開かれた非常時局下の事とて供膳は質素ではあるが、四十年の歴史を盛られたこの宴こそ山海の珍味に勝るものであらう。

宴酣にして今成代議士初め來賓交々立つて祝辭を賜はれば今日に際會した我々の幸福のつく〴〵と感ぜられる。感激の盡きせぬこの集ひも、時間の制限は如何ともすることは出來ず、鷲見學務課長の發聲により萬歳を三唱して目出度くその幕を閉ぢた次第である。

音樂會

創立四十周年記念音樂會は、高田師範學校の石井信夫先生長岡高等女學校の川原勝久先生の賛助出演を仰いで六月十六日催されたのでした。既に定刻前より詰めかける聽衆の頗もたのしげに、やがて場内は足を入れるすきもないくらゐに、そして一、二年の人達に席をあけていたゞいた程でした。蒼空にめぐまれた今日の音樂會を庭の芝生に樂しまうとするひとも多く、實になごやかな美しい會でございました。

定刻ともなれば文部大臣、縣知事各代理官、來賓の方々、田中校長先生始め先生方も御臨席の下に、開會の挨拶によつて會の幕は切つて落されました。湧上るメロディーに我を忘れ、可愛いゝ小學校兒童の唱歌には思はず昔の子供に歸つて拍手を送つたりするのでございました。

石井先生、後藤先生の獨奏、河原先生の獨唱は流石其道に

聞えた大家だけあつて會衆を魅了して滿場水を打つた如く歌曲終つても猶しばらくはウツトリとしたのでございました。夢を見るやうな中に曲は進み石井先生の月光曲の美しくも妙な調べを最後として名殘惜しい幕は後藤先生の閉會の辭に下されたのでございました。時に四時半。三時間半に亘る大音樂會はこゝに樂しくも又めでたく誠に創立記念日にふさはしく終つたのでございました。

左にプログラムを掲げます。

第一部

一	三部合唱	閃めく星	本校生徒
		富嶽の頌	
二	齊唱	螢	川崎校三年
		動物學校の遠足	
三	ピアノ獨奏	回旋曲	稻葉泰子
四	三部合唱	婦人從軍歌	本校四年
五	齊唱	動物園	附屬四年
		夏の月	金子チエ
		伴奏	
六	童謠	おくれ時計	本校二部二年
七	二部合唱	遠足	川崎校六年
八	ピアノ獨奏	マヅルカ	石井信夫氏
		ワルツ	
九	テノール獨唱	母さん里	川原勝久氏
		足柄山	
		防空の歌	

——休憩——

第二部

一	二部合唱	花すみれ	本校五年
二	ピアノ獨奏	ヴエニスの船歌	遠山フミ
三	齊唱	兵隊さん	附屬一年
		電車ごつこ	
四	獨唱	印度の悲歌	川口ヒサ
		中國地方子守歌	
五	ピアノ獨奏	協奏曲第三番	後藤敎爺
		伴奏	
六	三部合唱	樂しき調べ	石井信夫氏
七	テノール獨奏	蓮の花	本校生徒
		わが夢わが歌	川原勝久氏
		筏流し	
八	ピアノ獨奏	月光曲	石井信夫氏

——終——

展覽會

創立記念行事の重要なもの一として六月十六、十七兩日本館二階敎室及階下手工敎室を會場として開催された。九つの敎室とその廊下に溢れた作品は正に天下の一偉觀であつた中でもその御生涯を本校の爲に捧げられし故藤巻嘯月先生の書幅の斷然あたりを壓して居るのは悲しくも又雄偉な景ではあつた。親しく先生の御遺作を仰いで今は亡き先生を追懷し御遺德を偲ぶもの跡を絶たぬのであつた。

其他縣下の女學校を初め全國師範學校より出陳された圖畫習字の作品は各々その個性を發揮して輝き、遠く歐羅巴及亞米利加より兒童の繪畫の出品もあつて彼我の交歡が行はれるのも亦微笑ましい狀景であつた。

地理敎室には附屬小學校兒童の丹精になる模型飛行機其他が陳べられ、壁間には全國師範學校、中等學校生徒の習字作品が入神の技に輝いてゐる。圖畫敎室には本校生徒の作品、兩裁縫敎室には夫々本校及他の女子中等學校及女子高等師範學校生徒の作品が綺羅を飾つてゐる。仕立直し品及廢物利用製品のあつたことは時節柄を反映して嬉しく感じたものゝ一である。と共にこれ程立派に作り上げる腕前を養つたことに對して衷心喜悅を感じた。

隣下の手工敎室に於ては木工製品、大は本箱の如きものから少は瓶敷きに至るまで丹念に込入つた細工が施されて目前にあるこれが學校の生徒の作品とは思へない位である。材料費迄書かれてあるのも嬉しい。

一巡約一時間、藝能科の精髓に接し得て心ゆくまで藝術の奥深き道に接したのであつた。

運動會

紀元二千六百年。本校創立四十周年を記念すべき意義深き大運動會は十月十三日を期して擧行された。すつきり晴れ渡つた秋空に白いテントが美しく映え、しつとりと濕つた土に鮮かに走るラインが燃え上る喜びと意氣とを示してゐる。定刻。一同集合。國旗揭揚●宮城遙拜●默禱につづく校長先生の力强い御言葉に、一同此の日を立派に飾る事を誓つて式を終る。「開け！」の號令と共にぱつと開いてラヂオ體操。次いで五十米競走。轟くピストルと共に張り上げる應援の第一の聲はグラウンドも狹しとばかり湧きかへつた。可愛い附屬一年生の遊戲に續いて順送球●百米●綱引と競技は次第に進行する。應援の拍手は益々高い。やがて本校一●二年の月見草のダンスが始まる。グラウンド一杯に響き美しいメロディに融け込む樣に靜かに動く動作は夕風に靡く可憐な花を偲ばせて美しく優しい。二人三脚は三年生の上手な事。綱引の準決勝は强剛二部二年と三年が勝ち殘る。兩軍の得意さうな顏々愛らしい幼稚園兒のお遊戲は全く雀か雛鳥のやう。思はずにこ〳〵させられる。國民進軍歌に續く擔架繼走は乘り方の素早い事。持つて走る人の重さうな事。

學年繼走豫選は棒立ちの聲援、附屬五六女の興亞行進曲は集團美を發揮して本當に美事。給仕競走はお水をこぼさぬ樣とても苦心する。時間があまり早いので午後の部が少し繰上げられて紅白リレー●置換競走に續いてミリタリマーチが始まる。勇壯なマーチに合せて夢中で旗を振る●障碍物競走は面白い。梯子をくゞりばた〳〵やる。フアウストは流石二部

二年四年のお姉様方だけに一齊に揃ふ手足のしなやかに落ちついた美しさで充分上級の貫祿を見せてゐる。やがてラヂオ体操を最後に午前の部は終り。じつとりと汗ばんだ顔で仰ぎ見る青空がまぶしい様だ。間もなく晝食におやつに元氣を回復した皆の顔が再びグラウンドに現れた。綱引の決勝は兩軍物凄い頑張り様。遂に三年の勝となる。白衣勇士慰問競走はカードを拾ひ書いてある花畑から集めて花束を作り、各組苦心の慰問品を持つて走る。そして其の場で傷痍軍人の方に捧げるのである。パチ〳〵と高い拍手の中に花束や慰問品を捧げるとそれをお受け下さる勇士の方々のお顔のなんて輝いてゐることであらう。

クワドリールは長いけれど美しい。擔架繼走も附屬の二人三脚も湧き上る拍手と聲援の中に終る。勇ましい防空競走の次は愈々待ちに待つた職員競走である。上手にころ〳〵と轉がす先生。唯むちやくちやに樽を叩く先生。樣々な姿で樽を廻して行かれる先生方にやんやと聲援は浴びせられる。と競走の眞最中にごうしたはづみか一方の樽は「あつ」と叫ぶ間もなく筐がはづれてばら〳〵になつてしまひ、せつかくの競走もあつけなく中止。あちこちで如何にも殘念さうな叫びが洩れる。愈々最後に近づいて皆物凄い張り切り樣。縣民歌も唯夢中のうちに終る。學年繼走は走る人も應援の人も凄い勢で遂に三年の勝利。「わーつ」と喊聲と拍手が渦巻く。かうして遂に最後の愛國行進となり、續いて分列式。高く振上げる腕、強く踏みしめる足にも銃後を守る青年の凛然たる意氣が發揮される。これで演技は終り續いて閉會式。高らかに唱へる萬歳三唱。かくして澄み渉つた青空の下に、天をも衝くやうな元氣で意義深き創立四十周年記念運動會は無事に終了した。

一日の激しい戰の跡には白いラインが思ひ出深き私達を見送つてゐる——。

奉安殿築造

恰も紀元二千六百年、敎育勅語渙發五十年に當る我が校四十周年の記念事業として、奉安殿の築造はごふさわしいものはありますまい。本校玄關前右方公孫樹の下がよき所と定められた。昭和十五年五月二十四日職員生徒一同參列にて地鎭祭が行はれた。司祭は平潟神社々司桃田虎雄氏である。かくして先づ地下六尺堀り下げて十分地固めがなされ、其後槌の音、鑿の音、シヤベルの音の響くこと數月、今や奉安殿は其の神々しい姿を完成して、その落成は目前に迫つてゐる。奉安殿築造は記念事業中最大のものであり、その意義から言へば更に大きい。この奉安殿が同窓會員、在校の職員、生徒の醵金によつて成つたことは實に意義深いことゝ思はれる。これよりこの立派な奉安殿の中に日夕御眞影を拜み奉ることの出來ることを思へば誠に有難いことである。（一五・一一・九）

回顧感想

回顧

第二代校長　川面松衛

思ひ出深い長岡女子師範學校四十周年記念誌發刊の御通知をうけ、昔懐しい關係各位並に卒業生の皆樣にお便り出來るこの機會を嬉しく存じます。

長岡女師と申せば私の一生を通じて最も印象深い學校であり土地であります。私が明治二十六年東京高師を卒業して以來、長野中學、諏訪中學、廣島師範を經て、初めて校長として振出したのが長岡女子師範學校でありました。時は明治三十四年、今から四十年前の私は年齡三十四歳、負けぬ氣の青年校長でした。世界の視聽を集めた我が皇軍勇士の進擊、銃後國民の緊張、擧國一致の體制は現在の支那事變に勝るとも劣らぬものでありました。生徒と共に驛前の旅館に陣取つて、續々出征する鄕土部隊を未明に昏に見送つた萬歳の聲は今も耳底に殘つてゐます。男子學生の萬歳よりも可憐な女子師範生徒の見送りが出征勇士をどれだけ喜ばしたことか。此の中に立つて私の腦裡に浮び上つたのは女子の力と言ふことでした。私は勇士を勇士たらしめるのも女子の力、銃後を護るのも女子の力、將來を背負ふ第二の國民を育成するのも女子の力であることを想ひ、長岡に住む母に呼びかけて女子敎育會を組織することにしました。師範學校を會場として毎月一回集り、名士の講演を聽き子女の敎育座談、銃後活動の方案を話し合ふのでありました。時局を認識した母は身を飾りません。米屋の小母さん、大工のおかみさん、魚屋のお嫁さん、あらゆる人々が普段着の上に羽織を着て五百人六百人と集つては、皆戰場に馳する我が子、我が弟、同胞の身の上を語り合ひました。當時の會員今は何處に——、

四十年後の今では皆よいおばあさんとなつて、孫の武運長久を祈つてをられることを想ひ、懐しさ一入身に浸む心地がします私が明治四十二年、長岡から奈良女子師範學校に轉任することになりました。在勤九年間の生活はすつかり私を長岡人にしてくれました。まして此の女子教育會の集ひによつて、長岡全体の人々と一体となり、一大家族の様な親しみを感ずる様になりました。私が長岡を去る時、泣いて送つて下さつた魚屋のお嫁さん大工のおかみさん、驛まで長蛇の列を作つて送つて下された女子教育會々員各位の眞心は、此の老骨にまで浸み込み、その姿は今も瞼の裏に焼付いてゐます。

奈良女師から千葉女師へ、埼玉師範から京都師範へ移り、昭和七年三月四十年の教員生活を離れました私は、私の手で出來る教育後援事業に盡力することを樂しみにして暮してをりましたところ、昭和九年三月十二日不意に腦溢血を起しました。それ以來滿六年間京都飛鳥井の里に臥床生活を續け、門をたゝいて下さる知人に四方山の話を聞いてはその一日を樂しみ、時々長岡からの來客や通信に接しては昔を想ひ返してゐました。去る三月十七日には六年振りに居を京都府師範學校の近く立命館中學の傍、室町北大路上ル一筋目角に移しました。こゝは京都の北を限る北大路の傍にて京都驛から京都御所の西を通る烏丸通の最北端であります。驛から市電にて三十分間烏丸車庫前下車して室町通りを上ること半町、御入洛の節には是非御立寄下さる様、鶴首してゐます。

建國二千六百年　春風祥氣彌(ワタル)二山川一
聖恩鴻大何以報(ヒタテマツラン)　老骨又逢ッ瑞色ノ天。

これは昭和十五年新春の拙作であります。身はたとへ床にありましても皇紀二千六百年の聖代に生れ合ふことの出來ました感激に胸はふるへ、この老骨にも聖代の萬歳を壽ぎ奉り、無邊の聖恩に應へ奉るべき決心がひし〳〵と湧き起ります。私は古稀を過ぐること三年になりますが、百歳の山を前に見て心は昔に變らず今日の喜びに勇躍してゐます。

七十路の老坂越えて早や三年
向ひに高く百歳の山

四十五十は　鼻たれ小僧
七十八十　青二歳
男盛りは　九十百

いつになつても負けぬ氣の川面とお笑ひ下され、時折長岡の便りを御送り下さる様お願ひ申し上げます。

先日知人より次の詩歌を送つて下さいました。

聞(タ)二甲山翁街衢轉宅一(チ)
何(ゾ)論(ゼン)深谷與(ト)塵關(トチ)
悟(セバ)二了一心一萬境閑(ナリ)
請(フ)見(ヨ)古今遁世(ノ)詩
大仙入(ハ)レ市(リ)小仙(ニ)山(ハ)。

五月雨に辻のほこりも洗ひ去り
青葉したゝるにはさきの露路

創立四十周年を祝す

第六代校長　赤木愛太郎

貴校創立四十周年を祝し、卒業生諸子の邦家の爲彌々活躍せられんことを祈る。

私は貴校在職僅かに一年有餘に過ぎざりしも、此間に得たる体驗に基きて本校の創立に當り、爾來二十年間齢古稀に近きも今尚頑健乏しきを奉じつゝあるを卒業生諸子に報して平素の疎遠を謝す。

所感

第七代校長　平賀吉治

御校も創立四十周年を迎へられて、盛大なる記念式を擧行せられ、校運年と共に隆昌に赴かれますことは、興亞聖業に邁進する我國に取りて、慶祝に堪へないところであります。私の御校に奉職したのは大正十年三月より三年半の間でありました。それまでは、男子師範學校にばかり奉職して、女子教育に經驗がなかつたので、男性的教育の色彩が多かつたことと思つて居ります。當時の同僚には、故人になられた方が多く、往時を追懐して感慨無量なるものがあります。御要求によりまして、在職中の所感一二申上げます。

一、關東大　災

丁度大正十二年九月一日、第二學期の始業式を終へて、擧校一致大馬力を懸けて、大掃除に當つたのであります。それは、皇后陛下當時皇太子妃殿下であらせらるゝ、良子女王殿下の行啓を仰ぐことになつて居つたので、學校は無上の光榮に感激して古い校舍ではあるが、出來るだけ清潔にして御迎へしたいと考へて、全員眞心込めて清掃に當つたのであります。然るに、正午に近き午前十一時五十八分、突如未曾有の大地震に見舞はれ、大衝撃を受けました。それが東京横濱を中心とする、關東の大震火災で其の損害も莫大なもので、日本の文化と國富とは、再興出來るや否やを疑はしめた程でした。それで、妃殿下の行啓も御取止めになり、御校の歴史の尊き一頁が、永久に消え去つたのは、遺憾の極であります。かゝる關係で、關東の大震火災は、永久に忘るゝことは出來ません。恐らく當時の職員生徒の方々も、同感の事と察します。

二、就　職　問　題

毎年二月頃になると、新卒業生の就職問題が起ります。此れは男子の師範も同樣であります。男子の方は、所によつては左程激しくありませんが、北海道のやうな所は、南の端から北の端に遣らるゝことがあるので、當人への打撃は　大變なもので

あります。それで任地に對する希望は、相當深刻であります。御校の卒業生は、全縣下に配當せらるゝ關係で、隨分邊鄙な場所に任命せらるゝものもある譯です。今日では、そんなことも餘り遂に赴任せずに終つたものもあつたさうであります。それで始めて、新卒業生配當の相談に、縣廳に行つた際に、長岡の卒業生は、從來邊鄙な場所には赴任しないこともあつたから、其點十分に注意して貰ひたいとの警告がありました。小生は始めての事でもあり、此の點には隨分苦心しました。當時は卒業生配當が決定すると、發令前に任校を内示する慣習がありました。其の際に、邊鄙な學校に遣られるものは、悲歎の涙にくれて困つたさうであります。小生は、新卒業生を集めて、如何なる場所に遣られても、泣かないことを固く約束して、内示したのであります。中には、邊鄙な學校で、暗涙に咽せんだものもありましたらうが、我々の面前で泣いたものはありませんでした。そして、皆さんが勇んで任地に出發されました。後で、手紙によつて、途中殘雪堆く、山又山、長岡より二泊もして、行くやうなところに、赴任したものもあつたことが分りましたが、不平を訴へて來るものは、一人もありませんでした。それで、小生も漸く安心しました。今日は女子と雖も、大陸發展を志して居る時代であるから、縣内何れの地方でも、問題にする方はない筈で、是等は一場の語り草になつた譯であります。

思ひ出

植村　く　に

なつかしい御校創立四十年の御祝にお招きいただき、手足もきかぬ不自由な身をも顧す、盛大な式典に、つらなる事を得ました事は、一生忘れられぬ嬉しい事でございます。

當日は、皆樣方の至れり盡せりのおもてなしに、時間のたつのも忘れて一日を樂しく過させて頂きまして、誠に有りがたく、失禮乍ら、此の誌上を拜借して、厚く〳〵御禮申上げます。

創立當時を思ひ起すと、色々と目の前に浮んで、夢の樣でございます。記念日には、公開すると言ふので、當時の人達は、學校の御殿が出來た。」と申してわざ〳〵見物に參り、中々の大入滿員で、整理も容易でございません。そこで、藤巻先生一策を講じ、一人に豆一粒づつを渡す事に致しました。「おありがたうございます。おありがたう御座います。」とおしいただいて歸つて行く有樣なぎ、誠に、淳朴なものでございました。ピアノの音も珍らしく、キイを打つと音のするのを、ふしぎそうに大ぜい寄つてみてゐました。

生徒のなりも、思ひも及ばぬ、いてふ返しに袴、その頃の、卒業寫眞を見ると、係達がよく笑ひます。それから二百三高地といつて、前髪を高くふくらませる、たしか日露戰爭當時です。日露戰爭と申せば毎日の兵士歡送には、灯提行列、軍歌合唱でするぶん盛でして、しまひには聲もかれてしまふ程でした。その後でした。裾の長い洋服を着て、とくるになつてダンスをする姿なぎ、今見たらおかしいやうです。其の時々によつてするぶん變りました。わらぢばきの遠足、山登り、又は、汽車旅行の珍談等、思ひ出す事は山程、又當時の方々のお顏も、頭の中に殘つて居ります。

思出の數々は、あとからあとから、繰りひろげられて、浦島の夢物語りのやうで、お話しつくせません位です。何か感想をとのお話で御座いますけぎ、頭もふるぼけ、口も、手も、思ふに任せず、思出の二三をかきならべ、お許しいただきたう存じます。終りに御校の榮えと、皆樣方の御健康をお祈り致して、筆を擱きます。

因に先生の御略歷を御紹介申上げますと

明治三十三年十一月七日東京府より新潟縣へ出向を命ぜられ、仝月十七日新潟縣長岡女子師範學校訓導に任ぜられ、同時に本校音樂科授業囑託となられて居られます。

爾來十七年間。大正六年三月三十一日御退職せられますまで創立日殘かつた本校教育の爲專心御盡し下さつたので御座います。現在御齡七十四を重ねられ御令息川崎校訓導慶治氏の御奉養の中に御病を養つて居られるのでございます。私達は先生の御功績を讃へ、その御快癒の一日も早からん事を御祈り申すものでございます。

思ひ出の二三

大石 新

御校も紀元二千六百年の輝かしい年に創立四十周年を迎へて　形式内容共にいよ〳〵充實し誠に御同慶に堪へない。今回記念號を發刊せられるに當り私にも何か認めるやうにとの御話なので、思ひ出の二三を記してみたいと思ふ。

私が御校に勤めて居たのは昭和九年の一月から十三年の十一月まで約五ヶ年である。其の間には相當色々な事があつたやうに思はれる。

一、修養道場明强舍の設置、それは昭和九年であつたと思ふ。縣としては最初新潟高田師範にのみ據へて、長岡には置かない積であつたらしい。併しそれでは女敎員修養にも意氣の上にも及ぶ所が大きいので、田中先生は非常に骨折られて遂に縣當局を動かし、他の師範並に設置せられることになつたのである。卒業生諸君の御寄附によつて設備費も集まり、舊謙堂を模樣替して立派な道場が出來上り、西晉一郎先生によつて「明强舍」と命名せられ、小西重直先生を聘して道場開が行はれた時は嬉しくてならなかつた。

私も此の明强舍では精神研究發表會で「新論」や尊德翁について話し、古典講讀會で古事記を講じたことである。兎に角修養道場の設置は學校發展の上に重要な意味を持つて居る。

二、國民精神文化講習所長岡研究室の設置、これも同じく昭和九年であつた。研究室がおかれると、學校でも國體文庫、尊德文庫を設けて關係の書物を備付けることにした。中越二市六郡の小學校に出かけて座談會も開かれることになつた。小學校の先生方と接觸する機會が多くなつてお互に益せられることが多かつた。

三、長期講習會、昭和十一年の十月には國民精神文化講習所主催の小學校敎員長期講習會が開かれた。男敎員而も中堅訓導三十餘名の諸君が一ヶ月間作法室と圖書室とを通した一部屋を居室として合宿し、極めて眞劍な態度で修養に力められた。これ

恐らくは學校始つて以來の事であらう。越えて十三年の夏には小學校長諸君の二十日間に亘る講習も催された。何れも教へられる所が多かつた。

四、學校の諸行事、毎年春各學年別に行はれる修學旅行も、雪消を待つて全校で出かける森立登山も樂しいものであつた。秋の强遠足、わけても十三年の晩秋雪の降つて居る鋸山を越えて荷頃谿谷を栃尾に下つた日の印象は深い。さては雲洞庵の見學石地の臨海教育、地方別父兄會出席の爲め佐渡行、何れも忘れ難いものである。夏から秋へかけての除草、冬の雪除作業、これ亦尊い體驗である。

かやうに書き始めると思ひ出は盡きない。其の當時の先生方や生徒諸君の俤が髣髴として浮んで來る。最後に御校の御發展と皆樣方の御多幸を御祈りして此の筆を擱く。

同窓會員

思ひのまゝ

中魚沼郡中條村（明治四十年卒）　佐野カツ

此の秋は特に忙はしい。折角原稿用紙を頂いても間に合ひさうもない。十月の聲がかゝれば寒くなる筈だ。孫達に着換への給も縫つてやらねばならぬ。給の出來ない中に綿入も必要だ。燈火管制下の夜、久し振りで針箱を持ち出した。針も錆びてゐる。篦も見えない、糸も解いてない。之れでは裁縫に興味も起きない。やつと片袖が出來上つた。家人は皆寢た。夜は靜かに更けて行く。心の底に潜んでゐる濟まない氣持が針持つ手を鈍らせる。さうだ遲れ馳せながら原稿紙に向つて見よう。最早お役に立たなかつたら捨てゝ頂くまでの事だ。

○明治三十五年、春酣な四月中旬の頃と思ふ。山間の町に育つた、一少女は先生に連れられて木の香も高い新潟縣女子師範學校の正門前に立つた。見上げる高肚な建物に膽を拔き、今の明强舍元の講堂に案内されてオルガンでないピアノであることを教へられた。植村先生から國歌と箱根の山の唱歌を彈いて頂き、夢心地に聽き入つた。廊下で行き逢ふ改良服に袴、皮靴姿の颯爽たる學生にも驚異の眼をむけ、寄宿舍の廣さにも驚かされ列に離れて迷ひ兒になつた仲間も居た。

この修學旅行が因緣となり、やつと念願が叶ひ、入學が許された。確固たる目的も持たずに只憧を以て入學した自分が人並に卒業させて頂き、教壇生活二十四年の星霜を過させて頂いた。思へば母校の御恩の高く深く涯ない事を知る。

○去る六月十五日、母校の四十周年記念式典に參列するの光榮を得た。舊き新らしき、知るも知らぬも皆四十年の長い長い血緣につながる姉妹だ。誰とも手を執り合つて今日の發展を歡びたい氣持だ。

校長先生の熱烈なる誨告に襟を正しうし、人生行路に躓りなき道しるべを得た事を感謝する。

田中副會長殿の卒業生總代の答辭には言々句句我意を得たる心地がして目頭が熱くなつた。

○あゝこの記念すべき四十周年、三千の同窓と共に、彌榮えに榮え行く母校の幸と、諸先生の御健勝を祈りつゝ筆を擱く

思ひ出づるまゝに

新潟市入舟小學校　安倍いま

（一）

「勤續廿年以上の者を表彰してやる」との事で、私も其の一人として榮ある式典に參列しましたのは、六月十六日それは母校創立四十周年記念式の當日でありました。

ベルの合圖で式場にうかがへば、さしもに廣き講堂も今日は

滿堂立錐の餘地もなく、來賓の方々同窓生と、それに在學中の生徒さんによつて埋められてありました。

愈々表彰狀や記念品をいただく時が參りましたが、總代としては私が選ばれたのでありました。それは當日の資格者中の最年長者だといふことでありました。思へば母校を集立つて早くも滿廿六年餘を過してゐたのでありました。

（二）

「私事教員志願に付」と願書を出して二部一ケ年を陵の學び舍に過し、卒業後西蒲原郡に二ケ年、鄉里新潟に轉任して豐照校に十二年、現任校入舟小學校に轉じて十二年餘、成る程廿七ケ年目になつてゐますがそれでも教員生活に全く厭きてしまつたとも覺えません。實地授業の、共同參觀のと教壇上に立たされて氣苦勞の心遣りもありましたが、之に依つて教授の方法に熟達し、之に依つて自分を磨くことゝ思ひますれば、寧ろ喜んで幾回となく諸教科目の研究教授もやつて來ました。

（三）

かう永く教員生活を續けて見ますと、出勤して可憐な兒童達の顏を觀ることが樂しいもので、忙しいこと何もかも忘れてしまひます。兒童達も亦喜んで共に遊び共に學ぶ事が一日中の最も樂しい事の一つであるらしく思はれます。殊に一年より六年までを繼續して担任する時の樂しみは又格別でありま す。謂はゞ畑に芽生えした作物のそれの如くに、種子より二葉に、又莖になり、花咲き、實を結んで、日毎、年毎にすく〳〵と伸びていくその有樣を見る樂しみは、教育者ならでは味はへぬ樂しみでありませう。私はかうした担任經驗は三回程繰り返してもゐますが、『優等生への指導は如何に工夫すべきか、劣等生は如何に救ふべきか』と日の暮れるも知らず教室の一隅にちつと考へこんで苦しんだ事も度々でありました。往ぬる年、ふとした病氣に隨分惱まされたこともありましたが、兒童がひそかに相談して、學校近くの稻荷神社に平癒祈願をしてくれたとあとでわかつた時は全く純眞な兒童の心はせに泣かされたことなど思ひ出の一つであります。

（四）

女子青年團の指導、之も學校教育の延長であります。熱心に指導さへすれば之も樂しみ多いものゝ一つで、お料理や洗濯の短期講習會を催したり、毎週の集りとして、生花・習字・たゝみ物と多年續けて來て居ります。唯今は時局向きに薙刀を加へました。集つて來る團員は熱心で涙が出る程嬉しいものに思つてゐます。

時局下愛國婦人會、國防婦人會と三團體が一會長の下に打つて一丸主義に体系づけられてゐますが、世間に聞かされた相剋摩擦等は私共の區内には全く見ることが出來ないので、なごやかな生活は入舟村」といつて笑ひ合つてゐます。之も結

局は會長さんの御人格の賜物でもありませう。

私は体の續かむ限り、事情の許す限り、斯の道に精進し、兒童達と喜憂を一にし、一方には是等女子諸團体と協力して使命達成の捨石たらむと念願する次第であります。

感想

長岡　飛内郁子

十年一昔といふならば、三昔も以前の頃、私が母校に在學當時、滿十周年の記念式が擧げられたことを記憶してゐます。それから三十年後の今日、然も皇紀二千六百年の輝やける此の年に、四十周年の記念式を擧行せらるゝにあたり、私ごとき微小（いとらい）さき者の上にも、其恩惠のそゝがれしことを心から感謝いたして居ります。過ぐる二十幾年と云ふ長い年月、愛兒と共に生活し來つた自分を思ひ、其成長され行く愛兒の姿を偲び行く親心。文筆を以て表はし得ぬ心情。教育者ならずば味はふことの出來ぬ事と信じます。

私が母校を集立ちて行きし任地は神の命じ給ふ所とし、與へられたる兒童は神よりあづかりし大切なる子供として、愛育すべきことを心に命じ、當時不便である北魚沼郡に奉職したことが思ひ出されます。それよりしばらく家庭の人となりましたが、三四年の後再び兒童教育に心引かれて出馬してより約二十幾年間彼等と共に生活し、私より兒童を引き離すことの出來ぬものとなりました。

長く兒童教育の爲めに盡さうとすれば、其所には必ず家庭的に犧牲を伴ふものであります。然し乍ら其の犧牲こそは尊いものと信じます。神は人類の爲めに最大の犧牲を拂ひ給うたのであります。故に私共に命ぜられし尊い教育の仕事こそは天よりの使命と信ずることが出來ます。只今の私の心の中には成功して居る教へ子も、かつて私に涙を流させた教へ子も共に忘れ難く印刻されて居ります。

私のやうな至らない者が、とにもかくにも、今日まで奉仕させていただく事の出來たことは一重に母校の恩惠と衷心感謝いたして居ります。然も此度二十年以上勤續者に對し表彰式が行はれましたが、現職者として當市に於て私一人だけで御座いました。誠に感激の至りで御座います。

これは唯長く務めたと云ふだけでは御座いますが、此「時」に遭遇致した私はほんとに幸で御座いました。

「萬の事と萬の行爲に時あるなり」と。人として生まるゝにも死するには時があります。萬の事行爲にも時があり、よき時を與へられるには十分なる祈りを要すると信じます。私共教育者は殊更よき時の與へられる爲、心を盡し精神をつくして兒童の靈の中に善き物を與へたいと存じます。

事變下と雖も國内に於ける總ての行事は着々進められて居ります。吾等教育者たる者は何をなすべきか。云ふまでも無

く、よき第二の國民を育むことで御座います。新体制に順應した兒童として指導すべき私共は先づ其の心構を堅くして進むべき道をあやまらず、いよ〳〵此道の爲めに精進させて戴くことだと存じます。

なつかしき母校の發展の爲め天より大いなる御助けあらん事を御祈り致し筆をとゞめます。

おもひ出

大正七年卒　高野ます

母校は滿四十周年の齢を重ね、私は滿十九年を附屬に過させて戴いた。在學四ケ年を加へたら將に半ば以上に達する。從つてその永い間の思ひ出は濱の眞砂とつきないから、若しこれを克明に書きあげたら相當長いものにならう。

今は與へられた紙數の範圍内で遠い思ひ出を少しく辿つてみやうと思ふ。

印象は古いもの程鮮やかだ、話は二十數年前の昔に遡るが大正三年春四月小雨そぼ降る七日であつたと思ふ、その日は新入生入舍の當日で私は遙々佐渡の島國から、それこそ海こえ山越えてたつた一人でやつて來たのである（因に私の町から師範一部へ入學したものは私を以て嚆矢とする）氣丈なやうでも僅か十五や十六の小娘であつてみれば、すべてが新しい經驗で小鳩のやうにオド〳〵してゐたに相違ない。

その時寄宿舍の玄關でそれは〳〵ニコヤカにお迎へ下さつた先輩の皆樣方の眞心溢るゝ御親切なおもてなしにはすつかり感激した。恐らく私の一生を通じて忘れ得ぬ好印象であらう殊に三年の青柳さんといふ方が主として指導の任にあたつて下さつたのであるが。（最上級の室長は敎生で忙しく細かいことには關與しないことになつてゐた）先づ購買所での買物から舍内の案内、結髪、洗面、洗濯、食事の作法、押入の整理（殊にケンドンと呼ばれた地袋やうの棚の仕末）褥の寢おし、就寢の挨拶、さてはお便所の掃除の果に至るまで實に至れり盡せりで當時の舍内の流行語であつた所謂「模範敎授」をして下さつたものである。當時の生徒は高いひさし髪を綺麗にあげて、細かい縞の着物に海老茶の袴を裾長くはき、端然と落着き拂つてゐたので全く先生のやうな氣持がした。それだけ上級生への信賴もあつく、よく服從した。舍監の先生の仰言る事なぞそれこそ金科玉條として嚴守したものである。

田舍からポツト出の乙女の眼には最初の一年間は悉く物珍らしく思はれる事のみである、先づ月一回の校友會であるが何しろ當時は文化の程度も低くラヂオは聽かれず運動はテニスとピンポン位のものであつたから勢ひ、生徒の全精力はこの一會に集つたやうである。

今の明強舍が當時の講堂でこゝが第一次の集ひの場所である正面一杯に講堂に應はしい壁畫をゑがき、十余り二十近くの

番組は彩色美はしく描かれた太洋紙に級の選手が墨痕淋漓と筆を揮ふのである、こゝは場所柄だけに今の學藝會のやうな内容のものを熱心に披露し合つた。頃合よしと食堂よりの招きで席を替へるとこゝは又天井と云はず窓と云はず食卓の果てまで滿艦飾で、食事をしつゝ蓄音機を聽き諸先生の「何か」や各級競演の假裝行列なぞに打ち興するのである。扨て私の最もビツクリしたのは次の會場、運動場での事である。上級の生徒は籤引で先生方と組になり、以下は皆夫々相手を求めてカドリール、コチロンなぞのダンスをするのであつた。音に聞く鹿鳴館のそれもかくやありしと今にして思ふ次第であるあとは椅子とり、ピンポン、輪投げ等に打ち興じて午後十時近く校友會の歌で會は閉ぢられるのであつた。（その後間もなく男先生方のダンス參加は廢止となつた）

大正十二年九月三日。　かけまくも畏き　皇太子妃良子女王殿下の御台臨を仰ぐことゝなり一同は感激して只管その日をお待ち申上げてゐたのに、はからずも關東大震災で惜しくもおとりやめとなりガツカリした思ひ出や、我々女敎員の長袖の服裝が筒袖となり被布仕立の上張りを着ることに代り、次いで洋服に至るまでの變遷の數々が、つまらぬ事のやうで伸々の難問題であつた事なぞを思ふと全く可笑しくきへなる「あしたから洋服を着てこなければ門を入れない。」と云つた主事さん、「それならやめてもよい」とまで思ひつめた女敎員今の若い方々にはどうしても理解出來ない事と思ふ。

回想

長岡高等小學校　渡邊ハツ

皇紀二千六百年のこよなきお目出度い年に我が母校の創立四十周の記念を迎へる事の嬉しさは今更私如き拙き筆に言ひ表はす必要もあるまい。しかも此の年が私の敎員としての恩給年限に達する最後の十七年目にあたる事を考へる時に一層意義深いものを感ずるのである。

四十年前と現在とを比較してみる事は其の頃未だ此の世に生を享けない私にとつては到底望む得べからざる事ではあるが十七ケ年前の過去の私の姿を想ひ出してみる事によつて母校の發展の姿を見出す事が出來るのである。

× ×

私が一部生として受驗した年の一、二年前から受驗資格が高二から出來る事になり、田舍から丸出しの私が父に連れられて長岡市といふ土地を始めて踏み、あの舊運動場の中で胸をとゞろかせながら赤い罫紙に毛筆で答案を認めたことを想ひ出す。ごうせ色々の事情で受驗準備をろくにしなかつた私であるから今年は駄目だらうとの氣安さが幸したものか試驗にパスしたとの通知が鄕里に歸つてゐた私の手元に舞込んだ時の喜びは未だに忘れる事が出來ない。かうして始めて一部生

四十名の中の一人として寄宿舍生活を始めたのである。

× × ×

其の頃（大正九年）の師範の方の服裝をいふと、髮は二百三高地の名殘が未だにあつた時代とみえて皆髮の中へスキ毛を入れてボン〳〵ふくらまして居られた。師範生になると皆髮を出す事にしてあるのださうだが、高等科時代桃われを結つてゐた私にはそんな髮を結ふことも知らすに室長さんから結つて貰つたがそれもどう〳〵私共の學級から一束髮を許して貰ふことになつたのである。今の方々が一束に髮をつかねる樣になつたのは私共の頃からである。

着物は三分綿より大きいのを着るなといふことになつてゐたさうだが私共の頃からぼつ〳〵大柄のものを着る樣になつたかうやつてごうやら少しづゝ現代化して來たのである。

洋服といふものを着る樣になつたのは私共が二年生になつた頃かと思ふ。それも洋服とは名ばかり木綿入りの体操服でワンピースといへばハイカラに聞えるが考へるとどても滑稽な上下つづいた服を得意になつて着たんである。それでも當時の私共にとつては此の上ないモダンな姿として考へてゐたのである。此の服を着て記念撮影をした人々が數十名はたしかにあつたと思ふ。

私が師範時代、否一生を通じて忘れ得られぬ事は大正十二年皇后陛下（當時久邇宮良子女王殿下）が御父母宮殿下、御妹宮殿下御共々に私共の母校へ御台臨遊ばされるとの光榮が震災の爲にお取止めになつた事である。私は其の頃、第一學期の教生を終つたばかりだつたので教生指導の先生の御厚意により御前授業をする樣にとの光榮ある御命令を受け毎日其の準備授業をやつてゐた最中だつた。余りの光榮に強い責任を感じてゐた私は其のお取止めにがつかり力抜けがしてしまつた。勿論學校も門の塗換も終り御台臨を待つばかりになつてゐた事とて皆が落膽された事は申すまでもない。あの時に御前授業の光榮に浴してゐたならば孫子の末までの自慢話になつたのにと思ふと未だにあの震災がうらめしい。

× × ×

それから數年再び母校の所在地に奉職する身となり時々母校の門をくゞるが母校にも記念會館、体育館と順次に新築され本年又私共待望の奉安殿も出來上らうとしてゐる。外觀に表はれた學校の發展もさる事ながら其の間に見えざる精神的の發展振りも在校の方々の色々の成績物に拜見させて頂いて年毎に伸び行かれる後輩の方々の頼もしさを感じさせられる。又それにつけてもかくまで慈愛をもつておほし立てゝ下された母校の教職員の方々のお力をしみ〴〵有難く思ふのである

○

昭和四年卒　樺澤フジノ

皇紀二千六百年、聖戰始つて滿三年、國民學校案はいよ〳〵實施の準備期を控へ、見るもの聞くものすべてが何かしら身内を引きしめ、今こそ眞に教への道にいそしむ者の内にある愛と熱とは惜しみなく發揮せられる記念すべき歳、恰も母校の創立四十周年の榮ある記念の式典あるを聞き、小出驛より五里の奥、一日の出席に三日かゝる。しかも家庭には幼い子供四人が母の手から一日も離れ得すと云ふ不便さの中にあつて私の心は六月十六日へと馳せ參じて居りました。弱い乳兒を何とか外泊出來るまでに丈夫にしなくてはと夜がな晝がな注意と努力を續けて、ごうやら二日三日の旅行に耐へられるまでに育てましたる如何に私が大式典に連る事に大きな希望と喜びを持つてゐました事か。

× ×

大講堂立錐の余地もない來賓の方々、會員の皆樣、みな〳〵私共の大先輩、多事多難な非常時日本を負ふて立つ雄々しくも亦いたいけな附屬校の小國民達、日に月に進む文化を思ふ存分我が物にして明日の奮闘を目標に、希望に輝く在校生の皆樣のいぶせき一つせぬ感激は拙き筆に盡し得ませぬあの喜びが、最後の校歌合唱に於きまして遂に嬉しさの涙と變りましたのも、私一人のみの思ひとは存じ上げませぬ。

教育の道に携はる者の喜びを一入深く感じ、かくあらしめて下さつた恩師父母の海山に勝る御恩の有難さも今更乍らしみ〴〵体得せられたのでございました。

變らぬ前の姓を呼び合つて私やかな嬉しい大會食の樂しみの一と時は、家庭に社會にもまれ拔いてゐる我身をも忘れ果て十二年の昔に返つて顔の皺を伸ばせていただきました。さしもの大事業を圓滑に成し遂げて下さいました同窓會長樣始め幹事の方々、在校生の方々のお骨折に對しましておくればせ乍ら厚く〳〵御禮申上げます。

× × ×

十二年と一と口に言へば短いやうでも、なか〳〵に變化ある世の動きでございました。大きく國家的に見ても、社會的に見ても、小さく自分の村、家庭、自分の心境を考へてもその余りに大きな動きに驚きます。私が母校を卒業しましてこゝ入廣瀬村、自分の生れた村の先生となりました昭和四年の四月、丈余の雪に埋れた學校へ、「今度師範學校を出た女先生が來た」と云ふので村人は人種でも異るかのやうに始業式に押しかけて來たものでございました。窓の外には毎日二三人のもの珍らしさうな參觀人がのぞいてゐる中で幼い兒童に小便しくじられて慌てゝゐた自分。尋五以上の女子全部の体操を受持つて、ダンスがあるとて全職員に見學せられ、上つてしまつて、號令もオルガンも、しどろもどろの時もあり、秋の

運動會にはこれ又ダンスがあると云ふので村中大にぎやか、準備係、編成係、接待係、衛生係、それに團体競技の指揮と若い男先生そこのけに太い足を棒にしてかけづり廻つた時の張り切り方。

いよ〳〵昭和五年、私がお嫁に行く日、村始つて初めての女先生のお嫁入で見物人が道の通れない程つめかけたには本格的にあきれました。

十二年後の今、三人の校長先生を送迎し、同窓の若い先生も二人送迎して、骨の折れる事はみんな若い方にお願ひして、ガミ〳〵と世話を焼くだけが仕事になつて、家庭でも學校でも世話女房になりすまして居ります。

子供も四人恵まれ現在は健康で、長女が一年生、自分の母に教へられて、くすぐつたいやうな顔をして居ります。

近頃はうつかり揚足をとられて、子供にやり込められて苦笑させられます。長男は來春入學致します。姉より入學がおくれたと云ふので殘念がつて「役場から紙が來れば學校へ行かれる」と役場の手落でもあるかのやうに申します。來春から國民學校となり新卒の昔に返つて、本氣で勉強の出來ます時に自分の子供も二人共新制度による教育を受けさせてやれる喜びも亦意義ある事と思つてゐます。

何時如何なる世にあつても子供は大人の、又親の鏡であります。どこまでも心して我子、人の子の別なく皇道を正しくたゞるべき子供を育てたいものと思ひます。

拙い言葉をダラ〳〵と連ねましてまことに相すみません、星野先生の御好意を無駄にしてお斷りするのも余りに失禮と存じまして厚かましくもペンをとりました。

皆様お健やかに過し下さいませ。

國民學校を迎へるため内に外に充實した御研究を遊ばされてお出の皆様へ絶大の敬意を表し、より幸多かれとお祈りして御挨拶と致します。

（一五・九・二四）

彌彦を望みて

昭和七年三月卒　小松ミヨ

苦しい場所から逃れたいと考へた。先生をやめたいとも考へた。死んだ方が反つて樂しからうとも考へた。

何時の事だつたか、或体操の講習の日の事である。正常歩の練習から駈足の練習をたてつづけに三時間半ばかりやらされたのである。呼吸は亂れ、眼はぐらつき、足は千鳥足になつた。今にものめつて斃れるかと思はれたが、まよよと歯を食ひしばり、眼をつむつて大勢の後に續いて走つた。三分、五分……もう堪らない。頭がぼーつとなつてよろ〳〵とよろめいた瞬間、スーツとその苦しさが体中から潮が引く様に引き去つて行くではないか。眼は定まつた、呼吸はすつと樂になつた、足も輕くなつた。捲土重來、も早ざれ程走らされても平氣といふ氣が身体一ぱいに滿ち〳〵て來たのである。今まで歯を食ひしばつてゐた口もとに笑みを湛へて私は走つた走つた。

これだこれだ、この事だ。今まで口にも言ひ、文で讀み、人にも聞きしてゐながらも隔靴搔痒の感であつたが今こそその眞底に指を觸れた。私は今の感じを抱き締める様な思ひで次々と体を動かして行つた。その後のすべての動作が樂しかつた。嬉しかつた。

苦しみに徹した（あまりに大げさな言ひ方であるが）心の何といふ清々しい淨い明るさであらう。悟りに似た境地であらうか。疲れ果てた揚句床の上に足を投げ出して休んだ時のよろこびではない。仕事をして完成した嬉しさではない。苦しみと喜びが別々にあるのでなく、苦しみ即ち喜びであつたのだ。山に登つて頂上を極めたから嬉しいのではない。苦しみつゝ登るその事がよろこびなのだ。享樂的な喜びでなく、何となく尊き、淨らかさのある喜び、さうしたものをこの時甫めて痛切に感じたのであつた。こゝまで此の苦しみの窮みまで私を追ひやつてくれたその日の講師への感謝は私は言葉では言ひ現せない。

何と單純な肉体的な一寸した苦しみでしかなかつたが、忍耐心の足りない現在の自分に與へてくれた示唆は實に大きかつた。

苦しみを避けやう〳〵として來た自分は、結局喜びをも避けやうとして居た人間であつたのだ。

苦しまう。肉体的にも精神的にも窮みまで苦しまう。瞼せずに眞正面から苦しみと四つに組まう。

子供達よ、一緒に行かう。苦しみ目ざして、神の惠みの苦しみを勇んで受けて人生の彼方へ進まう。お前達のその一人〳〵の美しさを永久に失はずに……

× ×

ふと氣がついた。誰か廊下を通つて行つたらしい。こつこつといふ足音がしんとした校舎に響き渡る。

靜かな放課後の教室は、子供達の殘して行つてくれた雰圍氣があたり一ぱいに滿ち〳〵てゐて、ちつとしてゐると、一人〳〵の子供がまはり中から笑みかけてゐる様な氣がする。磨かれた玉、神様の藝術品、この二三年、お前達と共に在る嬉しさを、何に譬ふべくもない自分だ。

つと立つて窓にもたれた。夕映えに輝く彌彦山が黄金の波の彼方からちつと穩かにこちらを視つめてゐてくれた。我々の日毎の苦しみも喜びも總てを知つてゐて總てを宥してくれる母の懐のやうな彌彦。あゝ今までの何倍かの喜びをもつて苦しみを迎へやうとする自分を彌彦は默つて視つめてゐた。

創立四十週年を迎へて

第卅七回卒業生　後藤きみ

明日は卒業式といふ前の晩に最後の別離の宴が張られた。學生々活の最後は新しい教員生活の出發である。來し方、行く末を思ひ誰も彼もが感慨無量の面持であつた。

校長先生が先づ最初に私達の卒業を祝つてくださつた。

校長先生は一寸首をかしげてゐられるのが癖であつたが其の時もやはり心持首をかしけて慈愛深い瞳でじつと壇上から私達をみつめてゐられた。其の時に始めて私達に母校といふものが如何に有難いものであるかといふ事を教へて下さつたのである。「私達には立派な母校がある。」といふ事は大きな誇であり、又大きな幸福であつた。が、私達はあまり幸福に馴れすぎて其れを切實には自覺し得なかつた今までを反省してみた。

母校を後にして温き師の手を離れて自分一人になつた時、私は校長先生のお話が今更の様にしみ〴〵と思ひ起される事が多かつた。こんな事もあつた。卒業後間もなく隣村でピアノ開きの學藝會を催すからといふので、生徒に遊戯を教へた事があつた。もう日が幾らもないといふのに、生憎ごこを問ひあはせても入要の盤が無かつた。絶版になつたといふのである。途方にくれた時、諦めかけた最後の望をかけて御無沙汰のわびさへ申さずに、

「先生すみません。お願ひします。」と依頼の葉書をお送りした。すると全く意外に速く送られて來た。歡聲をあげて手にしてみると速達小包にしてあつた。私は其れを見た時に其の箱を手にした儘、思はず感謝の涙をこぼした。速達小包と書いてある赤い字の中に私は力強い母校の存在と温い師の情を知つた。それから三年たつた今も猶、お世話になつたり教へられたりする事が絶えない。けれご恐らくこの後何年たつたとしても、この絆が切れるものではないと思つてゐる。

× ×

「……体操は殆ご女の教員は受持たぬ事として、同學年擔任の男の先生に依賴して唱歌などを教へてゐたのでしたが……私等も五ヶ年勤めてゐて殆ご持ちませんでした……。」とかいてあるのは、この間書棚の古本を整理してゐた時偶然發見した「六乃花」である。薄黄くやけて本のとじ目や縁にしみがついて如何にも古ぼけた小冊子である。表紙は雪景色を曲線のみで表はしてあり、其の下に一九二二と横に書いてあつた「さて之は良い物が見つかつた。叔母さんがしまひ忘れたのだな。」と澤山投げ出された本の中に埋まつてばら〳〵拾ひよみをした。ところが拾ひ讀みが拾ひよみで納まらないで、遂に隅から隅まで讀んでしまつた。讀後感嘆やゝ久しうしたのである。

「……一口にダンスと申しますと、雜誌の口繪や新聞などに報導されまして社交ダンスや演劇的ダンスと混同されて批難されるのであります。……私共は二、三のボルカ、フハウスト等の曲線運動をさせて折々世間からとかく批難され云々」勿論、昔も今も同じとは思つてはゐなかつたが、ダンス体育に非ずとまでいはれた時代にも理想を求めてやまず、苦しみ惱んだ事をこれ程生々しく語つてくれたものはなかつた。これは其の六乃花の一例にしかすぎない。

故藤巻先生が運動部役員の筆頭にあげられてあるのをみて、お若かりし當時の先生の面影が懐しく偲ばれてならなかつた又、卒業生寫眞をみると「これが生徒?」と二、三回は念を押したいような大人なお姉さま方が大きい髪を結つて嫣然と並んでゐらつしやつても、私達より以上に若き感激に燃え、私達より以上にロマンチストである事も知つたし、時にK先生の地理や教育の時間なごに居眠りをなさる事もわかつた。何だ詰らぬ……でもいゝのだ。單純な極く些細な事でも、遠くに思ふお姉さま方の温い息吹が直ぐ身近に感ぜられてなつかしい。皆が同じ道を歩み續けて來たのだ。十年前、二十年前、三十年前、四十年前……の先生方やお姉様方があらゆる苦勞を耐へ忍んで開いて下さつた道だ。私達は幸福其のものゝ様に温き師の手から、双手をあげて歡迎してくれるお姉様方の中へ飛びこんだのだ。お姉様方の御力によつて私達は良い先生と爲らう。これから出て來る同じ道の人達の爲にも。

創立四十週年をむかへて、お姉様方の感慨や如何に!!

記念誌を手にして先生やお姉様方の歩み來りし道を尋ね語る言葉に瞳を凝らす私達の喜は!! 紀元二千六百年奉祝の年に目出度く四十周年の祝典を擧げる事の出來た我等の母校を心から祝福したい。

長岡女子師範學校萬歳!!!

現職員生徒

御禮回顧

被表彰者代表　福本方尚

本校創立四十週年記念の佳辰に當り、而も皇紀二六〇〇年の此の佳き年に、我々十年以上本校に勤續いたしました者に對し、表彰の式を御擧げ下さいましたことは、實に感謝に堪へない次第であります。

殊に過分なる御言葉を賜はり、其の上記念品までも御惠與下さいまして全く恐縮の外はありません。厚く御禮を申し上げます。

偖て私が本校に御世話になりましたのが大正十四年の暮でありましたが、爾來、講堂の新築、食堂、浴場、体育館等の改築、又本科第一部第二部の修業年限の延長、新入生募集人員の增減等隨分の變化が此の十五ヶ年間にありました。然し私にとりまして最も感慨深いものは生徒の氣風に就いてどあります。

大正の中頃から昭和の初頃までの社會の風潮には隨分面白からざるものがあつた次第でありますが、やはり之等が其の當時の生徒にも反映してゐた樣でありました。所が近年の狀況は、勿論未だ充分とは申されませんが、以前に比較するならば相當の開きがあり進展を示してゐることを感じます。

今此處で此の變遷の原因等に就いては述べませんが、敎育者が如何に重大なる責任を有するかと云ふことの感を一層深めるのであります。

眞に不敏なる小生等ではありますが、一段の努力を致しまして當校の爲多少でも貢獻する所のある樣に庶幾つてゐる次第であります。

漫々的と沒法子

中支にて　高月桂次郎

支那人に接して見て、先づ感じさせられた事は、其の動作が一般に漫々的（マンマンデー）（遲くユツタリしてゐるさま）である事と、其の思想が、沒法子（メイファアツ）（仕方がないとアキラメルこと）的諦觀に終始してゐる事である。

日本では、遲いものゝ代表に、先づ牛をあげるが、漫々的の支那人は、又不思議に牛と深い關係があるやうである。支那各地では、特に「牽牛童子」とでも言ふべき熟語のやうなものゝ欲しい程、小孩子（ショウハイツ）（子供）が、牛を牽いてゐる樣を、よく見受けるが、支那は何處へ行つても、水牛が澤山居て、日本人が馬を使役愛好するやうに、支那人は水牛を使用する丸々太つた水牛の先に立つて、小童がユツタリ〳〵と、歩いてゐる樣や、大きな牛の背に、横向に乘つて悠々としてゐる樣は、特に親し味を感ずる。田畑の耕作にも、水牛を使用す

ることは、內地で馬を使用すると同じである。一體に支那人と水牛は、そのユツタリとした外形が似てゐるばかりでなく無精なところや氣質までよく似てゐる所があつて、躁急な點や敏捷な所、日本人が馬と一脈相通するのと、よき對象であらう。「日本人と馬、支那人と水牛」の取り合はせは、單に使役愛好する動物と云ふだけでなく、兩國民性がその愛好する動物の上に、可成りの程度表現されてゐるかのやうに思惟される。

日本人は何事も早いのを尊ぶ風があるが、支那人は反對に何をやらせても牛のやうにのろい。昔、周の文王の謀師太公望は、直針で魚を釣つて居たと云ふが、支那人一般は、我々日本人の目から眺めると、歯痒い程動作がのろい。彼等を使用した事のある者は、誰しも、こうした共通感を持つてゐるだらうと思ふが、何事にまれ總べて漫々的である。

一例を擧げると、小學校兒童の登校は十時半か十一時で、歸宅するのが午後の七時から八時で、苦力を使用する場合なご、十時半にならねば集まらぬやうな厭態で、仕事を始めたと思ふともう、晝である。字を書くにも、鋸を引くにも、鉋をかけるにも、物を運ぶにも、彼等には、キビ〳〵とした氣持のよいと云つたやうな動作は、一般に見られない。

苦力を使用する時、我々はよく「快々的」（早く、速かに）と叫んで、彼れ等をせきたてるが、それも一寸の間で、日に何十回と此の快々的を叫ばざるを得ないのである。こんなに漫々的ではと思ふが、彼れ等にして見れば、全く正反對の事を考へてゐるだらうし、漫々的なるが故に、萬里の長城も出來たし、文化の創造も可能なのだと、誰かに聞かされた事なご思ひ出して、「早秀は晩成に如かず、濃夭は淡久に及ばず」か等と、菜根譚か何かで讀んだ彼れ等の信條を、稱場して見ても、實際的には發展性が少い國民性であると、考へさせられる。

動作の漫々的に對して、彼れ等の思想を一寸檢討して見ると、沒法子的諦觀に根强く支配されてゐることがわかる。我々でも愉快な時は、言語も動作も自然活潑に、キビ〳〵して來る事を感ずるが、「仕方がない」と思ふやうな時は、なか〳〵尻を上げないものであるが、沒法子と漫々的にも、何かこうした因果關係のやうなものが、ありはせぬかと、穿鑿して見たくなる程である。治亂興亡極まりなく、四千年の長い間屢々夷狄の爲に、惱まされ通して來た彼れ等としては、傳統的に父子何十代の昔から、此の沒法子を唯一の信條として生活して來た事であらうと、同情の念さへ禁じ得ぬ程であるが、彼れ等は口癖のやうに沒法子を連呼する。被征服民族の信條でもあらうが、我々から見たら全く情ない國民に見えて、憐憫の情さへ浮んで來る。然し彼等にして見れば、沒法子程確かな信條はなく、下手に反抗すれば、手ひどい目に逢はされ

る事は知れ切つてゐるから、何千年來の習性で、すぐあきらめて參つて終ふのであらう。然し沒法子は、飽くまで沒法子で、喜んでやつてゐるのでないから、少しでも同情したり、彼れ等の言ひ分を許容してやらうものなら、際限なく調子付いて來るから、自然沒法子的に、グン〳〵抑へて行く事になるが、宣撫上の言ひ知れぬ苦心が　此の邊にも多々ある。

大聖孔子自身さへ、『中庸は期月も守り難し』と述懐してゐるやうに、支那人には中庸は求め難い。これは地理的影響にも依るだらうが、海洋性氣候に惠まれて育つた我々より、大陸的氣候下に喘ぐ彼れ等が、極端に走り易いのも無理からぬ次第と、肯定出來ぬ譯でもない。

從つて、かうした國民性の彼れ等に、皇道精神等說き聞かせても、分るわけはなく、寧ろ愚惑並び行つて、形から訓練する方がより効果的である。

然し彼我両軍の彈丸下にあつて、平氣で農耕に從事する百姓を見たり、再生の迷信に關聯してゐるとは云へ、死の直前に於て尙平然たる彼れ等を見る時、その根底が忠君愛國的道德上の根據に立つものでなく、幾世代傳承された沒法子的諦觀思想によるものであるとは云へ、死を感ぜざる勇者的態度には、時に驚嘆せしめられる事もある。

傳統の力は眞に恐ろしいものである。彼れ等中華民族にも祖國を誇るべきよき歷史があつたなら、もつと力強い生き甲斐のある自主的な生活が出來るだらうにと、人事ながら、東亞の友邦に同情せざるを得ない。

齲つて、女師四十年の歷史を見れば、憐れな支那の傳統に比して、光輝燦然たる事は日月のそれのやうなもので、春秋星霜を重ねる毎に益々榮え、以て今日の盛事を見た事は、衷心歡喜に堪へない。作戰地上陸以來一ヶ年半、野に伏したり、山に寢ねたりして、轉戰する事數十回、今日尙無事で御奉公出來るのも、バックにある光榮限りない女師の力の賜で、遙かに感謝の意を表する次第である。平素の無音も併せ謝し各位の御健勝と女師の彌榮を祈つて此の稿を終ることにしたい

四十年祝賀の歡喜學園に
　　澄るを見たり矛とる吾れも　　桂園

創立四十週年を迎へて

專攻科　齋藤フジ

輝く紀元二千六百年を迎へた昭和十五年は、愈〻萬邦無比の國體を宇内に宣揚し、又世界的のこの大動亂に際會し、益々國體の尊嚴さ、無窮さを海外にしらしめた。

私共は遠く遡つて神代よりの悠遠なる歷史を考へるまでもなく、降つて、こゝに二千六百年の歷史を重ね來つたことを思つても、はかり知れない無限の歡喜と感謝の念とに咽ばざるを得ない。皇國民衆つてお祝ひすべきのよき年に、偶然にも我校の創立四十周年の記念すべき年を數へることの出來たことはなんたる喜ばしき、誇しさであらう。

淺みどりに晴れ渡つた六月十六日。この日はまことに祝するものゝ幸福に滿ち足りた日であつた。掃き清められた校庭の隅々から、新綠に輝く一木一草にも、何かしらゆかしい心ばせが感ぜられるのであつた。莊嚴なる式場は新綠の香にあふれ、器に盛られた夏菊は高貴な香を漂し、只でさへ一種言ふへからざる新鮮なる心血の躍動を感ぜしめずにはをかなかつた。こゝに朝野貴賓の御臨席をあほぎ、同窓の方々と席を同うして、輝しき歷史の跡を顧み、先人の功績を偲び、更に新しき時代への使命を約された三百余名の魂は必ずや何かしら力强い感激に滿されたことゝ信ずる。この感激を更に私共は發展させなければならない。東亞新秩序の世界的大事業を完遂すべく一億臣民が一齊に奮起したこの時、敎育界に於ては國民敎育が劃期的刷新をなされたことを思ふと一層この年の意義深きことを痛感し、自覺自奮しなければならない。

この春、級の人達は勇しく社會へ飛びだして行つたのに、私達だけ依然として母校に夢を貪つてゐる。然しその甲斐あつて、級會誌を發行することに、級會を催すことに目のまわる程忙しかつた事も、畢竟はこの記念式の賜であつた。母校の記念式と共にこの事は私達にとつては大事業であつた。この爲に奔走してゐた當時のことが今更懷しく蘇つてくる。記念式の感激にもまして、級會の感激は今思ひ出しても涙が出る。眞に生るゝものゝ苦しみと、生きるものゝ幸をしみ〴〵味つた。この記念式は三年間の師範生活に輝かしい光彩を添へるものである。しかし徒に過去の追憶に耽つてはならない若いものは未來に生きねばならぬ。我校が四十年の歷史を重ね來つたとは言ふものゝ、決して古いとは言はれない。記念といふ意義も單なる回顧的興味に留ることなく、新しく出發する一契機となすべきである。生々發展は生物に與へられた本能である。躍進の意氣に燃える我國が無限に發展せんとすることも亦自明の理であつて、この爲には何と云つても國家の實力を養ふ事が重大問題である。有難き聖旨に仰せられてゐる如く、これは第二の國民に課せられた大事業である。直接この國民敎育に從事する私共は、生き甲斐のある時代に生れ合せたことを感謝すべきである。

今年は又國民敎育の大本たる敎育勅語をお下しになつてから丁度五十週年に當る意義深い年である。このお勅語をお下しになつた聖慮を畏み、益々有難き聖旨のほどを深く胸に刻み、千載一遇とも言ふべきこの機會を契機として、私共は尊い天職を全うすべく渾身の意氣を以て、光輝ある歷史と校風とを併せ護り、感激に滿ちた歩をつづけんとするものである。

創立四十周年を迎へて

五　年　榎本六女子

輝く皇紀二千六百年。こよなき佳き年に巡り合ふ事の出來た我々には、又本校創立四十周年が運命づけられてゐた。

長い、長い、歴史。

國家の隆盛と歩調を揃へて、目覺しい發展を遂げつゝあつた我が校。今此處に創立四十周年を迎へて、感激は此の上も無く、我等の心深く滲みこんでくるものがある。

遠く先人の歩み給ふた道を靜かに振り返つて見ると、流れた水の巡り巡つて再び自己の懐に立ちかへつた感。

感慨一入深く瞼の熱くなるのを禁じ得ない。

理想の宮の鐘の音の微かな響きを朝な夕な耳に育くまれて來た我々。幾千の人を守り、そして幾千の人を見守つて行つてくれるであらう此の鐘の響き……。

過去四十年の歴史に物寂びた鐘もひゞきは永久に變り無く、我々の方途を力強くうち守つてゐてくれるのだ。

聞えてくる。

四十年の歴史を含めた淡い鐘の響きが……。

立たう！いざ立たう！奮起しよう！

巡り合せた幸福をただ漫然と喜んでゐるばかりでなく、喜ぶに足る人間となつて！

非常時局に際會して、難局を打破し、曠古の大業を全うし得る覺悟と強い意志と、そしてその實行力を持つ人間となつて……。

幾千の大先輩の進まれた偉大なるそして正しき道を受け繼いで歩むだけの力のある人間となつて……。

優しい心の持主となつて……立たう！

よく考へて味はつて見たい、よく考へて、

芙蓉の雪のあけくれに
　尾上の松は深緑の
變らぬ操うつすなり
　映華の歴史をかへりみて
理想の宮の鐘の音は
　永久の信念に響けかし
理想の宮の鐘の音は
　永久の信念に響けかし

奉祝の歌

五　年　孫　淑　貞

さしのぼる天つ日のごといやさかに光あまねき二千六百年

さしのぼる朝日の如くいやさかに我が學び舍は四十年を迎ふ

信濃邊に宇宙仰げば月清し我が友邦のうるはしくもあるか

四十周年を讃へる歌

二部二年　江里口　ユキエ

一、その名もやさし悠久の
　若やぎ渡る春の日に
　集ふ幾多の先人と
　共に迎へぬこのよき日
　あゝ光輝ある我が母校

二、明治の御代に生受けて
　此處に四十の年を履む
　古き歴史の我が校舍
　祝へ若人もろともに
　あゝ誇りある我が母校

三、朝な夕なに育みて
　幾多の人を世に送る
　尊き使命身に帶びて
　輝く歴史四十年
　あゝ感激の我が母校

四、我等若人三百は
　古き歴史を負ひ持ちて
　今此處にこそ來るなれ
　仰げ榮ある我が校舍
　永久に讃へん此の傳統

五、嬉し悲しき事々に
　常に仰ぎし我が校舍
　幾多の人の織りなせる
　尊き錦見つめつゝ
　永久に皇國を守らなん

創立四十周年を迎へて

一部四年　櫻井　スイ

昭和十五年六月十六日!!

永久に私達の腦裡からは去ることの出來ないであらうこの日まして神武天皇御弓の御先にとまりし金のとびが天下に御光を放ちて以來既に二千六百年。

重なる此の感激。歴史は古し先人の歩み給ふた後を靜かに靜かに考へる時自ら何かしら奮ひ立つを覺える。

創立四十周年記念、本校創立以來四十周年にもなつてゐるのかと今更校舍内を振返つて見ざるを得ない。あの記念式の時お出でになつた人達それは皆々私達の踏んで行くべき道の礎を作つて下さつたんだ、決して〳〵その苦心を忽にしてはいけないんだと固く誰しも誓つたであらう。

校歌にもあつた「古今のことも知り、結び上げたる黒髪の」

さうだ、この學校に入り、この學校を卒へて行つた人達は、すべてこの文句を口すさみ、そして眞直ぐな道を邁進して行つた。

時正に多事多難である。時局に遅れず否すべてを指導せんとして進まねばならない。

やらう精一ぱいの努力を持つて。

皇紀二千六百年のよき年に
創立記念日をむかふ

二部一年　洪野富

どうすめらぎのかしこくも
はじめたまひしおほやしま
あまつひつぎのつぎ〴〵に
御代しろしめすたうときよ
あふげばとほし皇國の
紀元は二千六百年

年はもゆかぬ子供達まで小さい胸をはり聲をそろへて歌ふこの二千六百年奉祝歌、一億國民の喜び感激はこの短い歌のリヅムにのつて堂々と歩調をあはせて進軍し、奉祝の聲は全國津々浦々にまでひびき天地にこだまして力強い日本の永久の發展を確保してゐる。

おもふに天祖天照大神が御神勅と共に皇孫をこの國にお下しになり、その御神勅のまに〴〵御歴代天皇は國土國民をおいつくしみになり、君民一体となつて、今に至つたのは決して奇遇ではない。元冠にしろ、日清・日露の戰爭にしても、そこにははかり知る事の出來ない大御稜威皇祖皇宗の大御加護と幾多の國民の獻身報國の賜の外になんであらう。

世界に國は澤山ある　老國として、强國として、我にまさる者なしと威張つてゐる國も決して無いではない。しかるに現在の有樣を見ると、あまりにも、いたましい、悲しい運命をたどりつゝある國がどれ程あるだらうか。

流行の先端をゆくフランス、大海軍を世界にほこつてゐる老英國……かうした夢もさながら一朝一夕にして空しく敵國の爆撃をうけてゐる次第である。それにひきくらべて我等國民は何と幸福なことであらう。何と有難い國に生れたのであらう。すでに聖戰四年をむかへ　新東亞建設を目標として未だ嘗てない大非常時に直面して、著々と歩を進めて理想に近づいてゆく我が大日本帝國。

その力强い日本を今後處理してゆく者は誰であらう。外でもないそれは未だ幼い第二の國民である。その重大な責任をもつて成長する第二の國民の教育の任にあたつてゐる我等師範學校の生徒の責任も又重大と云はねばならぬ。

かゝる意義ある年に我等は又創立四十周年記念式をむかへ、

益々自覺自省して考を新にしたのである。

一國の盛衰を支配するのは即ち國民自身であり、國民精神の剛健であるや否やである。これは古今の歴史の多く物語るところで、現にフランスはその悲運を辿つてゐる。

それ故、國民を立派に育て且國家の隆昌發展を目ざして我等の先輩は常に努力に努力を重ねて、小學校教育に邁進して來てゐるのである。かうした事を考へると共に我等が片時も忘れてはならないのは、昨年五月二十二日、青少年學徒にお下しになつた勅語である。

我等はこの勅語の御精神をよく〳〵奉戴して、あつぱれ第二國民の教育にあたり、世界いづれの國にもひけをとらぬ樣、又美しい歴史をもつた本校の名譽をきづつけない樣、そして二千六百年に築えて來た日本を更に二千七百年、二千八百年、三千年、五千年。いやもつと〳〵天地と共にきはまりなく續いてゆく樣に全力を發揮して、各々あたへられた職務に精出すべきである。

沿革

皇紀二千六百年國を擧げて壽き奉る此の佳き年に、本校は創立四十週年を迎へ、去る六月十六日盛大なる記念式が擧行された。我等本校に職を奉じ又本校に學びの道に勤しむ者にとり何と言ふ光榮であらう。我が國史が肇國の精神の展開である如く、我が校には創立以來四十年の傳統がある。我等が學び舍には在る物凡てが歷代校長を始め職員並びに先輩諸姉の滲む樣な血と汗の結晶である。

茲に我等は本校創立以來の沿革を尋ね本校發展の跡を辿つて見よう。

一、女子部時代――本校の母體――

本校が獨立した女子師範學校として創立されたのは、明治三十三年四月一日であるが、その前身は更に遡つて明治十二年七月新潟學校師範學部の分場として修業年限三年の女子師範學校の創設に始まる。此の時の募集生は明治十五年九月に卒業したが、是れ即ち第一回卒業生で人員は二十二名であつた。次いで明治十九年十二月新潟學校師範學部を新潟縣尋常師範學校と改稱し女子部を併置した。

○女子部の移轉

其の後明治二十一年四月女子部は其の頃縣立の醫學校が廢せられて校舍が空いてゐたので、夫れを充用して男子の師範學校とは全然別校内に置かれた。その頃主として女子部を管理されたのは藤田寛次郎教諭で、舍監は町田コト子、高田セン子教諭であつた。

○師範學校火災

是迄は着々順調に進んで來たが端なくも一大難事が起つた。それは明治二十三年十二月三日師範學校食堂より出火し本校全

燒した事である。時の知事は千田貞暁氏で校長は小野恒方氏であつた。小野校長は前任地青森師範學校で火災に遇はれ又々災厄に遭遇せられたのである。生徒一同深く校長に同情し、斯くなる上は如何なる困難をも凌いで學校は休業せずして繼續して貰ひたいと要望し、校長も生徒の意氣に感ぜられ火災後僅々二、三日の休業のみで授業を開始した。即ち先づ女子部を新潟病院の一部に移し男子部之に代つて移り不足の個所を兎も角も彌縫して附屬小學校をも設けた。此の時寄宿舍はないから男子部生徒は皆市内に下宿し、女子部だけは病院内に寄宿せしめた。本校同窓會副會長田中千之先生はこの時の在校生である。

○常盤岡に新築

明治二十六年十一月に常盤岡に新築の校舍が出來、男子部と共に女子部も其處に移轉した。

其の後三十一年四月師範教育令改正により校名を新潟縣師範學校と改められたが女子部は依然として存立した。

○女子部時代卒業生徒數一覽（自明治十五年至明治三十三年）

二二(十五年)　○(十六年)、一九(一七年)、○(一八年)、一二(一九年)、三(二十年)、○(二十一年)、一三(二十三年)、一二(二十四年)、二〇(二十五年)、一七(二十六年)、二一(二十七年)、二九(二十八年)、一九(二十九年)、一八(三十年)、一五(三十一年)、二〇(三十二年)、二〇(三十三年)

○女子部時代の回顧

以上記する所は女子部時代沿革の大要であるが茲に女子部時代明治二十四年度の御卒業で長岡御在住の本校同窓會副會長田中千之先生にその頃の思ひ出話を御聞きし之を女子部時代の結びとしよう。

△入學志願者不足

當時は未だ小學教育の進歩せぬ時代であるから、いざ募集して見ると應募者以外に少く、學校側から盛んに勸誘した程で志願者の募集には相當骨が折れた樣である。從つて規則には年齡の制限もあつたであらうが實際はまち〳〵で田中先生の級にも

相當の年長者があつたとの事である。前揭の女子部時代卒業生徒數を見ても解る如く、志願者皆無で卒業生の欠けた年次もあつた。從つて毎年一學級を編成する事が出來ず設立當初は隔年位であつたらしい。女子部時代は卒業生徒數も毎年不足で而も二十名を越した年次は殆んど無く、少い年は僅か三名と言ふ淋しさで如何に募集難であつたかと解る。尙は當時の試驗科目は全科目で特に漢文は難しかつた相である。論語の本文を讀めと言はれてこれが本文だか解らず註を一生懸命に讀んだと言ふ傑作もあつた相である。

△學　科

科目は別に現在と變りはなかつたが、修身は小學、論語、漢文は八家文、音樂は既にオルガンを使用してゐたが卒業後農村に奉職すればオルガンのない所もあるので琴も習はれた相である。體操は亞鈴體操、球桿體操が主であつたとか。遊戲はその頃「民草」と言ふのが流行つた相である。其の他物理も化學も地理も歷史も課せられた相である。先生の講義は口授で中には教科書を學校から貸與されたものもあり、漢文の教科書等は訓點のあるものもあればないものもあり、漢文の三宅先生はそれに無頓着口授を續けられた相で、田中先生の印象に特に殘つてゐる相である。然し大部分は教科書なしの口授で生徒は一言たりとも漏らさじと筆記した相である。

△服　裝

當初は着物に廣い角帶であつた相だが田中先生の一級上の級から强制的ではなかつたが洋服になつた相である。その當時の洋服を田中先生御在學中の寫眞で拜見すると上着は身體にぴつたりと附着しスカートは非常に長く足の先迄届く程で一見朝鮮服の感じである。中にはスカートに前垂れ(?)をつけてゐるものもある。でも當時の洋服としては時代の尖端を行くもので洋服に革靴を穿いた當時の女子部生徒はさぞかし世間の憧憬と奇異の的であつたらう。地は木綿のサラサであつた。但し儀式の時は紋服着用だつたとの事である。髮は束髮で入學すると結髮用櫛、トカシ櫛、スジタテ、スキ櫛等の櫛道具一切を學校から給與された相で、それにカモヂまで添へられたのには田中先生も仰天なさつたとの事である。

△樂しかつた事

樂しかつた事は遠足である。當時は新潟から村上や新津によく遠足に行つた相で筆者は田中先生の村上遠足の際記された村上紀行を見せて貰つた。當時は汽車の未だなかつた時代の事とて船に搖られ乍らの遠足でそれが又格別樂しかつた相である。

△寄宿舍生活

當時も現在と同じく生徒は全部入舍、訓育は極めて嚴格であつたと言ふ。外出は一週間に一、二度しか許されず、多く保證人の所へ遊びに行つた相で、歸りには保証人の認印を貰つて歸つた相である。でも外出の際は十錢ばかり小使を貰つたとか。夜間外出は嚴禁。たつた一度憲法發布の日九時頃迄夜間外出を許されその時は籠の鳥が開放された如くぞんなにか嬉しかつたとの御話であつた。寄宿舍生活で樂しかつた事は各自御菓子を造つてお部屋の人と一緒に食べた事……。歸省も亦樂しかつた事の一つであつた。當時は汽車はなく田中先生の如きは川蒸汽で新潟を早朝出發し夜遲く長岡に着かれたと言ふ。今なら二時間で歸れるものを半日もかゝつたのである。それだけに歸省は一層樂しかつた。

△學　費

生徒は全部給費を支給され額は不明だが給費だけで學費は尙ほ余り、余つた金は貯金して卒業の時その金で盛大な謝恩會を催したとの事である。

二、新潟縣女子師範學校時代

○　女子部の獨立——長岡に新設——

明治三十三年四月一日新潟縣第一師範學校女子部分離獨立して新潟縣女子師範學校と稱し長岡に新設され、玆に本校は呱々の聲を擧げた。抑々女子部の獨立については明治三十年勅令第三百四十七號師範學校生徒定員に關する規定の發布によるもので、時の知事勝間田稔氏は明治三十一年八月臨時縣會を開き師範學校擴張案を提出された。その內容は男子部を新潟と高田に女子部を長岡に設置し、定員は同規定によると年百五十三名の卒業生を出さなければならず、それが爲には平素六百名以上の生徒を養成せねばならぬ。而して之等の者を一校に收容することは訓育上管理上効果期し難い爲男生徒の定員を五百二十名、

内新潟二百八十名、高田に二百四十名、女生徒の定員を百二十名、計六百四十名とするのが原案の趣旨であつた。然しこの原案が可決される迄には幾多の經緯があつた。縣會に於ては三校論、二校論と甲論乙駁し、又新設校の位置については高田、柏崎、長岡等の諸案があり、特に柏崎派は活躍著しかつた模である。長岡に於ては川上淳一郎、鈴木義延、本間彌平治、大森佐七郎の諸氏が教育上の見地より、又師範學校の性質上より男女兩校とも縣の中央長岡に設置するを最も適當とすとの主張をなされる等何れとも決し難い情勢であつた。然し結局縣會に於て決戰投票の結果新設の男子部は高田に、女子部は長岡に確定し原案通り可決されることゝなつた。

○あけぼの

△初代校長

女子部獨立して新潟縣女子師範學校となるに先立ち明治三十三年二月十四日を以て、新潟縣視學廣瀬吉彌氏初代校長に任ぜられた。先生は安政四年三月の生れで當時四十四歳。本籍新潟縣、學校は高等師範學校中學師範學科御卒業の方である。次いで同月十六日には校長職務章程、三月十六日は本校規則附屬小學校及幼稚園規則成り本校施設の計畫は略定つた。斯くて廣瀬校長の創業の苦心並々ならぬものがあつた。

△創立時代職員

創立時代職員一覽表（據新潟縣女子師範學校第一年報）

氏名	資格	職名	就職年月日
廣瀬吉彌	高等師範學校中學師範學科卒業	學校長	明治卅三年二月十四日
内田慶三	全國語漢文專修科卒業	教諭	全　三月三十一日
澤吹忠平	新潟學校百工化學卒業	全兼舍監	全　四月十二日
萩原此吉	高等師範學校教育學科卒業	全兼主事	全　三月三十一日

藤巻直治	東京美術學校卒業	教諭	全　九月二十七日
秋月耕野	全	全兼舍監	全　三月三十一日
高山ミシミ	全	全兼舍監	全　四月四日
深田豊總	東京簿記專門學校卒業	助教諭兼舍監	全　三月三十日
植村國	文部省檢定	訓導囑託	全　十一月十七日
近藤正武	新潟學校尋常小學科卒業	全	全　七月七日
水戸部寅松	新潟縣師範學校卒業	訓導	全　三月三十一日
田中彌太郎	全	全	全　三月二十七日
今井キク	全	全	全　三月三十一日
淺見イスミノ	全	全	全
加藤萬代	全	全	全
鈴木マツ	全	全	全
中山清	全	全	全
前田レン	全	全	全
本莊喜一郎	全	全	全　三月十七日
本田恕藏	全	全	全　三月十四日
小林龍平	全	囑託教師	全　十一月三十日

備考　早崎梗吉氏（圖畫）　明治三十三年三月二十七日ヲ以テ教諭任命　全年九月二十七日依願免職
伊野宮茂長　全　四月七日ヲ以テ教諭任命　全年六月二十九日高田師範へ轉任

△生徒募集

本校創立と共に本科生四十名募集した所、應募人員百二十九人で、三●二倍と言ふ激甚なる競爭振りで女子部時代と比べれば雲泥の差である。更に應募者を郡別にすれば中頸城郡三一、新潟市一六で最も多く、東頸城、東蒲原二郡は各一名で最も少かつた。而して入學者は中頸城郡、新潟市六名で最も多く北、南兩魚沼郡は各一名で最も少かつた。

斯くて創立當初は獨立したとは言へ在學生徒一年四〇名、二年三一名、三年二七名で計九八名、三學級編成の小規模な學校であつた。

△創立時代經費

イ、本校の新設費については明治三十二年度歳出臨時部豫算に計上されてゐる。即ち

金九萬七千四百八拾九圓六拾參錢八厘（女子師範學校費）

內譯

金八萬四千六百貳拾九圓六拾五錢八厘（建築費）

金壹萬貳千八百五拾九圓九拾八錢（校費）

ロ、明治三十三年度歳出經常部豫算

壹萬八千貳百六拾七圓七拾八錢壹厘（女子師範學校費）

△新築校舍へ移轉

女子師範學校創立當初は長岡の校舍は新築工事最中であつたので新潟師範學校の一部を借りて開校したが明治三十三年八月十五日長岡の新校舍一部成れるを以て移轉し、寄宿舍の一部で授業を行つた。當時職員も生徒も新しい校舍で新生活が始まると言ふ所から、元氣は充ち溢れるばかりであつた。

△附屬小學校開校

本校創立の基礎次第に確立すると共に明治三十三年九月十日始めて附屬小學校を開いた。初代主事は荻原此吉教諭であつた所がいざ募集して見ると入學者尋常科七九名、高等科二六名、定員に達せざる事尋常科七一名、高等科二四名で、定員の半分にしか過ぎぬと言ふ有樣で募集には隨分骨が折れた。當時の學級編成は左の如くである。

尋常第一學級（尋常第一學年）男五　女二五

尋常第二學級（尋常第二學年）男二　女二一

尋常第三學級（尋常第三學年）女一三　（第四學年）女八

高等科（單級）（第一學年）女一〇　（第二學年）女一　（第三學年）女二　（第四學年）女八

尚ほ當時の兒童は市內よりも遠隔の農村及隣村の川崎村出身者多く學力劣等で到底豫定せる教授を授くること出來ず教科課程を低下し基本教授より着手した程で學年末に於て卒業修了證書を授與するに當り百余名中五十六名の證書不授の生徒があつたと記錄に見えてゐる。操行に至つては概して順良ではあつたが、半面言語野卑、動作輕率で之が訓練には學習訓練と共に並々ならぬ苦心があつた。

△外出には袴を脫す

當時の制服は和服であつた。所がこゝに面白い話がある。現今では女學生といへば全く袴をはかぬ者はないが之が女學校生徒の制服として採用されたのは明治三十四年頃で、現今なら女生徒は舍內では袴をはかぬ共宜しいが外出の際は必ず着物の場合は袴をはかねばならぬと言ふ所だが始めて制服に採用した當時は兎角見慣れぬ爲世間の物議を招くから寄宿舍に於ては必ずはかせたが外出の際には取らせたと言ふ珍話が殘つてゐる。

△挿花點茶の課外教授

明治三十三年九月十八日始めて挿花（三年）、點茶（二年）の課外教授を行つた。現在一部四、三年に課せられてゐる挿花點茶は此の時に由來する。現生花の佐藤先生は此の時以來の先生で實に創立以來御奉職の唯一の方である。

△同年十月九日尋常小學校女子准教員講習科四十名（志願者百二十三名中）入學許可、四學級となる。
△明治三十四年三月十九日兩陛下の御眞影奉戴す。
△仝年三月三十一日附屬小學校生徒漸次增加し百十名となる。始めて幼稚園を開き幼兒八十名募集。

△ 學び舍落成

明治三十二年八月十四日起工せる本校新築工事は明治三十四年五月十六日を以て落成す。地坪八四一六坪、建坪二四五二坪三合七勺、本校には教室十二、附屬小學校及幼稚園には十五、其の他教務、事務、圖書、機械、標本、應接諸室一切整備し寄宿舍に自習室二十（寢室を兼ね）、其の他食堂、病室、理髮室、養蠶室の設備もあつた。但し養蠶は時を待つて行ふ事とした。今農場の片隅に桑樹が殘つてゐるのはその頃の名殘りである。

斯くて六月十六日に盛大な落成式が擧行され文部大臣代理官野尻視學官、柏田縣知事を始め來賓男百三十名、女八十六名の臨場を辱うした。それ以來本校に於ては六月十六日を毎年創立記念日としてゐる。尙ほ落成式擧行の翌、翌々日の二日間一般人に學校縱覽を許したが非常に賑ひ二萬五千人位あつたと記錄に殘つてゐる。

△ 廣瀨校長退職

廣瀨校長は初代校長として創業の苦心をされ折角落成式をすまされたばかりであるのに僅か在職一年十ヶ月で明治三十四年十一月六日職を辭されたのは甚だ遺憾である。

○ 第二代校長時代

明治三十四年十一月六日廣瀨校長の後任として廣島師範學校教頭川面松衛氏來任せらる。本校の內外の施設は川面校長時代に完成したと言つてもよい。無論創業の功は廣瀨校長にあるが夫れを完成せられた川面校長の功績は沒すべからざるものがある。左に川面校長時代の特記事項を列擧しよう。

明治三十五年一月八日本校內規改正本日より實施す、即ち教務分掌規定、職員服務規定、職員會議規定、（現行の第一種、第二種職員會議の別は此の時定められた）生徒心得、附屬小學校管理細則等の諸規定が定められてゐるが之等の規定中今尙ほ繼承されてゐるものが多い。左に當時の生徒心得の要點を記し當時の教育方針を伺はう。

一、忠孝は人倫の大本、生徒はその旨を體する事。
一、公德を養ふべし
一、精神の鍛鍊、德操の鍊磨。
一、規律を守り禮節を重んずる事。
一、學友の和。
一、貞淑なる美德の涵養。
一、着實なる勉學。
一、身體の健康に留意。

仝年三月三十日新潟縣女子教育會發會式を擧ぐ。
仝年四月一日尋正講習科開設、併せて五學級となる。
明治三十六年四月六日音樂裁縫專科四十三名入學六學級となる。
明治三十七年二月十二日滿洲出征の兵士を長岡驛に送る。
爾後翌年七月迄出征兵士を歡送する事三十余回。
仝年十一月二十六日教員生徒一同第十六聯隊第三十聯隊の出征者に繪葉書五千枚を寄贈す。

三、新潟縣長岡女子師範學校時代

明治三十九年四月一日校名を現在の如く長岡女子師範學校と改められた。今日古志郡西片貝尋常小學校を本校二部教授研究所に充用す。
明治四十年四月一日古志郡川崎尋常小學校單級教授研究所に充用せらる。仝日高等科正教員講習科豫備科創設。

○ 閑院宮同妃兩殿下の御臺臨

明治四十年七月五日赤十字社新潟支部總會、愛國婦人會新潟支部總會に御臺臨の閑院宮同妃兩殿下御來岡になり本校へも御臺臨になつた。本校にては之を千歲一遇の光榮となし、御歡迎につき色々と研究の末校內に大淸潔法を施行し誠心誠意御歡

迎申上げようと言ふ事に決定した。此の時本校生徒の熱心なる働は非常なもので、授業の余暇一同自ら勞力を厭はず洒掃に從事し、汚い板でも何でも石鹸で洗つたり、さしもの廣い學校建物全部を輝くばかり磨き上げた。當日兩殿下御臺臨の時本校生徒及市内小學校の成績品を台覽に供し、又運動場に於て附屬幼稚園、本校及高等女學校生徒の運動遊戯を御覽に供した所が、無邪氣な幼稚園兒が高貴の御前にも臆せず極めて活潑なる動作をなすのが殊の外御氣に召したと言ふ事である。又此の時妃殿下に本校職員生徒の意匠製作に係る記念品の「紹剌」を献上した所之も大層御氣に召して妃殿下御自ら御持ち歸りになつた。本校に於ては爾來毎年此の日を記念日として當日大掃除をなすことゝし今日に及んでゐる。

明治四十一年四月一日附屬小學校兒童の編成を改め尋常科六學級、高等科一學級とし一學級定員五十五名とす。

仝年仝日本科第二部を創設す。

仝年四月七日二部八〇名の入學を許可す。

明治四十二年四月一日二部生四十名、豫備科生四十名を入學せしむ、始めて七學級となる。

○川面校長榮轉

明治四十二年九月七日川面校長奈良女子師範學校長に御榮轉になる。川面校長在職七年十一ヶ月の長きに亘り初代廣瀬校長の後を繼ぎ孜々として本校經營に當られ本校の今日あるの基礎を確立され、その御功績は上述の如くでその御苦心たるや敬仰すべきものがある。

○第三代校長時代

川面校長の後任として同日附を以て奈良女子師範學校長田名部彦一氏本校々長に任ぜらる。田名部校長時代特記すべき事項左の如くである。

明治四十二年十二月二十四日生徒歸省に際し家庭注意事項七件を保證者に申し送る。

明治四十三年四月一日川崎尋常小學校本年度より二學級の編成とし附屬小學校の一部に充用せらる。

○仝日教室自習法を定め教師欠勤の際は時間を徒費することなからしめた。

仝年四月二十二日四學年生三十七名東京鎌倉地方修學旅行に出發、三十日歸校。縣外修學旅行之を以て嚆矢とす。

○校舍增築

仝年五月十五日手工教室、圖畫習字室、寄宿舍自習室に階上十四室增築(合計三百坪)他に食堂、割烹教室、洗面所、炊事場倉庫等を增築す。

仝年九月二十四日本明兩日本校生徒圖畫裁縫作文三科成績展覽會を開き生徒に縱覽せしむ。

○創立十周年を迎ふ

明治四十四年六月十八日創立十周年記念式擧行、十ヶ年以上勤續職員を表彰す。卒業生金壹百圓を寄贈し之を賛助す。

○校友會購買部設置

田名部校長の學校經營施設中その事蹟顯著なるものは明治四十五年二月一日の學校内購買組合の設置である。之は生徒の信用を基礎として各自に物品の出入を自由ならしめ、傳票を箱に入れて置いて後から物品係が之を計算して記帳すると言ふ遣り方である。若し生徒の信用が無ければ到底斯の如き自由な遣り方は出來ない。田名部校長は此の點に多大の盡力を爲され爾來着々踐定の効果を擧げ今日に及んでゐる。尚ほ以後校外の買物にも傳票を用ひしめた。

大正元年十月三十一日二部生京都奈良三重方面に修學旅行、之が今日の關西旅行の始めである。

○田名部校長退職

大正二年五月三十一日田名部校長依願退職さる。御在職三年九ヶ月であつた。

○第四代校長時代

田名部校長後任として同日附を以て山村彌久馬氏文部屬より本校校長に任ぜらる。

大正三年八月十三日當地未曾有の洪水あり學校全部浸水翌日に至り漸く減水し人夫を督して浸水後の大清潔法を嚴行す。

仝年九月二十五日、日獨開戰の爲出征せる陸軍に百個の慰問袋を寄贈し銃後の赤誠を吐露す。
仝年十月二十六日、日獨開戰に關し校長より訓話あり。之より後敎員順序に講堂訓話を行ひ時局の眞相を說明する事三回に及んだ。
大正四年四月一日、本學年より師範敎育令改正の趣旨により各學年の敎授時數を增減す。

○年中行事

山村校長時代の年中行事を記錄によると左の如くである。
一、講話講演——祝日大祭日の外各種の記念日を定めて修養上の講話をなす。
二、參觀——隨時學校參觀や商工會議所、北越製紙會社等の社會見學をなす。
三、運動遠足旅行——運動會、關東關西旅行や長岡市近郊の悠久山、浦瀨、宮路、栖吉、與板等に屢〻小遠足をなす。

○山村校長退職

大正五年九月二十日山村校長は在職三年五ケ月で依願退職せらる。

○第五代校長時代

山村校長の後任として仝日附を以て廣島高等師範學校敎諭兼敎授野上源造氏本校第五代校長に任ぜらる。
大正五年十月二十九日皇太子殿下の御眞影奉戴式擧行。
大正六年一月二十六日皇后陛下の御眞影奉戴式擧行。
仝年七月二十五日皇太子殿下を長岡驛に奉迎送す。

○第六代校長

大正八年十二月十五日山形縣師範學校敎諭赤木慶太郎氏本校校長に任ぜらる。

○第七代校長

大正十二年二月五日札幌師範學校敎諭平賀治吉氏本校校長に任ぜらる。

○第八代校長時代

大正十三年七月五日宮崎縣師範學校長田鶴濱次吉氏本校校長に任ぜらる。
大正十四年四月一日本科第一部の修業年限二ケ年に延長す。

○創立二十五周年を迎ふ

田鶴濱校長御來任早々本校は創立二十五周年を迎へ大正十四年六月十六日創立二十五周年記念式が盛大に擧行された。創立二十五周年記念を卜し左の記念事業を實施す。
一、記念會館改築
二、二十五年以上母校勤續敎員表彰
三、二十年以上縣內小學校勤續の同窓會員表彰

○講堂新築

從來現在の明强舍を講堂としてゐたが大正十五年現在の位置に建坪一〇五坪の講堂新築せられ學校の施設名實共に備つた。
尙ほ田鶴濱校長時代には校舍內建物の移轉が行はれた。即ち幼稚園が今迄現在の屋外運動場の西側にあつたのが現在の位置に移轉され寄宿舍浴場が今のピンポン室の東側にあつたのを現位置に移轉したのがその重なるものである。
大正十五年四月一日專攻科を設置す。入學者二十名。
昭和三年四月一日本科第二部修學年限を二ケ年に延長す。
昭和三年十月七日天皇皇后兩陛下の御眞影を奉戴す。
仝　六年四月十三日天皇皇后兩陛下の御眞影を奉還す。
仝年四月十六日天皇皇后兩陛下御眞影を奉戴す。

○ 鄕土室の設置

昭和六年三月末文部省から昭和五年度鄕土教育施設補助金一八一〇圓支給され鄕土室を設置し備品圖書を鄕土教育の一助とする事になつた。其の後昭和六年度に四一五〇圓、昭和十年度に五〇〇圓の補助金を受領し鄕土室は一層充實することゝなつた。

更に田鶴濱校長時代生徒訓育上の施設として特に擧ぐべきは臨海敎育の實施である。

○ 田鶴濱校長退職

田鶴濱校長は在職七年九ヶ月の長年月に渡り本校教育の爲に盡粹せられたが昭和七年三月二十八日退職された。

○ 第九代校長時代——現在——

昭和七年三月二十八日田鶴濱校長の後任として高知縣立中村中學校長田中宗市氏本校校長に任ぜられ今日に及ぶ。田中校長御來任以來今日迄八年有余その間孜々として本校教育に盡粹せられ本校の發展愈々見るべきものがある。施設方面を見ても益々充實して來た。

即ち國民精神振興の施設として修養道場明强舍が設置せられ昭和九年十一月十日開場式擧行、前京大總長小西重直博士の講演があつた。明强舍の出典は中庸の『人一能之己百之。人十能己千之。果能此道矣。雖愚必明。雖柔必强』による。

更に同年温室設置せられ（校友會誌二十四號參照）更に昭和十四年八月には二萬五千圓の豫算を投じて縣下第一否全國屈指の体育館が改築せられ生徒体育上に資する所甚大なるものがある。

更に昭和十四年四月八日には臨時教員養成の爲臨時教員養成講習所を開設し、又昭和十五年四月八日には新潟縣立女子青年學校教員養成所を併設する等本校は彌益々發展途上にある。

この間昭和九年七月十五日東久邇宮竹田宮兩殿下新潟縣下防空演習長岡市川崎分團配給班御視察の爲本校に御成り遊ばされ職員生徒一同の感激措く能はざるものがあつた。今や滿洲事變支那事變と時勢は急轉し世界は動亂の渦中にある。此の時に當

り全校擧つて新時代の教育に即應邁進しつゝある。

以上本校四十年の過去を振り顧つたが資料は女子師範學校年報（自明治三十三年至四十一年）女子師範學校一覽（大正二、七年）長岡教育資料によつた。大正七年以降は資料に乏しき爲内容が簡粗に過ぎ特に赤木、平賀校長時代は不明の爲始んど割愛の態にて今後の資料蒐集の結果に待つ外はなかつた事を深く御詫びする。最後に本校現勢の諸統計並びに校舍變遷を示す平面圖を掲載して擱筆する。

現勢諸統計（學校一覽より）昭和十五年五月現在

校地校舍坪數

總敷地坪數	總建坪數
八千三百九十八坪	平家建坪 二千九百三十六坪三合四勺 二階坪 八百十一坪

學級編制及生徒數

學級數		
第一部	第二部	專攻科
五	二	一

生徒數										
第一部						第二部			專攻科	合計
一年	二年	三年	四年	五年	計	一年	二年	計		
四三	四一	三八	三七	三一	一九〇	四一	四〇	八一	七	二七八

昭和十五年度經費

總額	俸給	諸屆給	旅費	生徒諸費	校費	修繕費	附屬小學校費	附屬幼稚園費
四三、九八四	三二、二九八	二、三六二	五九三	二、〇四一	二、六四八	四二〇	二、〇八五	一、五三七

最近五箇年間經費

昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度	昭和十五年度
四四、五一一	四四、五三三	四四、五一六	四三、八五四	四三、九八四

職員數

學校長	教諭	訓導	保姆	書記	囑託教員	學校醫	看護婦	計
一	一八	男 一八 女 七	二	四	五	一	一	五七

最近五ヶ年間卒業者、入學志願者及入學者調

種別	部別	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	昭和十五年
卒業者	第一部	三七	三九	二八	三〇	三一
	第二部	三〇	四〇	三九	四〇	四〇
	專攻科	五	五	六	四	七
入學志願者	第一部	八四	七二	六二	八二	八四
	第二部	一三四	一三四	一二二	一一九	一〇七
	專攻科	五	六	四	八	七
入學者	第一部	三〇	三〇	四〇	四〇	四一
	第二部	四〇	四〇	四〇	四〇	四一
	專攻科	五	六	四	八	七

入學志願者及卒業生郡市別表

郡市別	昭和十五年度入學志願者數 第一部	第二部	專攻科	創立以來卒業者 第一部	第二部	專攻科
北蒲原	一一	一六		一五八	一七七	一二
中蒲原	一三	一二	二	一二七	一三二	一四
西蒲原	二	一一		一一八	八一	四
南蒲原	一	四		一〇〇	六三	七
東蒲原	二	一		一七	九	
三島	七	三		一七四	三八	四
古志	三	二		七一	二九	一
北魚沼	四		一	五六	一九	五
南魚沼	五	一		五九	一八	一
中魚沼	四	二		三三	一一	二
刈羽	四	五	一	七三	七八	四
東頸城	三	二	一	三〇	一八	
中頸城	四	六		一一一	一四六	七
西頸城	三	二		二九	二九	二
岩船	四	八		八八	六一	四
佐渡	八	一四	二	一二四	五七	一〇
新潟	二	六		六二	一七九	七
長岡	一	三		七七	一〇八	三
高田	一	三		一九	九五	一
三條		二		二	六	一
他府縣	二	四	一	二三	四三	六
滿洲國留學生	一	一		一		〇
計	八五	一〇八	八	一、五五二	一、三九七	九五

附屬小學校卒業兒童數

科	性別	昭和十年度卒業兒童數	昭和十一年度卒業兒童數	昭和十二年度卒業兒童數	昭和十三年度卒業兒童數	昭和十四年度卒業兒童數
尋常科	男	一五	一七	一八	二八	一八
	女	一九	一六	二六	二三	三〇
	計	三四	三三	四四	五一	四八
高等科	女	一四	一五	二九	一五	一五
合計		四八	四八	七三	六六	六三

附屬小學校編制及兒童數

科	學年	學級數	男	女	計
高等科 複式(女)	二年	一	｜	一五	一五
	一年	一	｜	三六	三六
尋常科	六年	一	一八	一五	三三
	五年	一	二七	二一	四八
	四年	一	一六	二五	四一
	三年	一	二〇	一四	三四
	二年	一	一九	一三	三二
	一年	一	二一	二七	四八
計		七	一二一	一六六	二八七

附屬幼稚園編制及園兒數

學級數	男	女	計
二	三六	三一	六七

幼稚園保育修了幼兒數

男	女	計
二一	二三	四四

川崎小學校卒業兒童數

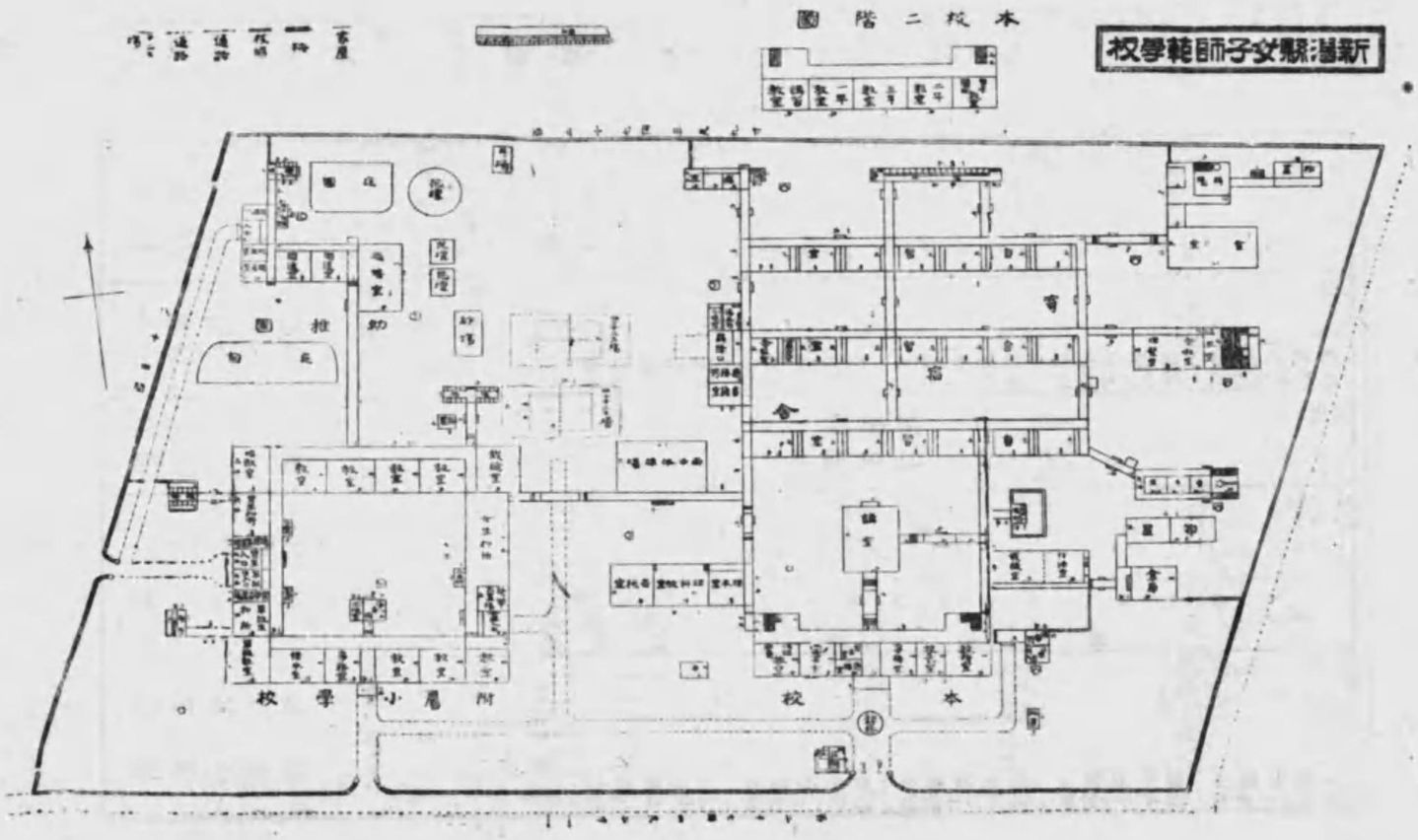
科	性別	昭和十年度卒業兒童數	昭和十一年度卒業兒童數	昭和十二年度卒業兒童數	昭和十三年度卒業兒童數	昭和十四年度卒業兒童數
尋常科	男	六二	五八	六九	七二	六九
	女	五二	七二	四七	六〇	六三
合計		一一四	一三〇	一一六	一三二	一三二

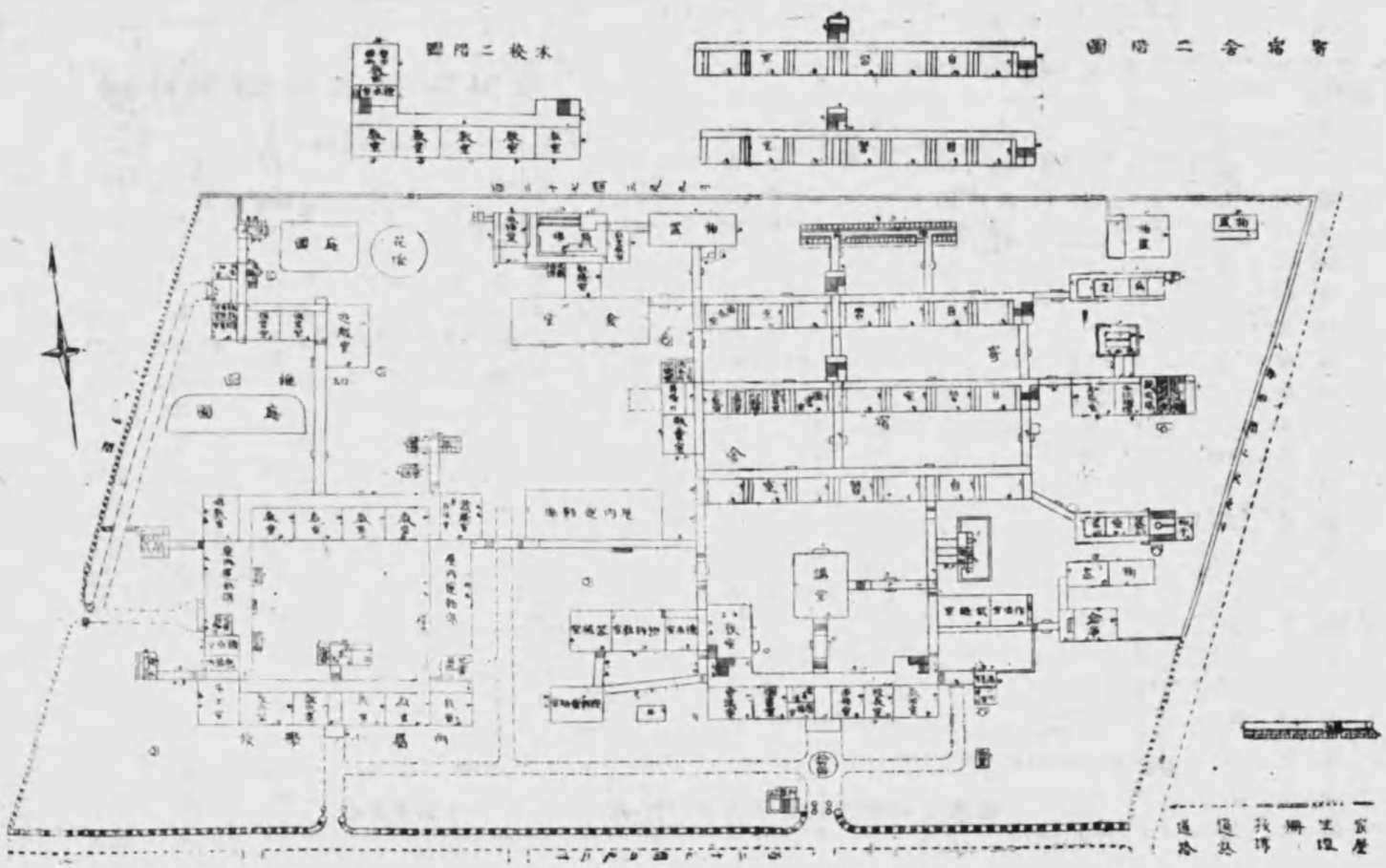
川崎小學校編制及兒童數

科	學年	學級數	男	女	計
尋常科	六年	三	五三	七三	一二六
	五年	三	六三	七七	一四〇
	四年	二	五六	五六	一一二
	三年	二	六九	五〇	一一九
	二年	三	六九	七四	一四三
	一年	二	六八	五三	一二一
計		一五	三七八	三八三	七六一

○校舍の變遷 （明治三十六年、大正二年、昭和十五年）

新潟縣女子師範學校





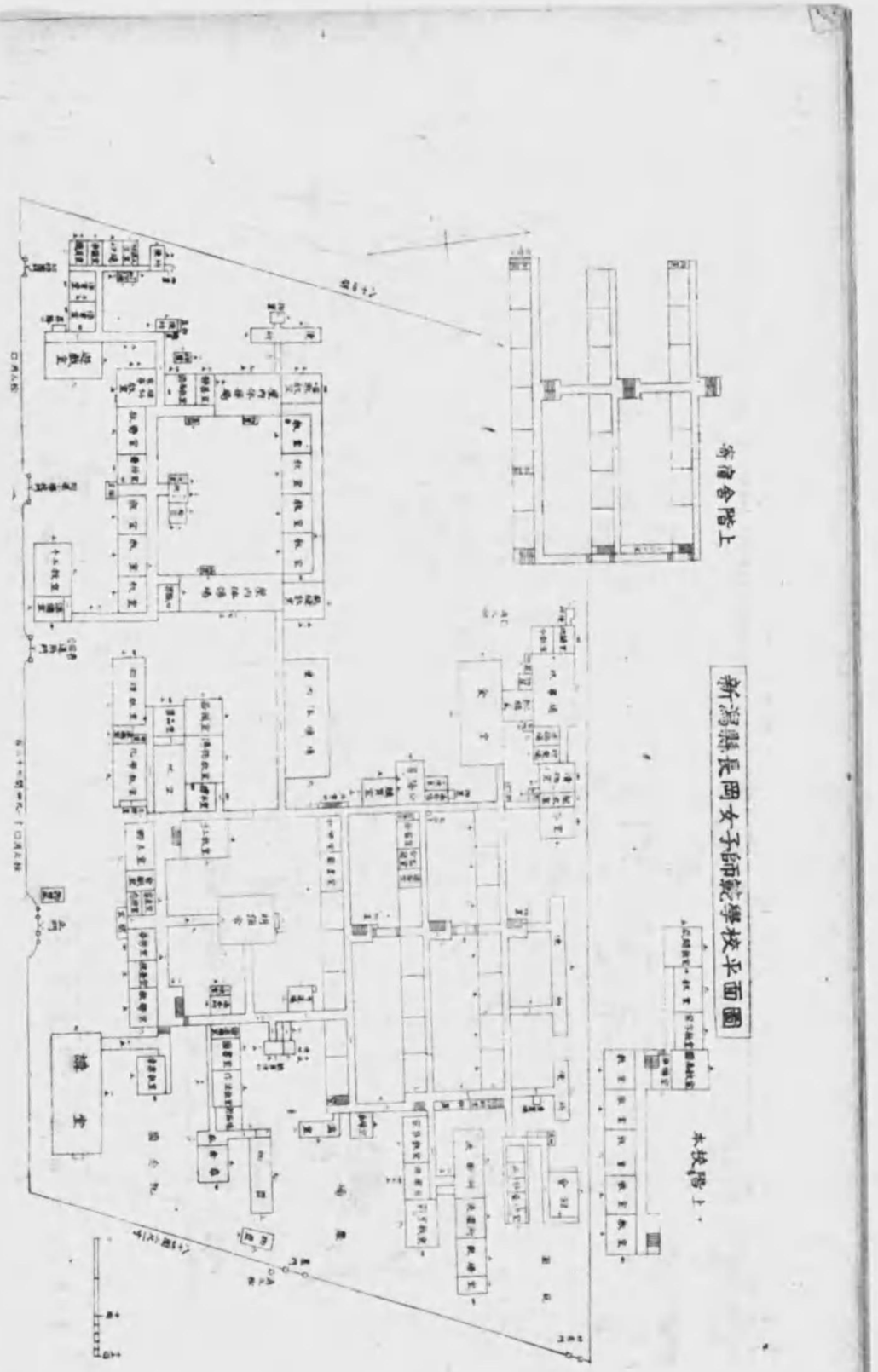
記念事業寄附者芳名錄

【新潟市】

10,00	北村キイ	二,00	九里ミユキ
五,00	教井チヨノ	三,00	櫻井キヨ
五,00	白井荘	三,00	笹川キタノ
三,00	片山若野	三,00	三浦スズ
六,00	島井操	三,00	員沼小春
六,00	長谷川順	三,00	江村ツル
三,00	若井タツノ	三,00	近藤トミ
三,00	樋口卯	三,00	伊藤サタ
三,00	板橋玉枝	三,00	川原テイ
三,00	坂田ミシ	三,00	岩橋トミ
三,00	伊藤初枝	三,00	近藤ナカ
三,00	田中ノリ子	三,00	椿タミ子
三,00	松木モト	三,00	栗原ミス
三,00	近藤文子	三,00	河野アイ
三,00	星野悦子	三,00	白倉イネ
三,00	廣川ヤエ	三,00	二平美津
三,00	服部チヨノ	三,00	塚野貞
二,00	曾我フサ	三,00	森岡ミサヲ
二,00	高山テイ	三,00	松岡トシ
二,00	風間チイ	三,00	坂井マサ

10,00	安部イマ	三,00	阿部シゲ
三,00	遠藤イチ	三,00	牛木トク
三,00	山谷ソメ	三,00	吉岡ナヲ
三,00	齋藤ミツ	三,00	溝間トリ
三,00	細田初枝	三,00	皆川マサ
三,00	早川靜枝	三,00	杉山トネ
三,00	長沼克	三,00	樋口美枝
三,00	井上美由伎	三,00	町田吉江
三,00	高橋キミ	三,00	小熊トミ
三,00	入山イク	二,00	馬場セキ
三,00	島崎トミ	二,00	星ムツ
三,00	山口キイ	二,00	熊谷ヨセ
三,00	米倉ヨシ	二,00	石黒千代
三,00	二木ヨセ	二,00	横坂ヤエ
三,00	加藤シン	二,00	青木幸
三,00	大野ミキ	三,00	佐善靜江
三,00	大島ヨシイ	三,00	今井アキ
三,00	田中トヨ	三,00	佐藤チヨノ
二,00	五十嵐ヨキ	三,00	山岸テウ
三,00	諸橋トミエ	三,00	能勢ミサヲ
三,00	高澤喜和	三,00	根津マサ
三,00	江部ウメ	三,00	長谷川ムツ
三,00	阿部マサ	三,00	守口キヨ
三,00	櫻井スマ	三,00	中村シユン

三,00	久保田ムツ	三,00	上村ハナ
三,00	中靜テイ	三,00	堀チヨ
三,00	佐藤タイ	三,00	重野ハナ
三,00	牧野ウタ	三,00	兒玉モト
三,00	能村フジノ	三,00	岩野フミ
三,00	渡邊トシ	三,00	小林禮
三,00	中山政子	三,00	遠藤初江
三,00	小山ハツ	三,00	江口アキ
三,00	桑野ヨシ	10,00	眞島ムツ
三,00	福田スミ	二,00	石崎カイ



三、〇〇 小池スズイ
三、〇〇 大西ヤイ
三、〇〇 木村セツ
三、〇〇 尾崎イシ
三、〇〇 山田ミツイ
三、〇〇 後藤テイ
三、〇〇 有磯キン
三、〇〇 大黒ヨシ
三、〇〇 渡邊ハツ
三、〇〇 内山幾代
三、〇〇 關原フゆ
三、〇〇 澤村イシ
三、〇〇 久代リヤウ
三、〇〇 赤澤喜美子
二、〇〇 小西ヒロ
三、〇〇 中山レツ
三、〇〇 竹原シゲリ
三、〇〇 嵩岡淑子
三、〇〇 嵩岡タカ
三、〇〇 星野操
五、〇〇 味方キヨ
三、〇〇 齋藤ヤス
三、〇〇 須藤ミセ
三、〇〇 目黒キソ

三、〇〇 小林ヨシノ
三、〇〇 小川カツ
三、〇〇 齋藤トヨ
三、〇〇 金澤ヒデ
一、〇〇 中田リキ
三、〇〇 中村キヨシ
三、〇〇 池上キヨシ
二、〇〇 山口キヨシ
三、〇〇 金子トミ
一、〇〇 福原キサ
三、〇〇 藤田スイ
三、〇〇 山田ユキ
五、〇〇 竹山矩
三、〇〇 三澤・とく
一、〇〇 諸原テウ
一、〇〇 小柳レン
一、〇〇 山田サク
一、〇〇 萩原イツ
二、〇〇 光山ソノ
三、〇〇 丸山リン
三、〇〇 小笠原信江
三、〇〇 長谷川ネエ
三、〇〇 中村サン
二、〇〇 廣川マキ

二、〇〇 吉岡レイ
二、〇〇 堀キクノ
一、〇〇 町田チトセ
一、〇〇 品田ツヤ
一、〇〇 入町トヨ
一、〇〇 神子田ミイ
一、〇〇 林ウメノ
二、〇〇 竹田チヨ
二、〇〇 田巻シヅノ
一、〇〇 土屋キクノ
一、〇〇 山際ムツ
三、〇〇 阿部チイ
三、〇〇 唐澤クニ
二、〇〇 水野クニ
三、〇〇 青木若榮
一、〇〇 梶原ヨリ
一、〇〇 佐藤シン
二、〇〇 伊倉ヨシ
一、〇〇 河原セツ
一、〇〇 庄司郁子
一、〇〇 岡部ノブ
三、〇〇 寺井千代
一、〇〇 渡邊タン

【長岡市】

五、〇〇 堀江マサ
五、〇〇 秋庭ウタ
五、〇〇 酒井春江
三、〇〇 松島フミ
三、〇〇 星野三芳子
三、〇〇 本多キノ
三、〇〇 寺尾ハナ
三、〇〇 田中ツネ
三、〇〇 島倉榮
三、〇〇 山岸正
三、〇〇 鈴木キミ
三、〇〇 福本シズ
三、〇〇 井浦久美
三、〇〇 西村サダ
三、〇〇 村山克子
三、〇〇 高井琴次
三、〇〇 八百板ヨキ
三、〇〇 吉野律
三、〇〇 水野信
三、〇〇 坂牧松枝
三、〇〇 高野ミヨ
三、〇〇 西山フミ

三、〇〇 金山ヨリ
三、〇〇 高橋房子
三、〇〇 木村ナヨ
三、〇〇 稲原キク
三、〇〇 佐藤マツエ
三、〇〇 堀江ミチ
三、〇〇 田崎ムツ
五、〇〇 武樋靜
三、〇〇 渡邊ハリ
三、〇〇 吉田ムツエ
三、〇〇 坂本マス
三、〇〇 近藤スイノ
三、〇〇 平石松枝
三、〇〇 伊佐ユキ
五、〇〇 大橋トシ
三、〇〇 内山シズ
三、〇〇 林トシ
三、〇〇 長谷川ミヨ
三、〇〇 遠藤ミヨ
三、〇〇 小林節子
三、〇〇 石井テツ
三、〇〇 牛腸ハツノ
三、〇〇 島宗サホ
五、〇〇 佐藤カツ

三、〇〇 宮澤恒子
五、〇〇 關ふみゑ
三、〇〇 鶴卷ムメ
三、〇〇 飯守君代
三、〇〇 大瀧愛子
三、〇〇 吉田ハツエ
三、〇〇 廣川フヂ子
三、〇〇 常田テル
三、〇〇 佐藤芳子
三、〇〇 伊丹花江
三、〇〇 渡邊トヨ
五、〇〇 渡邊壽子
五、〇〇 吉田ヒサノ
三〇、〇〇 田中千之
三、〇〇 屋井ノブ
五、〇〇 野津キミ
三、〇〇 林ハル
一〇、〇〇 栂野マサ
三、〇〇 野田トヨ
五、〇〇 井利サツキ
五、〇〇 推見レン
一〇、〇〇 關テイ
三、〇〇 高野キヨ
三、〇〇 曾我イツ

三、〇〇 山本シメ
三、〇〇 屋井キン
三、〇〇 阿部カネヨ
三、〇〇 磯テルノ
三、〇〇 川上ヤス
三、〇〇 吉田イツ
三、〇〇 今井トシ
三、〇〇 關ミチ
五、〇〇 風間スミ
三、〇〇 小川キヌ
三、〇〇 藤原ミヨシ
三、〇〇 飛内イク
五、〇〇 小黒イク
三、〇〇 佐藤タヅ
三、〇〇 保倉ヤウ
一〇、〇〇 本間ミイ
三、〇〇 金安カウ
三、〇〇 金子美惠
五、〇〇 解良倚
三、〇〇 佐藤ムロ
三、〇〇 中山キクノ
三、〇〇 立川ヨウ
三、〇〇 長井イシ
三、〇〇 寒川元枝

一〇、〇〇 高野マス
三、〇〇 谷内田貞
三、〇〇 小野シン
三、〇〇 植村富己子
三、〇〇 鷲尾千代
三、〇〇 諸橋悅
三、〇〇 小林タケノ
三、〇〇 三富菊代
三、〇〇 高橋富美
三、〇〇 藤卷ミス
五、〇〇 木本ナミ
三、〇〇 高田ヨイ
三、〇〇 清水ノリ
五、〇〇 細本トシ
三、〇〇 林ワカノ
三、〇〇 外川藤野
三、〇〇 齋藤イツ
五、〇〇 平澤イツ
三、〇〇 廣井靜枝
三、〇〇 中村イシ
三、〇〇 草間テツ
五、〇〇 大川キヨ
三、〇〇 丸山セツ
三、〇〇 大宮ゲン

三、〇〇 森田シン
五、〇〇 荒木セイ
三、〇〇 近藤モト
三、〇〇 村山ヒサ
三、〇〇 永井ヤヘノ
三、〇〇 佐藤みつ
五、〇〇 原レツ
三、〇〇 三浦シヅエ

【高田市】

二、〇〇 內藤クニ
三、〇〇 佐藤芳枝
五、〇〇 星野つぎ
三、〇〇 佐藤キヨ
三、〇〇 小幡靜江
五、〇〇 長谷川八重子
三、〇〇 吉越ヨシ
三、〇〇 齋藤富美子
三、〇〇 吉川ハナ
三、〇〇 小泉ユキ
五、〇〇 水澤瑞榮
三、〇〇 小平貞子
三、〇〇 横尾ヨシノ
三、〇〇 足利シズ

三、〇〇 山田ハスエ
五、〇〇 山田キクエ
三、〇〇 竹内トキ
三、〇〇 村山淑
三、〇〇 佐々木弘子
三、〇〇 松本滿江
三、〇〇 高勝シズ
三、〇〇 須藤ハツ
三、〇〇 府越キク
三、〇〇 矢川リツ
三、〇〇 伊藤禮子
三、〇〇 渡邊貞
三、〇〇 安藤ミヤ
五、〇〇 相澤ケイ
三、〇〇 杉田ウメ
五、〇〇 水野やすゑ
三、〇〇 宮川トメ
五、〇〇 古川フジ
一五、〇〇 舊卒業生有志

【三條市】

三、〇〇 豊島ヨシノ
三、〇〇 關根ヒデ
五、〇〇 原マツヨ
三、〇〇 磐田ミサヲ

齋藤賴子 三,00
丸山ミキ 三,00
大西イワ 三,00
長谷川ミツ 三,00
平田ミヤ 三,00
高坂ハナ 三,00
齋崎ツギ 三,00
西山ムメノ 三,00
增田ハル 三,00
中澤ムツ 三,00
岡田宏子 三,00
藤川トヨ 三,00
堀江エツ 三,00
阿部ヨリ 三,00
幸田ミス 三,00
大桃ハナエ 三,00
西川サキ 三,00
山田シズ 三,00
野水ミツ 三,00
渡邊レツ 三,00
長谷川クマ 三,00
淺野キイ 三,00
神田ムツ 三,00
三上ミツ 三,00

笹原セキ 三,00

【北蒲原郡】

五十嵐ヤス 三,00
小田キン 三,00
山崎ハル 三,00
佐藤キミ 一,00
小林ツユ 一,00
齋藤き代 三,00
前田よし 三,00
櫻井マサ子 一,00
神田里 一,00
增子ケイ 一,00
山田千秋 一,00
鈴木靜枝 一,00
小黒テイ 一,00
木村キチ 一,00
坂井ふく 一,00
五十嵐アヤ 一,00
小宮ミツエ 一,00
鈴木ノブ 一,00
高橋雪江 一,00
和田カヤ 三,00
熊倉ハルミ 三,00

榎本ハツエ 三,00
小林昌穗 三,00
荻野富美 三,00
後藤定 三,00
豊田キヨ 三,00
渡邊キス 三,00
近ツルイ 三,00
新井田ユキ 三,00
榎本ムツ 三,00
古石ミヨシ 三,00
佐々木晴子 三,00
神田チマ 三,00
小柳ムツ 三,00
荒木ムツ 三,00
本多トミ 三,00
藤井延 三,00
清水絢子 三,00
關田ミツ 三,00
貴船キヨシ 三,00
阿部美知 三,00
駒形シズ 三,00
坂井富江 三,00
椎谷比佐家 三,00

田宮リウ 三,00

柄澤睦 三,00
佐藤ヒデ 三,00
塚野ミツエ 三,00
中山キクノ 三,00
小野イク 三,00
關川マス 三,00
小林愛子 三,00
山口のぶ 三,00
關口キヨシ 三,00
長尾ウメ 三,00
田村イツ 三,00
高山タケ 三,00
星名ヤヘ 三,00
荒木きぬ 三,00
眞島順 三,00

關根ケイ 三,00
關川絢子 三,00
熊倉ミツエ 三,00
關川愛子 三,00
伊藤敏 三,00
松田イト 三,00
森山榮 三,00
五十嵐キヨ 三,00
松村ミチ 三,00
渡邊文江 三,00
坂上セツ 三,00
大小治キヨ 三,00
富樫芳 三,00
小林敢 三,00
本間チエ 一,00
西村照代 一,00
高澤ミクネ 三,00
遠倉靜代 三,00
大ノ木雪 三,00
渡邊圭子 三,00
增子チハル 三,00
相馬コウ 三,00
小野コトエ 一,00
西トキ 三,00
伊藤光枝 三,00

星野シゲル 三,00
伊藤ヨシイ 三,00
佐藤環 三,00
本間ハツ 一,00
小田イシ 三,00
西メツ 一,00
山口節 一,00
矢部ジイ 一,00
布川喜久子 一,00
長谷川チトセ 三,00
仁木マスミ 三,00
布志原ミサホ 三,00
稻垣スガ 三,00
近藤タル 三,00
肥田野八重子 一,00
田宮ヨシ 三,00
山田アヤ 一,00
高山キヨノ 三,00
落合ハル 三,00
岩淵イツ 三,00
齋藤テイ 三,00
近藤政 三,00
星野スズノ 一,50
中條校 同窓生 七,00
安井ツタ 四,00

小泉ツル 三,00
山田イク 三,00
笹川美知代 三,00
高橋カツエ 三,00
岸本トシ 三,00
鈴木ハル 三,00
近藤チエ 五,00
大沼キヨ 三,00
長野テヨ 三,00
篠笥貞子 三,00
佐藤キクノ 一,00
廣田トシ 三,00
今井蕨 三,00
今井フミ 三,00
金塚ミヨ 三,00
寺尾愛 三,00
阿部テツノ 三,00
堀ミト 三,00
小宮ミフウ 三,00
長谷川喜久 三,00
出村ヨシ 三,00

【中蒲原郡】

竹田ムツ 三,00

眞保芳子 三,00
手塚ミドリ 三,00
高島キクエ 三,00
關根節 三,00
和田綾子 三,00
小林年子 三,00
川口美代志 一,50
山岸綾 一,00
小林ミツ 一,00
藤笹フミ 三,00
根津やい 一,00
金子鋤子 一,00
長谷川ムツ 三,00
矢田エキ 三,00
飯原チヨ 三,00
木村シウ 一,00
吉武コウ 三,00
瀨倉キソノ 三,00
田中トク 三,00
亀山トミ 三,00
伊藤セツ 三,00
伊藤テイ 三,00
瀧澤幾代 三,00
田中タダ 三,00
小柳松乃 三,00

佐藤フヨ 三,00
邨谷花 三,00
唐橋愛子 三,00
中澤キン 三,00
遠水ミヨ 三,00
川口美代志 一,50
山岸綾 一,00
小林ミツ 一,00
藤笹フミ 三,00
根津やい 一,00
金子鋤子 一,00
長谷川ムツ 三,00
矢田エキ 三,00
飯原チヨ 三,00
木村シウ 一,00
吉武コウ 三,00
瀨倉キソノ 三,00
田中トク 三,00
亀山トミ 三,00
伊藤セツ 三,00
伊藤テイ 三,00
瀧澤幾代 三,00
田中タダ 三,00
小柳松乃 三,00

洪野ヒトシ 三,00
清水好榮 三,00
笠原五百 三,00
淺田千秋 三,00
佐藤レン 三,00
亀田校 現職同窓生一同 一,50
菅原マサコ 三,00
八木ハル 一,00
高野靜榮 三,00
長谷川イツ 一,00
佐々木トヨ 一,00
甲田 三,00
清水靜子 三,00
片桐 三,00
村松町校 同窓生一同 一,00
野澤シイ 二,00
山本喬子 一,00
珠子 一,00
荒川イヨ 一,00
皆川ミタ 三,00
川上シヅ 三,00
吉田みさを 一,00
田中ミツ 三,00

眞保芳子 三,00
手塚ミドリ 三,00
高島キクエ 三,00
關根節 三,00
和田綾子 三,00
小林年子 三,00
小野キヨエ 三,00
櫻井ケイ 三,00
益田タツエ 三,00
甲田道子 三,00
大橋レイ 三,00
佐藤紀子 三,00
金津高校 同窓生一同 三,00
新津高校 同窓生一同 三,00
佐藤ユキノ 三,00
江口フク 三,00
石黒ヨシ 三,00
大坂トキ 三,00
宮カズ 二,00
村木アイ 二,00
河原泉 二,00
伊藤順 三,00
櫻井春江 三,00
渡部ホノ 三,00

佐藤フヨ 三,00
邨谷花 三,00
唐橋愛子 三,00
中澤キン 三,00
遠水ミヨ 三,00
川口美代志 一,50
山岸綾 一,00
小林ミツ 一,00
藤笹フミ 三,00
根津やい 一,00
金子鋤子 一,00
長谷川ムツ 三,00
矢田エキ 三,00
飯原チヨ 三,00
木村シウ 一,00
吉武コウ 三,00
瀨倉キソノ 三,00
田中トク 三,00
亀山トミ 三,00
伊藤セツ 三,00
伊藤テイ 三,00
瀧澤幾代 三,00
田中タダ 三,00
小柳松乃 三,00

泉杉田中富志中北鈴田近泉中岡
井浦中川田野村木中厩井野
ルセクキ千サ静ミナ田フツ上
マロノ代カ江イ子ツヘ鶴ミギ枝

【西蒲原郡】

波島橋田匿高安高池加棚土加中本小岡上高西平土高越
濃山口中田橋逆幡田曉橋届ま勢川間熊本原井山野田澤岡
マ時正イクモテ茨代ユキマつ敦ツ正キ芳ュイテスセ
ツカ代ツョョトョ悪志キクサい子悦イ子ヤ枝ンツイイツ

谷鈴川ニ小小水田本渡佐深危深清槇小小鷲片金蒼栗山
木崎平三千千ョノルィフキュサルレノ代枝四タクツュ野ズ
マカ喜重千代代トヽノツミェクレノ代枝四タクツュ野ズ
ツカ悪子代代トヽノツミェクレノ代枝四タクツュ野ズ
イヤ悪子代代トヽノツミェクレノ代枝四タクツュ野ズ

林井近林高宗石高有佐間志武田佐藤伊加鈴小阿誰久太刀
野村井島坂藤島賀田中曉木林都谷田保川
上嵐ミ忠サ靜ルレツツサメミムムタヒリ千碧ヱ
しす菊雪ド靜ルレツツサメミムムタヒリ千碧ヱ
づみ江キイイホノ絵きェズカイロセ秋巡ノ
の枝乃枝リ野クイノ靜キェイツシクリツイキ子イテ学

八高瀬同波神石小長石風雅目古田原見阿松倫太平高白
子井川馬澄村山坂谷澄而刈黒川澄王久井井田野橋演
チナ名房ュサイトキュキヤトヤ津カズ花ミリ
ンジ十豊ュセズッシクリツイキ子イテ学
ョカイ子野イノ靜キェイツシクリツイキ子イテ学

能宮大宮鼎不波大紅西金高佐若小丸堀宮,神寶小永山麓
登崎谷下垂澄ま三ナチュ黒山川崎野ョルか瀬
ルミイシ光キつ枝ョ清ョトキ三キシケか巻
カョツケチンの子ュイキ梨チシンョ江ミノルョ濁江

【南蒲原郡】

高棚三長谷川原子
橋橋部尾ケ静テミツし
レ静テサホづ
ン江ルホキづ

【北蒲原郡】

二石小佐市夏小石
平澤出ョ川井池山
英嘉知シトツ久ミ
江納枝ノミ子子ょ

牛佐旭現加現旭波波山阪田佐小曉小波菅高白武田佐金波寶宮伊
鷗橋同郡澄澄田田中木杉ョ井柳澄井橋シ木藝畫子澄藝島東
鷗黄員生學小ィ美菅鷗イ八千ョ富シミと富シミセカテナイョ
江枝子同ト悪代野ょ代マョきき貴モキュツヤツ圖リトキ

【東蒲原郡】

石豊田高大南長大京長佐堀鈎中田中大大梨波野壊
黒島中澤橋木川谷々江瀬山代川橋久保澄崎島
ムトノナフフョ千イくさスト本ヤ千イくシツつレ
ツシアイミミミシ代サカイ代チよギ富ョマェれイ

【東蒲原郡】

資水稻小丹栗名島中調開
藝村八重チキシセッアキサ
ヲッ子イョズツェヤヌホ

【川島郡】

宇吉波石稲清寺三三石荻
之津都生野田都田ミ野
津川澄千代イ百し合ク野ミクスイツルゲ
子づイ野ミクスイツルゲ

三、〇〇 河内キシ
三、〇〇 井田チエ
三、〇〇 柳下シズイ
三、〇〇 竹内ハル
三、〇〇 金子ハナ
三、〇〇 久須美恒
三、〇〇 丸山モヒ
三、〇〇 石坂ハル
四、〇〇 竹田テイ
三、〇〇 河内ハナ
三、〇〇 高橋リヨ
三、〇〇 竹澤リン
五、〇〇 高野豊野
三、〇〇 長谷川クミ
五、〇〇 小越エツ
三、〇〇 小川なみ
三、〇〇 丸山タニ
二、〇〇 相澤モト

【古志郡】

三、〇〇 成田キクイ
三、〇〇 牧田カツ
三、〇〇 清水富美
三、〇〇 町田喜代子
三、〇〇 小黒トシ
三、〇〇 須田惠
三、〇〇 一橋典
三、〇〇 高橋ハル
三、〇〇 鶴田ヒサノ
三、〇〇 佐藤英子
三、〇〇 古城澄江
三、〇〇 雑波靜枝
三、〇〇 中川千枝
三、〇〇 松田フユ
三、〇〇 土田モト
三、〇〇 布川クマ
三、〇〇 山岸ミチ
三、〇〇 齋藤常
三、〇〇 長藤ハル
三、〇〇 高橋キイ
三、〇〇 鷲頭ヒサ
三、〇〇 長谷川和子
三、〇〇 結城レン
三、〇〇 小林靜
三、〇〇 酒井田鶴
三、〇〇 小杉タセ
三、〇〇 稲田千代
三、〇〇 小林シツエ
三、〇〇 土屋マサ
三、〇〇 兼古ムメ
三、〇〇 大橋キミ
三、〇〇 式場要
三、〇〇 平井ハツイ
三、〇〇 藤田イク
三、〇〇 本間チエ
三、〇〇 那須ケイ
三、〇〇 坂井玉枝
五、〇〇 後藤さゆ
三、〇〇 杵淵光子
三、〇〇 西片麻
三、〇〇 澁谷ミス
三、〇〇 渡部トク
三、〇〇 阿部ヤヘ
三、〇〇 平石芳枝
三、〇〇 鳥羽トミ
三、〇〇 牛藤美代乃
一〇、〇〇 吉澤タカ子
三、〇〇 佐藤和歌
五、〇〇 鷲頭エキ
三、〇〇 佐藤ノエ
三、〇〇 高橋キセ
三、〇〇 清水サウ
五、〇〇 山田コト
三、〇〇 關本ミサオ
三、〇〇 和田ムロ
三、〇〇 佐々木芳江
三、〇〇 金子ツル
三、〇〇 小林ヒデ
一、〇〇 國松わか
三、〇〇 佐合霞
一、〇〇 熊川百合
三、〇〇 遠山キミ
三、〇〇 内藤タツ
三、〇〇 小林たづえ

【北魚沼郡】

三、〇〇 平澤トシ
三、〇〇 河本康子
三、〇〇 野口峯
三、〇〇 篠田ミイ
三、〇〇 宮千代
三、〇〇 西脇ミヨコ
三、〇〇 長谷川キク
三、〇〇 本間ハル
三、〇〇 五十嵐久賀
三、〇〇 苅部トシ
三、〇〇 小林チヅ
三、〇〇 大塚チウ
三、〇〇 長橋千代
三、〇〇 大關フミ
三、〇〇 樺澤文枝
三、〇〇 高頭ツヨ
三、〇〇 古田島フヲ
三、〇〇 德山キミ
三、〇〇 關口元子
三、〇〇 下村アイ
三、〇〇 小川ヨシ
三、〇〇 瀧澤フク
三、〇〇 上村スイ
三、〇〇 渡邊ハツエ
三、〇〇 稲葉貴美
三、〇〇 酒井スミ
三、〇〇 星野エツ
五、〇〇 波形キヨシ
三、〇〇 金澤テル
三、〇〇 清塚常
三、〇〇 渡邊ムツ
三、〇〇 北島美江
三、〇〇 星君子
三、〇〇 田中ハマ

三、〇〇 水野久子
三、〇〇 小林長
三、〇〇 阿部悠喜子
三、〇〇 加藤初枝
三、〇〇 伊藤フミ
三、〇〇 劍持トシ子
三、〇〇 德嶋ミツ
三、〇〇 樺澤フサノ
三、〇〇 目黑綾
三、〇〇 林浩子
三、〇〇 伊林ミツ
三、〇〇 桑原春
三、〇〇 池操
五、〇〇 井口晴
五、〇〇 桑原ヤン
三、〇〇 鈴木貞
五、〇〇 角田八重
二、〇〇 五十嵐光子
三、〇〇 新澤喜以子
三、〇〇 諏佐愛
三、〇〇 稲垣ヨシ
三、〇〇 笠原キタ

【南魚沼郡】

三、〇〇 下村とし
三、〇〇 渡邊鮭
三、〇〇 三輪セイ
三、〇〇 星タミ
三、〇〇 阿部梅野
三、〇〇 大原ヨキ
三、〇〇 鈴木トヨ
三、〇〇 桑原千書
三、〇〇 上村英
三、〇〇 上村松枝
三、〇〇 高橋律子
三、〇〇 笛木カメ
二、〇〇 横山ナミ
三、〇〇 酒井愉之枝
三、〇〇 須藤ミタノ
三、〇〇 山田英子
三、〇〇 佐藤愛子
三、〇〇 戸田濱江
三、〇〇 姉崎幸子
三、〇〇 野上貞
三、〇〇 小田ツヤ
三、〇〇 南雲キクノ
三、〇〇 關トモ
三、〇〇 内山和子
三、〇〇 今成マサ
三、〇〇 富田キヨノ
三、〇〇 中澤ハツ
三、〇〇 關律子
三、〇〇 稲葉吉野
三、〇〇 田邊カウ
三、〇〇 上村フジ子
三、〇〇 田澤文枝
三、〇〇 椿ハツ
三、〇〇 坂井芳江
三、〇〇 廣田清
三、〇〇 櫻井ナヲ
三、〇〇 高橋スミ
三、〇〇 羽賀ゆい
三、〇〇 大塚淳
三、〇〇 中澤秀
三、〇〇 林マチ
三、〇〇 佐藤ヒロ
三、〇〇 桑原ひで
三、〇〇 平賀ハナ
三、〇〇 渡邊トク
三、〇〇 川端さき
三、〇〇 坂井キミ

【中魚沼郡】

三、〇〇 間殺ヤイ
三、〇〇 金井トラ
三、〇〇 野上セイ
三、〇〇 高橋光枝
三、〇〇 小海マキ
三、〇〇 高橋サダ
三、〇〇 眞島文
三、〇〇 登坂ヨシイ
三、〇〇 谷地サダ
三、〇〇 樋熊リツ
三、〇〇 佐野フミ
三、〇〇 吉田毅子
三、〇〇 岩田操
三、〇〇 星名ツル
三、〇〇 櫻井ハナ
三、〇〇 佐藤ツカ
三、〇〇 田中ミツ
三、〇〇 五井スミ
三、〇〇 相馬イツ
三、〇〇 吉澤政枝
三、〇〇 上原園江
三、〇〇 高橋清野
三、〇〇 高野千惠
三、〇〇 安達はる
三、〇〇 田巻滿子
三、〇〇 齋藤賢子
三、〇〇 田中タヅエ
三、〇〇 中島マサ
三、〇〇 山崎ハル
三、〇〇 石山三重
三、〇〇 相田秀子
三、〇〇 屋井篤美
三、〇〇 佐藤秀
三、〇〇 藤田キクエ
三、〇〇 樋口芳枝
三、〇〇 中澤フミ
三、〇〇 永井マサノ
三、〇〇 三條美東
三、〇〇 阿部シズ
三、〇〇 佐々木ヒサ
三、〇〇 飛田千枝
三、〇〇 鈴鹿花江
三、〇〇 原レイ
三、〇〇 宮崎トシエ
三、〇〇 樋口靜代
三、〇〇 樋口マサ
三、〇〇 月岡テルエ
三、〇〇 大瀧そこ

三、〇〇 小川ウメノ
三、〇〇 廣瀬テル
三、〇〇 林よれ子
三、〇〇 佐野カツ
三、〇〇 田中トヤ
三、〇〇 羽鳥シマ
三、〇〇 押木サツ
三、〇〇 南雲ヨシ
三、〇〇 阿部キヨ
三、〇〇 高橋トメ
三、〇〇 武田直枝
三、〇〇 渡邊シズ
三、〇〇 内山テル
三、〇〇 野崎シゲ
三、〇〇 戸田ミヨシ
三、〇〇 青木ハナ
三、〇〇 栗林キシ
三、〇〇 小出絹
三、〇〇 藤村文
三、〇〇 本間ミツ

【刈羽郡】

三、〇〇 片山フミ
三、〇〇 風川セツ
三、〇〇 箕輪ミツシ
渡邊夏江
三、〇〇 飯吉揖
三、〇〇 阿部ナホ
三、〇〇 飯田シノ
三、〇〇 風間トク
三、〇〇 楯井ハル
三、〇〇 古川輝子
三、〇〇 佐久間直野
二、〇〇 山田ケイ
二、〇〇 清水松枝
一、五〇 矢代百合子
一、五〇 伊佐操
一、五〇 山田志維
一、五〇 堀チヨノ
一、五〇 田中クニ
三、〇〇 高橋ヨシエ
三、〇〇 池上トヨ子
三、〇〇 松井ラン
三、〇〇 井利イヨ子
三、〇〇 内藤美代
三、〇〇 遠藤シヅ
三、〇〇 今山クニ
三、〇〇 石黒敏子
三、〇〇 荒木ミチ
一、〇〇 月橋ミサヲ
三、〇〇 駒野スイ
三、〇〇 若井キン
三、〇〇 元井ミイ
三、〇〇 小林マツノ
三、〇〇 關フミ
三、〇〇 小林笑
三、〇〇 桑原
三、〇〇 近養久雄
三、〇〇 棚橋テイ
三、〇〇 島名正
三、〇〇 伊部米
三、〇〇 行田時
三、〇〇 村山マサ
三、〇〇 牧野美枝
三、〇〇 佐藤愛子
三、〇〇 井上ミツ
三、〇〇 松村イチ
三、〇〇 鈴木三枝
三、〇〇 長谷川富美
三、〇〇 樋浦フミ
三、〇〇 月橋ミサ
三、〇〇 戸島ミチ
三、〇〇 中村一重
三、〇〇 新澤倭文
三、〇〇 蓮池ヨシ
三、〇〇 木村篤
三、〇〇 阿部智惠子
一、〇〇 横關シヅエ
三、〇〇 清水イツ
三、〇〇 西倉竹子
三、〇〇 高野喜代
三、〇〇 伊藤喜美子
一、〇〇 柴野ハナ
一、〇〇 勝田麻子
二、五〇 五十嵐八重
二、五〇 升田レイ
二、〇〇 倉部玉野
三、〇〇 關矢ミスイ
三、〇〇 小出トミ
一、〇〇 中村クニ
三、〇〇 瀧澤千縫
二、〇〇 富川伊
三、〇〇 桑田敦
、五〇 田代松
五十嵐靜枝
岡本マサイ
竹田花子
佐藤松美
飯川イシ
渡邊正代
小林以志
堀井サチ
立川シメエ
片桐ハル
神林テイ
佐藤ハツノ
鱒絢子
三宮みさを
高橋キン
田中靜枝
田邊トミ
今井ミユキ
西田カズ
三宮雪枝
遠山文子
中村イク
井比キヨ
川合一枝

【東頸城郡】

三、〇〇 蓑輪愛子
三、〇〇 深澤キヨ
三、〇〇 小竹俊子
三、〇〇 梅澤ミチ子
三、〇〇 丸田マサチ
三、〇〇 蓑輪吉子
三、〇〇 我山チヨ
三、〇〇 布施ヒデ
三、〇〇 佐藤やす
三、〇〇 近藤和子
三、〇〇 高橋淨
三、〇〇 瀧澤久子
三、〇〇 小栗喜代
三、〇〇 豊田俊枝
三、〇〇 田邊美知惠
三、〇〇 金井サワ
三、〇〇 本山トミ
三、〇〇 上野ハツ
三、〇〇 横尾ヤス
三、〇〇 内藤智惠
三、〇〇 飯田サヨ
三、〇〇 横尾カウ
三、〇〇 坪野フキ
一〇、〇〇 岩崎英
三、〇〇 米持トク
三、〇〇 關谷キン
三、〇〇 西條ツル
三、〇〇 松野シヅエ
三、〇〇 相澤ミサチ
三、〇〇 五十嵐アヤ
三、〇〇 富川テル
三、〇〇 高波ヨシノ
三、〇〇 渡邊久子
三、〇〇 數井君代

【中頸城郡】

三、〇〇 佐藤益美
三、〇〇 小林シヅエ
三、〇〇 山岸マン
三、〇〇 山崎マサ
三、〇〇 山崎小夜
三、〇〇 内山止代
一〇、〇〇 總山ミサヲ
三、〇〇 内山留
三、〇〇 廣田花子
三、〇〇 吉田雪子
三、〇〇 白鳥滿津江
三、〇〇 丸山フイ
三、〇〇 勝島ヒサ
三、〇〇 竹田フミ
三、〇〇 佐藤キクノ
三、〇〇 矢澤孝子
三、〇〇 宮島サト
三、〇〇 日朝ハツエ
三、〇〇 伊藤イエ
三、〇〇 關澤敏
三、〇〇 藤巻ヨシ
三、〇〇 岩崎トク
三、〇〇 栗原ミキ子
三、〇〇 栗林イツ
三、〇〇 石田ヨシノ
三、〇〇 武とし子
三、〇〇 大澤エツ
三、〇〇 久保田カウ
三、〇〇 高橋タキ
三、〇〇 大濱保子
三、〇〇 小林節子
三、〇〇 下室ミチ
三、〇〇 金子文子
三、〇〇 横山民子
三、〇〇 小熊イチ
三、〇〇 松本俊子
三、〇〇 宮尾サキ
三、〇〇 岡本操
三、〇〇 片桐多禰子
三、〇〇 渡邊キイ
三、〇〇 阿部ツネ
三、〇〇 迎町ハツミ
三、〇〇 青木美枝
三、〇〇 齋藤廣子
三、〇〇 大塚和子
三、〇〇 安藤智惠
三、〇〇 平澤トク
三、〇〇 増村ウタ
三、〇〇 伊野宮チヨ
三、〇〇 遠藤ミサホ
三、〇〇 山本セツ
三、〇〇 田村丁
三、〇〇 郡靜枝
三、〇〇 勝島アキ
三、〇〇 春日千歳
三、〇〇 宇治靜枝
三、〇〇 笠原マン
三、〇〇 宮越ヒサヨ
三、〇〇 笠原ヨシ
三、〇〇 加茂川トシ
三、〇〇 吉原絢子
三、〇〇 小島ミチ
三、〇〇 藤野サチエ
三、〇〇 戸田キミ
三、〇〇 折原スイ
三、〇〇 和田十四
三、〇〇 清水光榮
三、〇〇 近藤エツ
三、〇〇 早川テル
三、〇〇 田中ヨシ
三、〇〇 渡邊しさの
三、〇〇 關間やよえ
三、〇〇 涌井テル
三、〇〇 山本富美惠
三、〇〇 三上すみ子
三、〇〇 江口チヨ
三、〇〇 宮川アエ
三、〇〇 水月つや子
三、〇〇 池田キヨ
三、〇〇 遠藤ステ
三、〇〇 中村ツトイ
三、〇〇 竹澤靜
三、〇〇 間セツ
三、〇〇 塚田ヨシ

三,00 片桐梅野
三,00 久保トミ
三,00 佐藤ウメ
三,00 池田ハナ
三,00 東條リク
三,00 田中ヤソ
三,00 大島ツル
三,00 磯貝ツネ
三,00 內山イト
三,00 鴨井つる
三,00 遠藤ひめ
三,00 藤原小春
三,00 相澤フミ
三,00 德山壽
三,00 柳澤コマ
二,00 日馬幹枝
三,00 横山文子

【西頸城郡】

三,00 青柳ミツ
三,00 子田かれ
三,00 高橋雪江
三,00 渡邊後子
三,00 齋藤あつ子

三,00 中川不二子
三,00 小笠原テル
三,00 寶劍マツエ
三,00 吉田キン
三,00 岩野雪
三,00 田中ミチ
三,00 池島ヒサノ
三,00 廣田イト
三,00 近喰セイ
三,00 金井正
三,00 古橋展
三,00 渡邊スミ
三,00 廣川ハル
三,00 中川正子
三,00 岩崎正
三,00 清水テイ
三,00 磯野一枝
三,00 梅澤春江
三,00 安達キクヱ
三,00 松澤ハツイ
三,00 山岸ユキ子
三,00 高橋興美
三,00 井上キクヱ
三,00 菊地富枝

三,00 阿部マス
三,00 水島よし
三,00 渡邊ミチヱ
三,00 齋藤美江
三,00 樋口きそ
三,00 西天フキ
三,00 白岩嘉
三,00 松井シズイ
三,00 相澤キクヱ
三,00 保坂キヱ
三,00 金子トミ
三,00 保坂タツ
三,00 渡邊トヨ
三,00 石山キク

【岩船郡】

三,00 竹口トヨ
三,00 中村スズ
一,00 平田コト
三,00 蕎岡お妻
三,00 横山カン
三,00 佐々木富子
三,00 館島キヨ
三,00 野村イヨ
三,00 本間靜枝

三,00 大島壽枝
三,00 布施ヒサ
三,00 石田壽美
三,00 神谷靜枝
三,00 野田シメ
三,00 釆野セツ
三,00 阿部キイ
三,00 熊田ナミ
三,00 須貝ヨネ
三,00 佐藤ミネ
三,00 木村ミツ
三,00 藤山セイ
三,00 鈴木千代
三,00 佐藤タイ
三,00 澤村幸惠
三,00 飯田アヤ
四,00 秋山一重
一,00 村田フミ
三,00 小黒千代
三,00 澤田良子
三,00 板垣テイ
一,00 藤村ノブ
三,00 長谷川ヒア
三,00 大浦ツネ

三,00 樋本サト
三,00 須貝ハナ
三,00 石井セウ
三,00 寶田イサ
三,00 中村靜江
三,00 佐藤アイ
三,00 木村ミヨ
三,00 吉田クニ
一,00 伊藤堇
四,00 伊東リク
三,00 鈴木セツ
三,00 平田アヤ
一,00 館島ヤイ
三,00 邊渡知惠
三,00 鈴木ツヨギ
三,00 横山百枝
三,00 本間ハル
三,00 高宮ハル
三,00 安澤操
三,00 野口ヒア
三,00 鈴木フミ
三,00 富樫エヨ
三,00 齋藤二葉
一,00 小室芳枝

三,00 大瀧キヨイ
三,00 內田二三子
三,00 大瀧フナ
三,00 石山タツヨ
三,00 花房トキヱ
三,00 板垣ハルイ
三,00 齋藤ギン
三,00 岩倉初枝
三,00 野澤ハルノ
三,00 山本萬千代
三,00 荒木キヨ
三,00 澤田波
三,00 岩山ミヱ
三,00 木村スズ
三,00 齋藤キミ
三,00 大瀧ヤイ
一,00 相馬リツ
三,00 時田イク
三,00 渡邊カシノ
一,00 渡邊チウ
三,00 兼田しづ
三,00 中村正枝
一,00 大西ミヤ
三,00 畠山チヨ

三,00 富樫キヱ

【佐渡郡】

三,00 摩尼操
三,00 中村トシ
三,00 近松キミ
三,00 笹井シユ
三,00 廣田テル
三,00 渡邊ヒサヨ
二,00 大澤重野
二,00 齋藤ミドリ
三,00 菊池タカ
三,00 川原シズイ
三,00 神藏フミ
三,00 小川チツ
二,00 後藤愛子
三,00 土屋フヂ
三,00 杉崎ヨシノ
三,00 伊里越江
三,00 山田イチ
三,00 本間フサ
三,00 渡邊敏
三,00 大澤チヨ
三,00 菅沼初音

一,00 朝妻はつ江
一,00 逸見フウ
一,00 土屋ツノ
一,00 小瀬川フミ
三,00 小坂ミヨシ
三,00 仲川ハツシ
三,00 田村フミヱ
四,00 岩原はるの
三,00 高松恭子
三,00 高橋タミ
三,00 椎久子
三,00 山本フヂ
三,00 長井靜子
三,00 渡邊サチ
三,00 近藤キリ
三,00 桑野ツネ
三,00 齋藤マサイ
三,00 渡邊入重
三,00 松瀨サダ
三,00 天田久子
三,00 渡邊ヨシ子
三,00 池ミヨ
三,00 後藤キミ
三,00 高昌光子

三,00 角坂美律子
三,00 伊藤トヨ
三,00 岡園登志
三,00 小原黎
三,00 石塚マツ
三,00 山本イシ
三,00 山本タツヱ
三,00 平田ヒサ
三,00 丸田シズ
三,00 丸田マス
三,00 藤澤シヅ
三,00 塚原ミヤ
三,00 石井千代
三,00 本間强子
三,00 矢ケ崎ちさ
一,00 本間ユキ
一,00 増田夕子
一,00 安田トリ
一,00 門間信榮
一,00 桑野和
三,00 守屋フミ

【東京市】

三0,00 山下十夜

一,00 寺田すわ
三,00 小崎禪
三,00 佐藤イツ
三0,00 小林ミチ
10,00 三輪ノブ
三,00 中村イヨ
三,00 古木まき
一,00 峰浄信
10,00 木島春
10,00 新倉フク
三,00 三本ヤス
三,00 樋口イク
三,00 佐々木ウメ
三,00 川瀬ハツ
三,00 鷹見カツ
一,00 近藤ミヨ
三,00 中川糸
10,00 宮入ナヲ
10,00 明治二十五年卒業生一同
三,00 今澤タマ
三,00 川口ヨキ
三,00 近藤マス
三,00 關谷マスミ
三,00 竹下ヲノヘ

三、〇〇　竹田トメ
五、〇〇　吉見リヤウ
五、〇〇　村山ツネ
五、〇〇　相羽マス
二〇、〇〇　野本イク
五、〇〇　大井サダ
三、〇〇　井田カン
三、〇〇　宇都宮イエ
五、〇〇　菊地トシ
三、〇〇　小池キヨ
一、〇〇　野村イナ
五、〇〇　松村キン
三、〇〇　西舘レキ
三、〇〇　池田フミ
三〇、〇〇　長尾ウタ
一〇、〇〇　橋本トシ
五、〇〇　羽島ミノル
六、〇〇　原ヨキ
四、〇〇　金井ミネ
三、〇〇　山岡チセ
五、〇〇　増原ユキ
一〇、〇〇　猪瀬タツ
一、〇〇　東城ヒサヲ
三、〇〇　金子マツホ

五、〇〇　樋口ジュン
五、〇〇　不破けん
三、〇〇　三浦キヨシ
七、〇〇　山田キヨノ
五、〇〇　稲見里恵
三、〇〇　上田甫女
五、〇〇　横田トシ
五、〇〇　川原タイ
三、〇〇　畠山ミハル
五、〇〇　井上ヨシ
五、〇〇　小田ハツ
五、〇〇　松浦さく
一〇、〇〇　合田梅野
五、〇〇　大塲きい
五、〇〇　吉田キク
三、〇〇　玉井ヤス
三、〇〇　中村タケ
五、〇〇　新津スマ
五、〇〇　西　トシ
三、〇〇　本間シヅ
五、〇〇　近藤ノブ
五、〇〇　井田ミネ
三、〇〇　島峯タミ
三、〇〇　諸橋スメル

六、〇〇　石川ノリ
一〇、〇〇　佐々木タケ
六〇、〇〇　平塚ヨシ
三〇、〇〇　山際ミヨシ
五、〇〇　石田ハル
三、〇〇　子田ナサ
三、〇〇　大木キヨシ
五、〇〇　中山ミツ
三、〇〇　北村ノブ
五、〇〇　丸山ヨ子
三、〇〇　眞島ミチ
三、〇〇　阿知波ジウ
五、〇〇　五十嵐セツ
三、〇〇　柳川セツ
三、〇〇　小田イシ
三、〇〇　太田マサエ
五、〇〇　菊地キミ
三、〇〇　霜田テツ
五、〇〇　田村ヨキ
三、〇〇　伊藤フミ
三、〇〇　川島八重
三、〇〇　田畑千代
三、〇〇　望月マサノ
三、〇〇　野口ナヲ

三、〇〇　武藤タミ
三、〇〇　幸田ミサオ
三、〇〇　神成タカ
三、〇〇　久保田ヨネ
五、〇〇　栗林トシ
一、〇〇　小池ミチ
三、〇〇　瀧野トモ
三、〇〇　森山時枝
二〇、〇〇　大淵ヨシ
三、〇〇　木村ヒデ
三、〇〇　小山イネ
三、〇〇　石川厚
三、〇〇　井關トヨ
三、〇〇　横尾ミツイ
三、〇〇　脇野ミサヲ
三、〇〇　廣野フユ
五、〇〇　宇田川隆
三、〇〇　尾崎ハツ
五、〇〇　久保木卓
三、〇〇　富田トシ
三、〇〇　涌井ウメ
三、〇〇　近藤穌
三、〇〇　長谷川美代乃
三、〇〇　石田甫

五、〇〇　小川トシ
五、〇〇　小川ハル
三、〇〇　小宮八重子
三、〇〇　平原キヨ
三、〇〇　小山徳榮
二、〇〇　駒形美都
五、〇〇　田中トマ
五、〇〇　望月良
三、〇〇　井上ミヨ
一、五〇　柳登之
三、〇〇　宮崎シズ
三、〇〇　塚野悦
二、〇〇　吉岡サチ
三、〇〇　會田初枝
三、〇〇　堀江京
三、〇〇　土屋八千穂
三、〇〇　屋井典

【其他】

五、〇〇　小河テル
五、〇〇　加藤かずよ
五、〇〇　矢澤キヨウ
三、〇〇　薄田ヨシ
二、〇〇　遠藤ミネ

五、〇〇　村山ミサホ
五、〇〇　小谷ハル
五、〇〇　雲村郁代
五、〇〇　上田エツ
五、〇〇　石野イセ
六、〇〇　多田セツ
三、〇〇　南部華子
三、〇〇　西川キヌ
三、〇〇　松村セツ
三、〇〇　佐藤シヅ
三、〇〇　長谷川タマ
三、〇〇　増澤ツネ
三、〇〇　猪股ヨシノ
三、〇〇　池山元子
三、〇〇　加藤ヨシノ
五、〇〇　川上ヨシ
三、〇〇　榎タツ
五、〇〇　片山ミリ
三、〇〇　淺野ヨシエ
三、〇〇　眞島タケイ
五、〇〇　阿部ハツ
三、〇〇　太田キヨ
三、〇〇　水野キヨシ
三、〇〇　丸山ノエ

三、〇〇　石橋初枝
三、〇〇　外川カツ
三、〇〇　菅志滿
一〇、〇〇　野上ケイ
五、〇〇　篠原敏壽
一〇、〇〇　大平マツ
一〇、〇〇　根津千代
一〇、〇〇　池田ツル
五、〇〇　岩本タマ
一〇、〇〇　渡部もと
三、〇〇　櫻井あづさ
三、〇〇　晶井レイ
一〇、〇〇　洲崎テツノ
七、〇〇　町田カツ
六、〇〇　宇田川はる
三、〇〇　安原タケ
三、〇〇　平野スイ
一〇、〇〇　島村シン
三、〇〇　柳谷・トシ
五、〇〇　新發田於稍
五、〇〇　長澤ヨシ
一〇、〇〇　關口英子

記念事業會計報告

收入

本校職員寄附	一一三、九〇
附屬小學校職員寄附	一一五、〇〇
同窓會員寄附	五、五七六、五〇
昭和十四年度卒業生寄附	一一三七、〇〇
同窓會寄附（記念號ノ費用トシテ）	一一〇〇、〇〇
校友會寄附（音樂會、運動會及記念號ノ費用トシテ）	三一〇、〇〇
合計	六、五八二、四〇

備考　右ノ外在校生ノ寄附若干アル豫定ナリ

支出豫算

其記念號發行費	五、〇〇
安全運轉看板建設費	五〇、〇〇
居祝賀會會場裝飾費	一〇〇、〇〇
表彰式會場裝飾費	四〇〇、〇〇
謝恩會會場裝飾費	一〇〇、〇〇
運動場整備費	一〇、〇〇
音樂會會場裝飾費	六〇、〇〇
他行事費	四、〇〇〇、〇〇
印刷費	一、〇〇〇、〇〇
通信費	（四五〇、〇〇）
ハガキ、封筒費	一五〇、〇〇
ペン、鉛筆費	一〇〇、〇〇
雜費	一〇〇、〇〇
計	六、一七五、〇〇

備考　(1)支出ノ未決算ニツキ豫算ヲ掲ゲタリ
(2)記念號發行費ノ外同窓會寄附三百圓及校友會寄附三百五十圓ヲ含ミ、合計千四百五十圓ノ豫算ナリ

同窓會本部便り

庶務報告

○會員名簿發行
昭和十四年十二月二十四日發行
本年ハ新入會員及改訂會員名簿ノミトスル。

○會報發行
昭和十四年十二月二十四日發行
會員名簿ト同封ニテ發送ス。

○本部役員會
昭和十五年二月二十四日、土曜午後三時ヨリ校長室ニ於テ
支部長會議開催ニ關シ
1. 昭和十四年度決算及ビ十五年度豫算ニ關シ
2. 會計狀況ニ關シ

○支部長會議
昭和十五年三月十日、正午ヨリ
本校會議室ニ於テ
1. 庶務報告 ｝昭和十四年度分ニツイテ
2. 會計報告 ｝

○同窓會入會式
昭和十五年三月十八日、午後二時ヨリ記念會館ニテ卒業生ノ謝恩會ト合同ニテ行フ。

○役事更迭
轉任ニツキ辭任セル役事
本多キノ氏　桑間市役之上校ヘ
田中タキ氏　鯨波會
新任トシテ新ニ迎ヘタル役事
高井幸次　市內會田校ヨリ
中川千枝　古志郡福戶校ヨリ

○理事ノ更迭
理事濱上虎夫氏ノ御逝去ニヨリ後任トシテ淵崖好夫氏就任。
理事保坂泰一氏南濱尋常高等校長トシテ轉任ニツキ後任トシテ小師町三郎氏就任。

○全國聯合女教員大會出席
昭和十五年六月一日・二日ノ三日間ニ渡リ東京市ニ開催ノ全國聯合女教員大會アリ。
國家會ヨリ役事島倉愛田能。

○母校四十周年記念式典
昭和十五年六月十六日
母校創立四十周年記念式及祭記二千六百餘名ノ卒業生ノ參會ヲ以テ盛大ナル式典及祝賀會ヲナス。參會センモノ數百ヲ數ヘ、未曾有ノ盛會ナリ。

○夏季大講習會
八月九日・十日・十一日ノ三日間
本校體育館ニ於テ
講師　南山高校教授　三浦ヒロ先生
三年間ニ亘ツテノ講師先生ノ熱心ナル御指導ヲ感ジテ他縣ヨリモ會員多數アリ。
一回滿足シテ終了ス。

○本部役員會
十一月五日、名簿ニツイテ部々打合セヲナス。

會計報告

一、通常會計

昭和十四年度決算並昭和十五年度豫算
（昭和十五年三月十日現在）

一、收入之部

項目	昭和十四年度豫算	同決算	昭和十五年度豫算
新入會員入會金	一三五、〇〇	一三五、〇〇	一三五、〇〇
銀行利子	二、〇〇	二、一一	二、一一
前年度繰越金	一〇五、〇〇	一〇一、〇〇	一一〇、〇〇
合計	二四〇、〇〇	二三八、一一	二三七、一一

一、支出之部

項目	昭和十四年度豫算	同決算	昭和十五年度豫算
會館修繕費	八〇、〇〇	八〇、〇〇	一〇〇、〇〇
會誌費	七〇〇、〇〇	二〇三、五五	七〇〇、〇〇
大講習會費	一〇〇、〇〇	七一、一五	一〇〇、〇〇
全國女教員會出席旅費	二〇、〇〇	二〇、〇〇	四〇、〇〇
支部長會議費	六〇、〇〇	六〇、〇〇	六〇、〇〇
本部役員會費	五、〇〇	一、〇八	五、〇〇
送別弔慰費	一五〇、〇〇	八五、五一	一五〇、〇〇
通信費	一五、〇〇	六、七三	一五、〇〇
雜費	二〇、〇〇	—	二〇、〇〇
役員旅費	五〇、〇〇	三一、七四	五〇、〇〇
基本金入	八〇〇、〇〇	八〇〇、〇〇	七〇〇、〇〇
豫備費	九七、七〇	五七、三一	一六九、七五
合計	二〇九七、七〇	一四二八、〇八	二二〇九、七五

一、差引殘高　六八五、五四

附記　基本金　二六四五、一二
　　　特別基本金　三〇四、八九

(二) 特別基本金
(昭和十五年十一月十日現在)

○越高　二八七、八一
○本年度寄附金合計　六〇、〇〇
○利子　六、五九
○總計　三五四、四〇

本年度寄附內譯

五、〇〇　結婚記念　竹田　光枝(高橋)
五、〇〇　支部長退職　畠山　キミ
五、〇〇　結婚記念　星野　順(眞島)
五、〇〇　四十周年記念長谷川クマ
五、〇〇　結婚記念　小松　ユキ(伊佐)
五、〇〇　結婚記念　高野　ヨリ(金山)
五、〇〇　結婚記念　山崎　マキ(小海)
一〇、〇〇　芳志　田中　千之
五、〇〇　結婚記念　阿部　春江(酒井)
五、〇〇　芳志　植木　トシ(大橋)
五、〇〇　結婚記念　桑原　シヅ

○附記

五千圓を目指しての特別基本金も其の足取りたるや誠に遲々として前途尙遼遠。而も會員數は年々增加、新卒業生のみの收入では、良き會誌の發行、良き事業の計畫が出來兼ねる次第であります。

故に、速かに基本金を造成し、其の利子を收入の一部に加へ、同窓會の事業遂行を一層容易ならしめたいと願ふものであります。左に造成の規定を揭げて置きます。何卒奮つて御寄附下さらん事を。

基本金造成ニ關スル規定
(昭和八年十月十八日制定)

第一條　同窓會事業遂行ヲ容易ナラシムル爲特別會計トシテ基金ヲ造成シ毎年度末其ノ利子ヲ次年度ノ一般事業費中ニ繰入ルルモノトス、但シ五千圓ニ達スルマデハ利子モ一般事業費中ニ繰入ルルコトナク基本金中ニ繰入ルルモノトス

第二條　通常會員ハ前條ノ目的ノ爲左ノ場合金五圓以上ヲ同窓會ニ寄附スルモノトス

一、結婚　二、長子出生
三、死亡　四、其他

第三條　本會計狀況ハ毎年支部長會議ニ詳細報告シ其ノ承認ヲ經ベキモノトス

第四條　本規程ハ支部長會議ノ承認ヲ經ルニアラザレバ之ヲ變更スルコトヲ得ズ

死亡通知

左の諸姉が御逝去遊ばされました。
玆に謹んで弔意を表し上げます。

小河　靜	講習	昭一三、九
小林　ミチ(近藤)		明一七、七
渡邊　スイ(山田)		明二七、三
鈴木　淑江	二部	昭　六、三
佐野　サイ(佐野)		明三四、三
國川　マス(吉村)	一部	昭　六、三
横尾　マス(渡邊)	二部	昭　三、三
渡邊　キミ	二部	昭一一、三
齋藤　テイ(小林)	二部	大一四、三
小林　ムツ	二部	明四五、三
林　ハル		明三五、三
寺田　ヤス(山田)		明一九、一一
田澤　カウ(大鋸)		明一四、九

校友會部報

學藝部

校舍の窓から授業中、しばしの憩ひにふと外に目をやると、一面黃金色に染まつた公孫樹の葉が絕えず小さな波を立てゝゐます。何時の間にか硝子戶を明けては授業も出來ない程のそゞろ寒い晚秋の候となりました。

學藝部では今年四月から八百板先生の後を承け繼がれた北原先生の御親切な御指導の下に及ばずながら微力を盡して參りました。

× ×

今年は六月に本校の創立四十周年の記念式が擧げられいろ〳〵本校の行事が多かつた爲に學藝部としては何もする事が出來ませんでした。

本年の十月三十日は敎育勅語渙發五十年に當りますので、私共は當日敎育勅語に關する學藝會を開催致しました。

敎育勅語に關する學藝會順序

一、開會の辭
二、御歷代天皇と敎育勅語　二部一年　洪野　富
三、敎育勅語起草の苦心　一部四年　佐藤　シヅ
四、敎育勅語の意義を拜察し奉りて　二部二年　龍島　幸
五、敎育勅語渙發以前の國情について　專攻科　渡邊　レイ
六、敎育勅語の御精神（レコード）　川村理助氏
七、所感　福本　先生
八、講評　水上　先生
九、閉會の辭

この意義ある日に當つていろ〳〵と參考になるお話をして戴き勅語の有難い御趣旨を一層深く身に體し、その實踐に力めようと覺悟を固めた次第でございます。

× ×

聖戰四年、時局は益々重大となり、あらゆる事が新体制の下に一新せられて、東亞大共榮圈の確立に一路邁進致して居ります。更に今年は輝く皇紀二千六百年、悠久の歷史を承け繼いだ私達の責任は愈々重い事を痛感致します。

これからも時局に關する學藝會を機會ある每に開き、又朗讀學藝會等の新しい試みもやつて見ようかと計畫致して居ります。そして益々學藝部の發展に力を盡し度いと願つて居る次第でございます。（小林、田邊記）

音樂部

部報を書くにあたり、十五年度音樂部員の步んで來た道を靜かに顧みますと、初めの意氣込みに比して、何かしら慚愧に堪へない樣な感のする事を否み得ません。

新學期私達はいろ〳〵の理想を語りそれに對して、積極的に働きかけようと約しましたものゝ實際はそのほんの一端でしかなかつたのを殘念に思ひます。

先づ部員に提供された仕事は
(1) 創立四十周年記念音樂會
(2) レコードコンサートの復活
(3) ハーモニカ、バンドの編成
(4) オルガンの整理及修繕
(5) 二千六百年記念學生音樂大會の出演
でありました。

記念音樂會にはわざ〳〵石井先生、川原先生の御出演を願ひ、近來になく盛會で、附屬、川崎の兒童の歌も中々可愛らしく、春から張

り切つて居た音樂會を六月十六日無事に濟ませた部員は、ほつと滿足致しました。

レコード、コンサートは、以前にはやつてゐたのですが、近年自然に廢れて居たのでした。寄宿舍生活をしてゐる私達は、良い音樂に觸れる機會が至つて少いので、そんな意味から之を再び催す事にしたのであります。

ハーモニカ、バンド編成はもつと早くすべきでしたが、音樂會や國民學校との關係もあつて、漸く二學期から、一週一回綜合練習を行ふ事にしました。

今のところまだ初心者が多い樣ですが、何年か後には立派なバンドの成立する事を希望して居ります。

× ×

部員が音樂會のみの部員で終らないやう出來るだけ力をつくさうといろ〳〵の希望理想を持ちましたがその實行は中々難しく、先生にあれこれと我儘を申し上げて御迷惑をおかけしました事を深くお詫び致します。

音樂を聞き、音樂に働きかけて行く事は、例へそれはつたなくても私達には嬉しいのです。私達は憑かれたやうに音樂に憬れ、慕ひ、音樂に浸ることを欲することがよくあります。

音樂の道をよく地ならしして、みんなの歩みやすくする爲のその石拾ひが私達部員の仕事だと思つて居ます。一歩一歩と音樂的教養を高めて行くには、部員に殘された仕事はまだ〳〵數へ切れぬ程豊富にあります。私達は次の人へバトンを渡す最後まで部の爲に頑張りたいと思ひます。部の年々發展生長して行く事を祈つてこゝに筆をおきます。

雜誌部

「來年はあなたたちの番よ。しつかりね。たのしみにしてゐます。」と希望と激勵の言葉とともに雜誌部のバトンを渡されたのだが……。先生の御監督と五年生の方の御指導のもとに着々と仕事の進んだ昨年、今責任をもつて下さる筈の上級の方はなく、自分が五年生である。六の花として手にすることの出來ないのは大きな失望であつた。しかし皇紀二千六百年並びに創立四十周年の記念誌が發行されることの深い意義。部員の人達の努力が出來上る雜誌のかげに隱されてゐる。この仕事に伴ふ多くの困難を、よく理解して一緒に歩調を合せてやることが大切なのだ。だが、部員のどんな熱心さがあつても駄目。私達のみんなのともである筈の六の花を立派にするためには、全部の協力が要るのだ。こだはらずに素直に、書いてくれるひとの多いことが望ましいのだ。「どうせ」といふ言葉をよく聞く。自分達の雜誌であることをもすこし考へて見たいと思ふ。

來年はどうか知らない。六の花が果たして生れるものやらどうか。もしも出來得るならば部員の方達は無論だがみんな協力していたゞきたいと思ふ。

最後に部員の人達よ。元氣で、たのしく仕事をされんことを。

（昭和十五年九月三十日、佐藤記）

庭球部

明治神宮豫選は、新潟の綜合グランドで行はれた。

準決勝

Game count all Three

審判の聲と共に我等は球を握り、不安の氣持と、どうしても優勝しなければ駄目なのだ球に喰ひついても、と覺悟を決めて立つたのだつた。然し惜しい哉二點の差で敗れた。

負けた當時は口惜しい、と思ふ一方だがそれ

が次第に實力が無いのだもつともつと腕を練らねば駄目なのだとの激勵に變る。然し負けて見なければ眞に勝つ事のむつかしさを知ることが出來ないし、負けた事のない者には心から勝利を祝福することは出來ないであらう此の樣な苦い經驗を味ひ、其の氣持を一年間續け眞面目に練習したら翌年は生まれ變つたチームが成立する事だと思ふが、然し多くは其の闘志が薄らぎ下火になつて行くものだ。

一度ラケツトを手にした以上は、常に宏大なる目的に向つて闘志に滿ち滿ちて行きたい。

我がコートにも四季は訪れる。

綠色が失なはれて褐色が多くなつた此頃には、櫻花爛漫の姿は測る由もないが、誰がハラ〳〵と散る櫻花と憂なき球音と共に遊ぶ我等の氣持を察し得ようぞ。又夏の暑い時蟬の聲に一段と汗を絞られるも、我等は此の木により、そして一杯の水に依つて慰安を與へられ抱擁せられて凡てを忘れ得た。誰が此の快い心境を味はひ得ようぞ。部員でなくしては樂しめない一つである。

暑さも降り坂となれば秋雨がシト〳〵と降り續き我等の心は曇る。然し晴れ渡つた時の喜びを味はふことが出來る。十一月の終りの暦を切る時はもうラケツトをサツクに收めねばならぬし、すると間もなく白雪亂舞の巷と化して誰がどんなものを履きどんな恰好で飛び廻らうと、もうコートに穴のあく心配はいらなくなり、半年の蟄居生活が始まる。そして遲い春が來ても直ちに活動は出來ない我が部なのである。

春風や闘志抱きて丘に立つ。　虚子

共にこんな生活を幾年か繰返して來た。そして害ありて益なかりし自分、思ふと去り難いものがある。然れども望み甚だ大なる部員を有することが心強く、再び過去の榮冠を取り戻して戴ける日を堅く信ずる。

弓道部

「殘つた二人

一心同体となつて部の爲に働かうね」

何邊誓ひ合つたか。何邊神棚の前で拜んだかとかく個人的になり易いみんなの心を集中し部の爲に進まんと

「貴女方こそ純眞になつて先生のお言葉に從つてね」

卒業生のお言葉を守る爲に努めた、下級生の人々を勵ました。

「きつと今年こそ勝たうね」と。

新潟高女での練習試合には見事私達は勝利を得たのだ。然し何と目的の縣の大會には哀しい成績を。よく先生に

「新潟の試合後は貴女方の心は緩んでる。」と叱られた。然し私達はそんなに緩んでるとは思つてゐなかつたがやはり緩んでゐたのだもう涙さへ出る餘地はなかつた。

「神宮豫選にはどうしてもね」すぐその場で誓ひ合つた。傍で聽いて居た人に言はせれば敗者の負け惜みだと嘲笑したかも知れない。然し私達にはそんな考でなかつた。あんなにまで御熱心にお教へ下さる先生に少しでもお報ひしたかつたのだ。私達には合宿練習は許されなかつた。夏季鍛錬期間後は僅か一月餘りしかないのだ。少々焦つて居た。然し遂に報いられたのだ。神宮に出場出來たのだ。どんなに嬉しかつたか。私達は抱き合つて泣いた。之が本當の嬉し泣きだつたのだ。遂にその晩は眠れなかつた。非常に滿足だつた。榮ある歴史をつくる事が出來た譯である。

部員一同胡桃の木蔭で的を張り切れた弦で草鞋をつくり、互に語りあつたが、それも皆過

去の思ひ出となるのかと思ふと一抹の感慨がたなびいて來る。

あんなに高く積まれた雪を掘り割つて、ヒュウ〳〵吹き來る吹雪に弦の音高く的を射た寒稽古。何とも言へない清淨さ、弓を引く人は皆この心を持つてる事であらう。

× ×

勝つた、勝つた。遂に

此の喜びを持つて一心同體となつて練習を續けてより一月、夢の間に過ぎた。先生方の物凄い御指導により腕があがつて行つた。

念々待望の神宮大會、縣、學校、部の代表として實に大きな使命を持つて他の鄕土選士より後れて三十日の夜行で出發、部長先生に伴はれ「シッカリネ」の一言に送られた。實に意味深い語だが十一月一日より開始、息をもつかすに見入る新聞男子一般、大學の二團體は早失格してるのだ。まさか一回戰で敗れる樣な隊はないと思つて居たが、遂にそこに陷つたのだ。團體としての試合故一人の責田の努力のみでは及ばぬことである。之も致し方ない、精々堂々と戰つて居り然も半分してるのだ、こゝまでやつて駄目なのだから致し方ない、遂に御前試合も待たず一日の夜行で歸途についた。部員一同「御苦勞樣」の感激で語り合つた。感激の心で語つた部内は幸福だつた。

皆樣、どうぞ此の感激を忘れずに。

御發展を祈ると共に部のために今後の悔なき試合を、面目を全うされ

「ヨキ部生活」をおくられんことを祈りつゝ

（金井記）

籠球部

部報を書くことになつてふりかへつて二度の試合を見る時結果から言へば不幸にして優勝の機會を逸した。然し私達は唯の一度も勝つことを度外視して試合に臨んだ事はなかつた。それだけ此のチームの力も向上し精神力の大きかつた事を自負してゐる事も强ち許されない事ではないと思つてゐる。何時の何の試合でも勝つてもよく勝たなくともよい試合はあり得ない。戰ふ以上目的は勝つことにある。萬難を排しても勝たねばならない。しかも此の負けじ魂は一部の減は一時の輕りない感情であつてはならない。少くとも部員全部の一時も心から離れない熱情であつて欲しい。減は運動のみが自分の仕事の全部ではないからと考へる人があるかも知れない。然し人の生涯の中にこれだけは自分の最善を盡したと思はれる仕事を持つことはこれから先の生活に取つてどれだけ力强く慰めになるか知れない。折角乘り出した船だ。これから先も師範生活の半分はボールと共にぜられればならない皆だ。自分の最善を盡して戰ひ抜いて貰ひたい。勿論何時の戰にも人間最上の美しい姿で勝たんが爲には精神力と共に實力が具はらればならない。遺憾ながら今迄の敗戰の原因は實力の差にあることを認めない譯には行かない。神宮豫選では實に善闘した。得點の上では唯四點の差でしかない。然し此の四點は精神力のみで越えられる四點ではないたつた四點、二ゴールの差でしかない、實力は伯仲したものだと考へるのは早い。此の四點こそ眞に力あるチームだけが越えることの出來る山なのだ。

幸ひ此の競技には運不運に依る勝敗は斷じてない。精神力と實力さへあれば誰でも優勝出來るのだ。少くとも公平な立場から見て力に於ても籠球王國新潟にあつて他チームにひけを取らないチームを造りあげたい。それには先づもつて各自の力を充實せしめる爲に皆もつと〳〵自分の力を信じてやつていゝ。

と思ふ。やれば自分にも出來ると言ふことな最後迄疑つてならない。劣等感は向上の源泉とはなるが時には向上を阻害することにもなる。

教へられる事に忠實であると共に自分の思ふ事もどし〳〵やつて見たら良いと思ふ。練習の時は小さい失敗を氣にせずに。幸ひ初めてバスケットボール協會に加盟させて頂き、体育館は完成し、どんなに御忙しくとも試合前には必らず御出で下さる先生がゐらつしやる。何も彼も不足ない。何時迄も感謝と美しい氣風とを失はず仲良く部の爲に精進せられんことを希望する。

排球部

三學期

復讐、今までの美しい傳統の復讐を「どうしたつて」。みんなの心はこの意氣に燃えてゐる。寒い。指先きは痛い。思ふ樣にボールはほづまない。然し私達には大きな使命と責任がある筈だ。美しい歷史の第一頁を綴らなければならない私達ではないか。

一學期

コートに出るにも未だ上着かスエターでもつて出ないと風邪を引く樣な四月。雪國の春は遲い。雪の消えるのを待つて「朗らかに」「緊張して」共に勵まし、慰め合ひして意氣新たなる新入生を加へ、來るべき大會を目指して練習にいそしんだ。

六月九日　女子中等學校排球選手權大會、かうゆふ名目の試合に私達は未だ定まらぬ胸を心翻く感じて然し私達には惠まれたコンデーションの日でした。好調を續けて勝利を得事が出來たが其處には今迄連勝して來たチームの涙にむせぶ人々の姿が。

六月二十三日　縣下女子中等學校競技大會美しい靑空、風は濱から吹きつけるが絕好の運動日和、三回戰迄制に樂な氣持で來たが決勝は昨年負された チーム美しい「歷史を」汚して先生先輩に合せる顏もないあの切ない氣持をもつて出ないと風邪を引く樣な四月。雪國の春は遲い。雪の消えるのを待つて「朗らかに」「緊張して」共に勵まし、慰め合ひして意氣新たなる新入生を加へ、來るべき大會を目指して練習にいそしんだ。

六月九日　女子中等學校排球選手權大會、かうゆふ名目の試合に私達は未だ定まらぬ胸を心翻く感じて然し私達には惠まれたコンデーションの日でした。好調を續けて勝利を得事が出來たが其處には今迄連勝して來たチームの涙にむせぶ人々の姿が。

六月二十三日　縣下女子中等學校競技大會美しい靑空、風は濱から吹きつけるが絕好の運動日和、三回戰迄制に樂な氣持で來たが決勝は昨年負された チーム美しい「歷史を」汚して先生先輩に合せる顏もないあの切ない氣持

これにより一層奮起させられ三學期中一日も休まず指先の痛いのも我慢しながら練習した私達ではなかつたか。恐れる事はない。靑空に上るボール九人の心を一つに戰つた。勝利は遂に我が手に、又同時に明治神宮競技大會に縣代表として推薦により出場する事となつた。

八月十六日→八月廿日迄

夏季合宿練習

やつとの事で許された合宿練習。先生から報告を受けた時思はず「嬉しい」と口から出た。

希望に滿々て入舍してより四日間の練習。先輩チームと毎日ゲームをしながらお互ひに腕を伸して行つた。最切つた眞劍な練習が開始された。實際氣持がよかつた。四日間の練習を有意義に過した。もつと練習期間があるといゝなアといふ氣持ちで一杯だつた。

二千六百年奉祝國民體育大會出場

遂に來た！二千六百年國民体育大會に出場する日が、血のにじむ樣な一年間の練習も皆この秋に備へて續けられて來たのだ。昨年は矢張り神宮で三回戰迄戰つた歷史を有してゐるのであるから、今年は必ずそれ以上戰はなくてはといふ强い決心を以つて皆張り切つてゐた。

併しこの夢も二回戰に於て無慘にも敗られたのである。敵は鹿兒島高女。一回戰に勝つた勢に乘じて、しかも不戰勝だつた我々チームに對して非常な力を持つて進んで來た。一セット及二セットの前半迄はぐん〳〵リードしてゐたが、洗練された敵は早くも我チームを見抜き翻子を變へたに反し、我々のチーム

は餘りには素直で一本調子だつた。終ひに敗れた。折角昨年築いた立派な歴史を再び此處で破壞して了つた。今は唯先生に對し先輩の皆樣に對し、又縣下排球部の皆樣に對して心からすまないといふ氣持で一杯だ。

この上はもつと〳〵腕を磨き來年の大會に備へ、この汚れた歴史の一頁を一時も早く拭ひ去つて戴く事を希望します。

昭和十四年度校友會決算及十五年度豫算

收入之部

收入目	十四年度豫算額	同決算額	十五年度豫算額
入會金	三四五、〇〇	三四五、〇〇	三七五、〇〇
（專七、二部四〇、養成一七、一部四一、計一〇五（一人三圓）講四〇（一人一、五圓）			
會費	二、一三五、〇〇	二、二八八、九〇	二、三三九、四〇
（專、本、養在籍二九二名、二八二名トシテ一人七、七〇講四〇名一人四、二〇）			
利子	四、〇〇	一〇、〇三	一〇、〇三
繰越金	五九八、三四	五九八、三四	五五六、九三
客員寄附	一二〇、〇〇	一二九、六六	一二〇、〇〇
雜收入	—	六、八三	—
計	三、二〇二、三四	三、二七八、七六	三、四〇一、三六

支出之部

部名	十四年度豫算額	同決算額	十五年度豫算額
總務部	三三〇、〇〇	一三二、九六	三〇〇、〇〇
籠排部	三〇〇、〇〇	二九九、九三	三〇〇、〇〇
庭球部	一七〇、〇〇	八四、五〇	一二〇、〇〇
卓球部	二〇、〇〇	六、〇〇	一〇、〇〇
雪艇部	四〇、〇〇	三九、五四	七〇、〇〇
弓道部	一五〇、〇〇	一五〇、〇〇	一八〇、〇〇
園藝部	一三〇、〇〇	一二九、七三	一三〇、〇〇
雜誌部	二〇二、〇〇	二〇二、〇〇	二五〇、〇〇
圖書部	四四〇、〇〇	三九七、九一	四〇〇、〇〇
音樂部	一二〇、〇〇	一一八、八六	一四五、〇〇
學藝部	一二五、〇〇	三四、七三	一二五、〇〇
運動會費	六五、〇〇	六五、〇〇	六〇、〇〇
水泳補助	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇
女子中等學校競技大會出場費	一二五、〇〇	一二五、〇〇	二〇一、六〇
夏季練習費	—	—	—
豫備費	八八五、三四	八三五、六七	一、〇〇九、七六
計	三、二〇二、三四	二、七二一、八三	三、四〇一、三六

後記

紀元二千六百年、教育勅語渙發五十周年の意義ある年に我が校が四十周年を迎へたことは、誠に目出度いことであります。この四十周年の記錄として、この記念誌は出來たのであります。

時局柄量の少いのは當然なことでありますが、質は四十周年を記念するに足るべきものであり度いと念願致したのであります。御蔭樣で皆樣の玉稿を頂いて誌上を飾ることの出來たのは何よりでありました。殊に舊職員の先生方から多數御執筆を御願できましたことは、この記念誌に光彩を添へるものであります。御好意には深く感謝致します。

尚卒業生の皆樣、在校の諸先生、生徒諸子の御寄稿に對しましても、深く感謝致します唯編輯員が不慣な關係もあつて、編輯が甚だ行届かなかつたことについては御詫び致さねばなりません。本誌は最初金子正義先生が主として計畫されたのでありますが、途中靜岡中學へ轉任されたので、後の者が代つてやつたのであります。本誌は金子先生の御蔭に依る所が多いのであります。

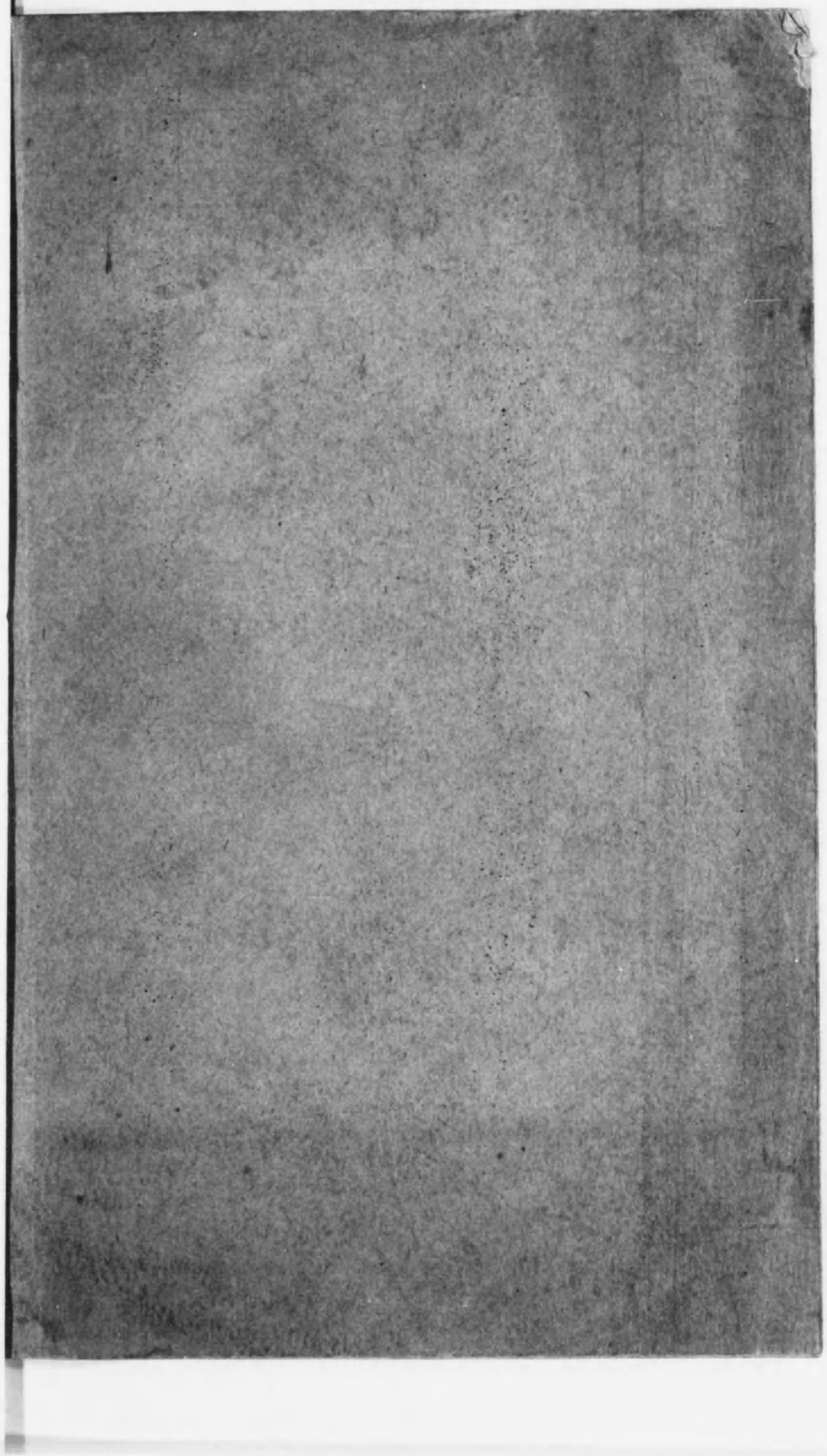
本校職員にて應召された菊池亀太先生は、中支に御歴戰、赫々たる武勳を帶びて先般御歸還になられましたが、御苦勞の積りで只今は新發田陸軍病院に御入院中であります。一日も早く御回復を御祈り致します。長部三代吉先生は樺太にて軍務に御精勵であります。高月柱次郎先生は中支に御奮戰中であります。最前線の本部副官といふ非常な御激務の中を、無理な御願を御容れ下すつて、御寄稿下さいました。両先生の武運長久を御祈り致します。

國運發展の中に目出度く二千六百年を祝ひ學校の四十周年を祝ふことの出來るのも、諸先生の御蔭と思ひまして、皆樣と共に深く感謝致し度いと存じます。

扨次の五十周年には、國運と共に校運も愈々隆盛に赴き、從つて記念誌も立派なものが出來ることを信じまして、本誌の不備を補ふ慰めと致し度いと存じます。（編輯員）

406
363

昭和十五年十二月十五日印刷
昭和十五年十二月二十日發行　【非賣品】

編輯人　新潟縣長岡市東神田町　目黒松治
印刷人　新潟縣長岡女子師範學校　新潟縣古志郡上組村宮内　佐藤庄造
印刷所　同所　佐藤印刷所
發行所　新潟縣長岡市東神田町　新潟縣長岡女子師範學校校友會同窓會

終